指定種別	種　　別	名　　称	員　数	所　在　地	発見場所	指定登録 年月日	時代	備考	ジオサイトとなっているもの	保護保全の状況（無形文化に関しては担い手の問題も含む）
国指定重要文化財	建造物	縁城寺宝筐印塔	1基	京丹後市峰山町橋木873　縁城寺		昭30. 2. 2	正平６（1351）年銘	し、さらにその上に蛤座（はまぐりざ）、框座（かまちざ）、格狭間（こうはざま）・反花座（かえりばなざ）つきの框座という三段の基壇をのせている大規模なもの		
国指定重要文化財	建造物	本願寺本堂	1棟	久美浜町1　本願寺		明37. 2. 18	鎌倉時代：寺伝では建久３（1192）年	丹後で最古の木造建築であると同時に、唯一の中世仏堂遺構として貴重なもので、鎌倉後期のものと見られている。		
国指定重要文化財	彫刻	縁城寺 木造千手観音立像	1躯	京丹後市峰山町橋木873　縁城寺		昭16. 11. 6	平安時代	本尊千手観音菩薩立像は、像高152.4cm、一木造りになる。伏目がちで眼尻の上がった目や、厚い唇のつくりだす表情には平安前期の作風を残しながら、製作は十世紀後半だと推定される。		
国指定重要文化財	彫刻	円頓寺 木造薬師如来及び両脇立日光・月光菩薩像	3躯	久美浜町円頓寺727　円頓寺		昭16. 11. 6	平安時代	薬師如来坐像を中心に、日光、月光両菩薩立像を配す三尊構成になる。像高は、中尊84.5cm、日光菩薩立像137.0cm、月光菩薩立像139.4cmで、各寄木造、漆箔（しっぱく）の像である。		
国指定重要文化財	工芸品	大宮賣神社 石燈籠	2基	大宮町周枳1020番地　大宮売神社		昭37. 2. 2	１基に徳治２（1307）年銘あり	この石燈籠は現在本殿の両脇に立つが、もともと二神にそれぞれ献燈されたものであろう。一基（向って右側）に「徳治二年丁未三月七日　大願主口」の刻銘があり鎌倉時代の石燈籠である。総高266.6cm。一基は無銘だがほぼ同期の作といわれる。総高259.4cm。		
国指定重要文化財	考古資料	方格規矩四神鏡	1面	（京都府宮津市字国分小字天王山611-1丹後　郷土資料館寄託）	京都府京丹後市（旧弥栄町と旧峰山町にまたがって）	平8. 6. 27	大田南5号墳出土：（古墳時代前期）青 龍3年銘（235年）	平成6年、大田南5号墳の石棺内から出土した鏡である。この鏡に記されていた「青龍三年」とは、中国三国時代の魏（ぎ）の年号であり、西暦２３５年に相当する。現在、年号を持つ鏡としては最古のものである。		
国指定重要文化財	考古資料	奈具岡遺跡出土品	1括	（京都府向日市寺戸町南垣内40−3　京都府埋蔵文化財調査研究センター保管）	京丹後市弥栄町溝谷	平16. 6. 26	弥生時代中期	弥栄町溝谷の奈具岡遺跡（なぐおかいせき）では、弥生時代中期にあたる約2000年前の玉作り工房跡が発見された。		
国指定重要文化財	考古資料	丹後湯舟坂2号墳出土品	1括	（京都府宮津市字国分小字天王山611-1　丹後郷土資料館寄託）		昭58. 6. 6	古墳時代後期	古墳は6世紀後半に築造された横穴式石室墳で、発掘調査により黄金に輝く金銅装環頭大刀を初めとする豊富な遺物が発見された。		
国指定	史跡	銚子山古墳　第1、2古墳	17,090㎡	網野町網野小字妹81他		大11. 3. 8	古墳時代中期前半	全長198m、後円部径115m、同高16m、前方部幅80mの日本海側最大の前方後円墳		
国指定	史跡	産土山古墳	1758㎡	丹後町竹野		昭32. 7. 1	古墳時代中期前半	竹野川河口右岸に位置する古墳時代中期、5世紀中ごろに築造された古墳である。昭和14年に発掘調査が行われ、長持形石棺（ながもちがたせっかん）が見つかった。		
国指定	史跡	神明山古墳	13150㎡	丹後町宮小字家の上		大12. 3. 7	古墳時代中期前半	丹後町宮小字家の上に位置する日本海側で最大級の前方後円墳である。墳丘は全長190mを測る。墳丘は3段築成からななり、外部施設として河原石による葺石や丹後型円筒埴輪が認められる。		
国指定	史跡	赤坂今井墳墓	5,288.51㎡	峰山町赤坂		平19. 7. 26	弥生時代終末期	赤坂今井墳墓は中郡盆地から福田川河口域へと抜ける谷の丘陵部先端部に立地する弥生時代終末期（２世紀末～３世紀前半）に造られた大型方形墳丘墓。、弥生時代終末期の日本有数の巨大墳墓		
国指定	史跡	函石浜遺物包含地	66396㎡	久美浜町湊宮		大10. 3. 3	−	東西1km面積約25haであり、区域ごとに出土遺物に差異が認められる。特筆すべきことは、中国『新』王朝（西暦8～24年）に『王莽』（おうもう）が作った通貨、『貨泉』（かせん）が発見されていることである。		
国指定	天然記念物	郷村断層	257㎡	網野町郷小字小池47－1、網野町郷小字樋口680、網野町生野内柱ケ谷186－2		昭4. 12. 17	昭和2（1927）年丹後震災に伴うもの	昭和2年3月7日午後6時27分、丹後地方を大地震（推定マグニチュード7）が襲い、網野から峰山に向かって延長13km（郷村断層）、岩滝から野田川に向かって延長5km（山田断層）の断層が生じた。		
国指定	名勝・天然記念物	琴引浜	−	網野町		平19. 7. 26	−	網野町の北東部に位置する琴引浜は、延長1.8kmの文字通り白砂青松の大変美しい海岸。この琴引浜の砂は、鳴き砂（地元では鳴り砂ともいい、脚をするように歩くとキュッ、キュッという妙なる音がして琴引浜の名の由来となっている。		
国登録		旧口大野村役場庁舎	1棟	大宮町口大野628-1		平11. 7. 8	昭和4（1929）年建造	昭和初期の洋風建築の村役場が建造当初の姿をよくとどめており、貴重なものといえる。		
国登録		稲葉家住宅主屋	1棟	久美浜町土居		平15.1.31	明治23（1890）年建造	歴史的建造物の保存修復を基本に、建物の一部を改修し「豪商稲葉本家」として開館し、活用をはかっている。		
		稲葉家住宅長屋門	1棟				江戸時代末期建造	歴史的建造物の保存修復を基本に、建物の一部を改修し「豪商稲葉本家」として開館し、活用をはかっている。		
		稲葉家住宅南宝蔵	1棟				明治時代中期建造	歴史的建造物の保存修復を基本に、建物の一部を改修し「豪商稲葉本家」として開館し、活用をはかっている。		
		稲葉家住宅北宝蔵	1棟				江戸時代末期建造	歴史的建造物の保存修復を基本に、建物の一部を改修し「豪商稲葉本家」として開館し、活用をはかっている。		
府指定	建造物	丹後震災記念館	1棟	峰山町室1198		平17. 3. 18	昭和4（1929）年建造	設計は京都府庁の旧本館にも携わった京都府技師一井九平(いちいくへい)氏。建物は昭和初期に見られた洋風建築の要素を取り入れたもので、日本建築学会が選ぶ「近代日本の名建築」にも選ばれているなど、その意匠は一定の評価を受けている。		

府指定	建造物	売布神社本殿	1棟	網野町木津小字女布谷65		平15. 3. 14	寛文9（1669）年建造	現在の本殿は寛文九年（1669）三月一日に宮津の大工一宮與次兵衛尉・桐村権兵衛尉・松本徳右衛門達によって建てられたことが、棟札より判明する。本殿は一間社流造、こけら葺建物。丹後地方における一七世紀中期に遡る唯一の神社本殿遺構		
府指定	建造物	神谷神社 本殿	1棟	久美浜町久美浜		昭60. 5. 15	天明元（1781）年建造	本殿は、桁行二間、梁行二間（正面一間）、入母屋造、桧皮葺（ひわだぶき）で妻入とし、一間の向拝を付す。本殿のつくりは、入母屋造（いりもやづくり）の妻入で、出雲地方に多い大社造（たいしゃづくり）の系統ともみることができ、四周に縁をまわすのも大社造の特徴である。丹後半島ではこの形式は他に例がない。		
府指定	建造物	神谷神社 参考館（旧久美浜県庁舎玄関棟）	1棟	久美浜町久美浜		昭60. 5. 15	明治3（1870）年建造	参考館は、慶応四年（明治元年）五月に設置された旧久美浜県の県庁舎の一部分が残されたものである。明治初期における武家屋敷の流れをひく役所建築の遺構としても貴重である。		
府指定	絵画	宗雲寺 絹本著色松井康之像	1幅	久美浜町久美浜1268　宗雲寺		昭63. 4. 15	慶長17（1612）年	画像そのものは桃山時代に描かれたと見て差し支えなく、当時の家老クラスの肖像画として重要な作品である。縦75.2cm横35.6cm		
府指定	絵画	宝泉寺 絹本著色松井与八郎像	1幅	宮津市国分天王山611-1　丹後郷土資料館寄託	久美浜町湊宮1817　宝泉寺	昭63. 4. 15	文禄3（1594）年 玄圃霊三着賛	上畳に坐す若年の武士を描く。桃山時代の肖像画のなかでも傑出した出来栄えの作品として注目される。縦89.9cm　横36.7cm		
府指定	絵画	本願寺 絹本著色当麻曼荼羅図	1幅	久美浜町1 本願寺		昭58. 4. 15	南北朝時代	当麻曼荼羅は 『観無量寿仏経』に基づいた観経変相図の一種で、当麻曼荼羅信仰によって、数々の転写本が作られるが本図もその一つで		
府指定	彫刻	本願寺 木造阿弥陀如来立像	1躯	久美浜町1 本願寺		平6. 2. 18	鎌倉時代	ヒノキ材、寄木造（よせぎづくり）で、漆箔（しっぱく）を施し、彫眼（ちょうがん）とする。鎌倉時代初期の京都仏師による新しい様風を顕著に示している。保存状能もよく、その価値は非常に高いものがある。像高		
府指定	彫刻	成願寺 木造薬師如来及び両脇侍像	3躯	丹後町成願寺1125　成願寺		昭59. 4. 14	平安時代後期	丹波・丹後地方に多くみられる麻呂子親王の草創伝説をもつ薬師三尊像である。三尊は等身の薬師坐像を中央に置き、その左右に三尺余りの日・月幢を持つ日光・月光の両菩薩立像を脇侍として配している。制作は十二世紀末頃と考えられ平安後期の美作として価値が高い。中尊94.0cm、左脇侍112.8、右脇侍112.3		
府指定	工芸品	縁城寺 金銅装笈（附　金銅装笈残闕1個）	1背	丹後市峰山町橋木873　縁城寺		昭59. 4. 14	室町時代	峰山町橋木の縁城寺には室町時代の金銅装の笈が伝えられる。笈（おい）とは修験者などが仏具、経典などを入れ背中に背負うものである。		
府指定	工芸品	溝谷神社 石燈篭	1基	弥栄町溝谷46ノ2　溝谷神社		-	鎌倉時代	社伝では明智光秀奉納と言い伝える。花崗岩製（かこうがんせい）で、八角形、円筒竿、火袋大面取りの石燈篭である。		
府指定	工芸品	円頓寺 熊野十二社権現懸仏	2面	久美浜町円頓寺727　円頓寺		昭58. 4. 15	鎌倉時代	当寺の二面の懸仏は. 必ずしも保存状態は良好とはいえないが、大型の懸仏で鍍金（ときん）を施された各尊像も鎌倉時代の特徴が良くあらわされており、さらに同種の遺品が極めて少ないこともあいまって貴重		
府指定	工芸品	如意寺 木造扁額	1面	（京都府宮津市字国分小字天王山611-1　丹後郷土資料館寄託）	久美浜町2371　如意寺	平4. 4. 14	永仁3（1295）年墨跡あり	扁額は、ヒノキ材製、中央で縦二材矧（ にざいはぎ）。長方形の一重枠で囲まれた内区中央に「如意寺」の寺号を鋤彫りする。建治元年（1275）銘の東京都・天満宮の木造扁額（重文）と近似しており、これも世尊寺流の扁額の書体として注目される。本扁額は保存状態もよく、鎌倉時代に遡る典型的な世尊寺流の書体の扁額として貴重である。縦65.4cm 横		
府指定	古文書	円頓寺 円頓寺惣門再興勧進状	1巻	久美浜町円頓寺727　円頓寺		平3. 4. 19	文亀元（1501）年。三條西実隆清書	この勧進状は、文亀元年（1501）に、当寺の惣門を再建しようとした際に、寺の由緒を述べ、再建への助成を求めたものである。天地に金銀切箔野毛を散らし、美しい料紙に寺の縁起と再興の趣旨を述べる、室町時代後期の勧進状の典型である。		
府指定	歴史資料	宗雲寺 玄圃霊三関係資料	2巻 9幅 6冊 19通	久美浜町久美浜1268　宗雲寺		平11. 3. 19	江戸時代初期	絹本著色玄圃霊三像は、慶長九年（1601）に弟子の雲巌霊圭（南禅寺第二七二世）が絵した肖像画である。玄圃霊三に関する本資料は、桃山時代の丹後地方における宗教・政治・文化状況を理解する上で歴史的に貴重なものである。		
府指定	考古学資料	三坂神社墳墓群出土品	1括	大宮町口大野226番地		平12. 3. 17	弥生時代後期前半	三坂神社墳墓群は京丹後市大宮町三坂に所在し、竹野川右岸の低丘陵尾根上に位置する。墳墓群は、標高68～82メートルの尾根上に階段状に立地し、弥生時代後期に築造された六基の台状墓から構成され		
府指定	考古学資料	奈具岡北1号墳出土品	1括	（京都府向日市寺戸町南垣内40−3　京都府埋蔵文化財調査研究センター保管）	京丹後市 弥栄町	平13. 3. 23	古墳時代中期	奈具岡北一号墳は弥栄町に所在し、奈具岡北古墳群七基のうちの唯一の前方後円墳である。一号墳は全長約60メートル、前方部の幅約26メートル、高さ約3.6メートル、後円部に二基の主体部をもつ。		
府指定	考古学資料	大田南2号墳出土品	1括	（京都府宮津市字国分小字天王山611-1　丹後郷土資料館寄託）	京丹後市弥栄町字和田野	平8. 3. 15	古墳時代前期	大田南古墳群は、弥栄町字和田野に所在し、丹後半島を北流する竹野川の中流域左岸、竹野郡弥栄町と中郡峰山町との町境の丘陵上にある。二号墳は、墳頂部に18メートル×14メートルの平坦面をもつ22メートル×18メートルの方墳と考えられる。主体部は、2.3メートル×0.6メートルの舟底形の木棺で古墳時代前期の古墳である。本出土品のなかで最も注目される遺物は、画文帯環状乳神獣鏡であり、鈕に龍文様を施		
府指定	考古学資料	円頓寺 銅経筒	1口	久美浜町円頓寺727　円頓寺	久美浜町円頓寺小字山の神	昭63. 4. 15	嘉応2（1170）年銘	江戸時代久美浜町円頓寺小字山の神、通称、「山の神経塚」から出土したと伝えるもので、鍛銅製（たんどうせい）。火焔宝珠（かえんほうじゅ）を付した被せ蓋と円筒形の筒身、方形の基壇よりなる。		
府指定	考古学資料	水祭祀遺物（浅後谷南遺跡出土）	18点	網野町公庄		平19. 3. 16	弥生～平安時代	水祭祀遺物は、京丹後市網野町公庄（ぐじょう）にある浅後谷南遺跡で発見された一連の木器群である。弥生時代から平安時代まで継続する集落遺跡である。		
府指定	考古学資料	赤坂今井墳墓出土品	1括	（京都府京丹後市丹後町宮108	峰山町赤坂	平22. 3. 23	弥生時代	国指定史跡赤坂今井墳墓は、弥生時代終末期（2世紀末～3世紀初頭）に築造された大型の墳墓です。		

府指定	無形民俗文化財	黒部の踊子	–	弥栄町黒部		昭59. 4. 14	–	黒部の氏神深田部神社の秋祭りの祭礼に行われる芸能で、大太鼓・腰付・ササラ各六人の踊子と鬼一人で構成され、弓持一人と傘鉾(かさぼこ)三基がそれに付く。風流田楽(ふりゅうでんがく)やその流れをひく風流踊(ふりゅうおどり)の古態をしのばせる芸能であり、芸能史的にも価値が高く重要である。		
府指定	無形民俗文化財	野中の田楽	–	弥栄町野中		昭58. 4. 15	–	この田楽は、字野中として伝承してきた芸能で、大宮神社の秋の祭礼(10月第2日曜日)に奉納される。女装の少年によるビンザサラ四人・手拍子一人と青年による太鼓四人が笛・鼓のはやしで演じる田楽躍で、①飛び開き　②ハグクミ　③ササラ踊り(オリワゲ)④手踊り　⑤扇の舞(ユリ舞とも)とよぶ基本芸能がある。		
府指定	無形民俗文化財	舟木の踊子	–	弥栄町舟木		昭59. 4. 14	–	舟木の氏神奈具神社の祭礼に行われる芸能で、大太鼓・カンコ・ササラ各四人の踊子と鬼一人で構成され、傘鉾一基がそれに付く。鬼以外はすべて少年の役であり、大太鼓の持手を勤める最年長者を「大将」と呼び、大将が踊子を統率する。		
府指定	史跡	湧田山古墳群	約9375㎡	峰山町丹波・矢田		昭63. 4. 15	古墳時代中期	丹波と矢田の字界の丘陵上に立地し、大型前方後円墳を盟主とし、大小の円墳を主体として構成される総数約42基からなる丹後地方屈指の古墳群である。		
府指定	史跡	大宮賣神社境内	–	大宮町周枳小字北村・ヲサ 大宮売神社		昭61. 4. 15	古墳時代～平安時代	大宮売神社は、大宮町周枳の集落内に南面して鎮座している。境内は祭祀遺跡(さいしいせき)としても著名であり、弥生時代から平安時代にいたる遺物が多数出土しており、とりわけ古墳時代の石製模造品、手づくね土器が多い。当社は古代祭祀の場が神社となったことは明らかであり、古社としての景観も保たれており、きわめて重要な歴史的意義を		
府指定	史跡	黒部銚子山古墳	–	弥栄町黒部		昭58. 4. 15	古墳時代中期	本古墳は、弥栄町黒部、竹野川右岸の丘陵端部に立地する大型前方後円墳である。規模は全長105m、後円部径70m、高10mを測り、前方部は東南を向く。		
府指定	史跡	遠處遺跡製鉄工房跡	–	弥栄町木橋小字遠處		–	古墳時代中期～奈良時代	須恵器窯跡(すえきかまあと)のほか、木炭窯跡、製鉄炉跡、鍛冶炉跡(かじろあと)、竪穴住居跡、掘立柱建物跡、流路など古墳時代から平安時代に至る各種遺構が、造成予定の丘陵一帯から検出された。		
府指定	史跡	高山12号墳	–	丹後町徳光		平15. 3. 14	古墳時代後期	丹後地域最大の横穴式石室であり保存状態もよく出土遺物も傑出して		
府指定	史跡	湯舟坂2号墳	–	久美浜町須田小字鳥ノ奥		昭58. 4. 15	古墳時代後期	川上谷川の支流の左岸の緩やかな斜面に位置する。6世紀後半に築造された横穴式石室墳で、発掘調査により黄金に輝く金銅装環頭大刀を初めとする豊富な遺物が発見された。		
府指定	名勝	宗雲寺 庭園	383㎡	久美浜町久美浜1268　宗雲寺		昭59. 4. 14	江戸時代後期。享和元(1801)年前後か	常喜山宗雲寺は久美浜駅の西方700m、小さな谷の奥に位置する臨済宗南禅寺派の寺である。寺伝によると、もと天台宗に属したが、永享四年(1432)近衛家の出身である千畝周竹(せんみょうしゅうちく)を開山として招き、禅院として再興された。		
府指定	天然記念物	アベサンショウウオ基準産地	–	大宮町善王寺小字姫御前		平5. 4. 9	–	昭和59年4月に京都府の天然記念物として種が登録されたアベサンショウウオ　学名(Hynobius　abeiSATO)は、両生類で、成体の体長は8～12cm、体部の背面は暗褐色、腹面は灰青色または淡褐色を呈する。その生息地は丹後地域の大宮町、峰山町、網野町、弥栄町及び兵庫県の北部で拠点的に確認されている。歴史は、昭和七年四月に当時の中郡長善村姫宮神社(現大宮町善王寺姫御前)付近の竹林内の水溜りで、学童が種不明の小型サンショウウオの幼生を見つけたことに始まり、新種アベサンショウウオの基準産地として重要なものである。		
府登録	建造物	多久神社 本殿	1棟	丹後市峰山町丹波小字涌田山2番　多久神社		平16. 3. 19	文化11(1814)年建造	一間社隅木入春日造、こけら葺、建物を彫刻で飾り、軒桁を持ち出して屋根を大きく見せ、正面に唐破風をつける。大工は丹後を中心に活躍した吉岡嘉平で、また細部を飾る彫刻が優れている神社本殿遺構として		
府登録	建造物	興法寺本堂	1棟	弥栄町小原　興法寺		平12. 3. 7	天保元(1830)年建造	興法寺は、弥栄町の南端にある小原山の山頂付近に所在する、真言宗の寺院で小原山興法寺と号し、本尊聖観音菩薩を祀る。寺は和銅元年(708)に遍然上人(へんねんしょうにん)によって開創されたと伝える。		
府登録、市指定	建造物	日吉神社本殿	1棟	網野町浅茂川 小字日吉山1496　日吉神社		平5. 4. 9、平16. 2. 13	文政10 (1827)年建造	文政10年(1827)の再建で、彫刻は彫物師中井の第六代権次正貞の手による。当本殿は、江戸後期のこの地域を代表する社殿といえる		
府登録	建造物	竹野神社 本殿	1棟	丹後町宮　竹野神社		昭60. 5. 15	文政13 (1830)年建造	本殿は規模の大きな一間社流造(いっけんしゃながれづくり)で、身舎正面には双折れ桟唐戸をたて、側面は二間につくる。総体に装飾が抑制された簡素な建物で、妻飾りも台輪上に三斗(みつど)をおいて妻虹梁(つまこうりょう)をうけ、その上に豕叉首(いのこさす)を組む。末社斎		
府登録	建造物	竹野神社 末社斎宮神社本殿	1棟	丹後町宮　竹野神社		昭60. 5. 15	文政13 (1830)年建造	現在の社殿は文政十三年(1830)に再建されたもの である。本殿は規模の大きな一間社流造で装飾が抑えられた 荘厳な建物であり、斎宮神社本殿は対照的に小振りな一間社 流造で賑やかな装飾を有している。中門は神社の門としては 珍しい向唐門の派手な印象を与える建物で、いずれも京都府 登録文化財として指定されている。		
府登録	建造物	竹野神社 中門	1棟	丹後町宮　竹野神社		昭60. 5. 15	文政年間頃建造	中門は神社の門としては 珍しい向唐門の派手な印象を与える建物,神社の門としては珍らしい向唐門(むかいからもん)で、左右に桟敷舎(さじきしゃ)と神輿庫(みこしこ)を付属する。		
府登録	建造物	神谷神社 神門	1棟	久美浜町久美浜　神谷神社		昭60. 5. 15	江戸時代後期建	本殿の正面にあり、四脚門で、内部は格天井を張る。江戸後期の特徴		
府登録	建造物	神谷神社 境内社八幡神社本殿	1棟	久美浜町久美浜　神谷神社		昭60. 5. 15	江戸時代末期建造	神社本殿は、小規模なこけら葺一間社流造(いっけんしゃながれづくり)で正面に軒唐破風(のきからはふ)が付く。全体の意匠は独創性に富ん		
府登録	建造物	神谷神社 鳥居	1基	久美浜町久美浜　神谷神社		昭60. 5. 15	宝永4(1707)年建造	石造明神鳥居で、宝永4年(1707)に建てられたものである。八幡山の山麓に巨石を擁し、自然崇拝の「磐座」の様相を呈している。		

府登録、市指定	絵画	慶徳院 ″方丈障壁画(長沢芦州筆)	44面	峰山町五箇1792　慶徳院		昭58. 4. 15　昭60. 3. 28	江戸時代後期 文政6（1823）年	長沢芦洲(ながさわろしゅう)(1767～1847)が描いた四十四面の障壁画が残されている。長沢芦洲は、円山派の奇才長沢芦雪の儀子で、文化・文政期の京都画壇にあって一家をなし活躍した。		
府登録、市指定	絵画	岩屋寺 絹本著色釈迦十六善神像	1幅	大宮町谷内241・242－1 岩屋寺		昭58. 4. 15　昭60. 7. 1	鎌倉時代後期	鎌倉時代まで上る丹後地方で最も古い作例の一つである。		
府登録、市指定	絵画	岩屋寺 絹本著色地蔵菩薩像	1幅	大宮町谷内241・242－1 岩屋寺		昭58. 4. 15　昭60. 7. 1	鎌倉時代後期	左手に宝珠(ほうじゅ)を持ち右手に錫杖(しゃくじょう)を持つ地蔵菩薩が雲に乗って来迎する姿を描いた、いわゆる地蔵来迎図(じぞうらいごうず)である。		
府登録、市指定	絵画	岩屋寺 絹本著色五大尊像	1幅	大宮町谷内241・242－1 岩屋寺		昭58. 4. 15　昭60. 7. 1	鎌倉時代中期：寛元4(1246)年軸木銘	五大尊像は、不動明王を中心として降三世(ごうざんぜ)・軍荼利(ぐんだり)・大威徳(だいいとく)・金剛夜叉(こんごうやしゃ)の四明王を配するもので、本図のように五尊を一幅に描くもののほか、五幅に描きわけるものもある。縦120.4×横70.5		
府登録、市指定	絵画	岩屋寺 絹本著色毘沙門天像	1幅	大宮町谷内241・242－1 岩屋寺		昭58. 4. 15　昭60. 7. 1	鎌倉時代後期	左手に戟(げき)、右手に宝塔(ほうとう)を捧げ、二童子と眷属(けんぞく)を従えて立つ毘沙門天像(びしゃもんてん)を描く。 そのきれいに整理された描線、金泥を多用する彩色からみて、鎌倉後期の制作と思われ、当代天部画像の典型的な作例といえる。縦118.1×横57.8		
府登録、市指定	絵画	竹野神社 紙本著色斎宮大明神縁起	1巻	京都市東山区茶屋町527 京都国立博物館　寄託	丹後町宮　竹野神社	平3. 4. 19　昭61. 5. 19	江戸時代(17世紀)	竹野神社に所蔵する紙本著色巻子装の絵巻。清園寺縁起(せいおんじえんぎ)、等楽寺縁起(とうらくじえんぎ)とともに麻呂子親王説話を絵画化した作品である。		
府登録、市指定	絵画	竹野神社 紙本著色等楽寺縁起	1巻	京都市東山区茶屋町527 京都国立博物館　寄託	丹後町宮　竹野神社	平3. 4. 19　昭61. 5. 19	桃山時代(16世紀)	竹野神社に伝わる紙本著色巻子装の縁起絵巻。独立した詞書(ことばがき)はなく、連続して展開する絵のみで構成され、適宜画面の所々に説明の文章を書込む。この縁起絵は、麻呂子親王(まろこしんのう)(この縁起では「皇子＝わうし」とのみ記される)による丹後の鬼賊退治、七仏薬師分置という寺の創建の物語を描く。		
府登録	古文書	本願寺文書	14通	久美浜町1　本願寺		平5. 4. 9	鎌倉時代～江戸時代	本文書は、当寺に伝わった鎌倉時代から江戸時代にかけての14通の文書からなる。内容は寺の由緒に関わるもの、寺領に関わるもの、千体仏に関わるもの、丹後から文禄の役に従軍した武将が肥前の状況を伝えているものなどの内容を含むもので、本文書は、中世における地方浄土宗寺院の実態及び近世初頭における当地域の歴史を物語る寺院文		
府登録	考古学資料	カジヤ古墳出土品	1括	峰山町大字杉谷小字カジヤ		昭62. 4. 15	古墳時代前期	、竪穴式石室一、木棺直葬三の合計四つの主体部と多くの副葬品が発見された。副葬品は銅鏡・鉄器類・玉類・石製腕飾類等からなるが、特に注目されるのは鍬形 石、車輪石、石釧等の石製腕飾類が一括して出土したことで、丹後地方では初めての例である。		
府登録、市指定	無形民俗文化財	丹波の芝むくり	－	峰山町丹波		昭60. 5. 15 昭61. 3. 29	－	芝むくりは丹波地区の氏神多久神社の秋祭り(十月の第二日曜日)の祭礼に行われる芸能である。先導一人、太鼓打六人、猿役二人の構成で、巡行する神輿に先行し、所定の要所で演じられる。		
府登録、市指定	無形民俗文化財	五箇の三番叟	－	峰山町五箇		昭61. 4. 15 昭61. 3. 29	－	五箇地区の氏神愛宕神社の秋祭(十月十日)に奉納される芸能で、本殿前にしつらえた板敷の舞台で演じられる。この三番叟は、舞手三人、鼓(カシラ)、鼓(シリ)、大鼓(オゝド)、カゲ、笛(現在・欠)という囃子方四人、及び後見によって行われる。歌舞伎色の強いもので、近世後期この辺に流行した農村歌舞伎とかかわる伝承であり、文化・文政期にさか		
府登録、市指定	無形民俗文化財	周枳の三番叟・笹ばやし・神楽	－	大宮町周枳		昭61. 4. 15 昭61. 7. 21	－	大宮町周枳の氏神大宮売神社の秋祭に奉納される芸能である。神輿巡行(みこしじゅんこう)、太刀振などとともに行われる祭礼行事の一つであり、それぞれの組によって伝承される。三番叟・笹ばやしとともに三役と呼びならわされる一連の奉納芸であり、民俗芸能として貴重であ		
府登録	無形民俗文化財	竹野のテンキテンキ	－	丹後町竹野		平4. 4. 14	－	このテンキテンキは、竹野神社の秋祭りの祭礼(十月第二日曜日)に行われる民俗芸能である。テンキテンキの名は、踊子たちが唱える掛け声に基づくもので、本来は踊子の名で伝えられたものと考えられる。中世的な囃子物(はやしもの)の伝承であり、風流踊(ふりゅうおどり)の古態を示すものとして資料的価値が高い。		
府登録	無形民俗文化財	遠下のちいらい踊	－	丹後町遠下		平6. 2. 18	－	丹後町遠下の、依遅神社(いちじんじゃ)の祭礼に、太刀振とともにちいらい踊が奉納される。現在、ちいらい踊は太刀振の中に組み込まれる形で伝えられており、この踊は、踊り子と呼ばれる六人の少年によって演じられる。ちいらい踊は中世囃子物(ちゅうせいはやしもの)の流れを汲む風流踊であり、これらの踊は、丹後に「笹ばやし」と呼ばれ広く分布する小歌系の風流踊よりも、さらに古い伝承であり、貴重な民俗芸能で		
府登録	無形民俗文化財	大山の刀踊	－	丹後町大山		平7. 3. 14	－	丹後町大山の志布比神社(しふひじんじゃ)の祭礼(十月第二日曜日)に刀踊が奉納されている。踊は、シンパチー人、棒振二人、刀踊大勢(年により増減)、キヤーモチカキ四人、囃子方(はやしかた)は太鼓打ち二人、太鼓持ち二人、歌うたい二人で構成される。踊そのものは、さらにそれを遡る中世末期の囃子物と呼ばれた踊の様式。		
府登録	無形民俗文化財	市野々しょうぶ田植	－	久美浜町市野々		昭58. 4. 1	－	この菖蒲田植は氏神・天満神社の五月五日の祭礼行事とされるものである。青年達の歌う田植歌に合わせ、輪になった少年達が中に積まれた菖蒲をつかんでは空高く投げ上げるというものである。丹後地方に今日まで伝承された唯一の御田植神事系の行事であり、歌われる田植は中世歌謡に共通するところのある貴重なものである。		
府登録	無形民俗文化財	甲坂の三番叟	－	久美浜町甲坂		昭61. 4. 15	－	甲坂地区の氏神山本神社の秋祭に奉納される芸能である。三番叟は、一番叟・二番叟・三番叟とよぶ舞方三人、本笛・影笛・小鼓・大鼓・影打と称する座方五人、及び警固数人で行われる。		

府登録	無形民俗文化財	栃谷の三番叟	–	久美浜町板谷		昭61. 4. 15	–	栃谷地区の氏神深谷神社の秋祭（十月十七日） に奉納される芸能で、社殿下に建つ常設舞台で演じられる。三番叟は、一番叟・二番叟・三番叟とよぶ舞子三人、喋子役である本笛・影笛・本鼓・影鼓・大鼓（おゝど）・カゲ打ち各一人の座方によって行われ、カゲ打ちが地謡役（ぢうた		
府登録	無形民俗文化財	河梨の十二灯	–	久美浜町河梨		平元. 4. 14	–	河梨をあげての共同体の火祭りで、八月二十三日夕方に行われる。その家々から1人ずつ男子が出て作業に当る。十二灯は、長さ8.5mほどの檜の真柱に青竹でほぼ正三角形の枠を取付け、十二灯の松明は直径20cm、長さ50cmほどのもので、真柱のてっぺんに立てる。それぞれの位置に取付けられ、揃ったところで又木や綱を用いて直立させ、愛宕山の方に向けて固定し炎上させる。		
府登録	無形民俗文化財	布袋野の三番叟	–	久美浜町布袋野		平12. 3. 17	–	布袋野（ほたいの）の氏神は河上三神社で、毎年四月第二日曜日の祭礼に神社境内にある舞堂で三番叟が行われている。		
府登録、市指定	天然記念物	アベサンショウウオ	–	丹後地方全域		昭59. 4. 14 平13. 3. 27	–	昭和５９年４月に京都府の天然記念物として種が登録されたアベサンショウウオ　学名（Hynobius　abeiSATO）は、両生類で、成体の体長は8～12cm、体部の背面は暗褐色、腹面は灰青色または淡褐色を呈す		
府	環保全地区	竹野神社文化財環境保全地区	–	丹後町竹野　竹野神社		昭60. 5. 15	–	竹野川の河口近く、国史跡神明山古墳（古墳時代前期・四世紀末～五世紀）の傍らに鎮座し、「延喜式」神名帳に記される竹野郡竹野神社に比定される。河口近くから、山ふところの神社までのびる松並木の参道は400メートルにも及び、独自の景観をつくっており、保存にも努力が続		
府	環保全地区	神谷神社文化財環境保全地区	–	久美浜町久美浜　神谷神社		昭60. 5. 15	–	当社は久美浜湾を北に臨む久美浜町南西部に鎮座し、通称「太刀宮」という。		
府	環保全地区	多久文化財環境保全地区	–	峰山町丹波・矢田		平16. 3. 19	–	多久神社は峰山町丹波小字涌田山に鎮座する。一間社隅木入春日造、こけら葺、建物を彫刻で飾り、軒桁を持ち出して屋根を大きく見せ、正面に唐破風をつける。背後には湧田山古墳群があり、社叢を形成し		
府選定	景観	久美浜湾の牡蠣棚	–	久美浜町湊宮・大向・河内		平20. 3.21	新選定！！	久美浜湾内西の河内湾の牡蠣棚は規模が最も大きく、砂嘴の西端を視点場として南側を見渡したときの、牡蠣棚と背後の山地が織りなす風景は、地域の代表的景観といえる。		
市指定	建造物	大宮賣神社 旧本殿	1棟	大宮町周枳1020番地　大宮売神社		昭60. 7. 1	元禄8（1695）年頃伝	後大震災により本殿の上屋が倒壊したので昭和5年新しく本殿を造営し、旧本殿を忠霊社としている。丹後半島では珍しい隅木入春日造で、間口7尺、屋根は切妻と軒唐破風を組み合せて変化ある優れた外観を		
府登録市指定	建造物	日吉神社本殿	1棟	網野町浅茂川小字日吉山1496　日吉神社		平5. 4. 9 平16. 2. 13	文政10（1827）年建造	本殿は一間社としては規模が大きく、側・背面では中央に柱をたて二間としている。入母屋造（いりもやづくり）・妻入（つまいり）で、正面に軒唐破風（のきからはふ）付の向拝（こうはい）をつける。文政10年（1827）の再建で、彫刻は彫物師中井の第六代権次正貞の手による。		
市指定	建造物	蓮華寺 元尾坂寺宝筐印塔	1基	網野町島津2940　蓮華寺		昭51. 3. 1	室町時代	この塔は、元、尾坂寺にあったもので、尾坂地区の廃村により、島津の内田家へ移され、現在は島津の蓮華寺に保管されている。室町時代の作と考えられており、気品高く、すぐれた石造文化財であるとともに、この時代の特徴をよく備えた塔として貴重なものである。		
市指定	建造物	本願寺 勅使門	1棟	久美浜町1　本願寺		昭58. 4. 1	建久3（1192）年伝	鎌倉時代初期の建築様式を伝える建築物として貴重である。		
市指定	建造物	円頓寺 本堂	1棟	久美浜町円頓寺727　円頓寺		平3. 7. 15	桃山時代。万治年間（1658～60）に城崎温泉寺福聖寺本堂を移	本堂は桃山時代の建築、総欅造り。万治年間（1660）城崎温泉寺の福聖院本堂を移したものである。単層宝形造り。3間4方。建坪24坪。		
市指定	建造物	円頓寺 仁王門	1棟	久美浜町円頓寺727　円頓寺		平3. 7. 15	享保7（1722）年建立	仁王門は享保7年（1722）祐詠法印代に建立、木造単層入母屋造り、茅葺建8坪。仁王像2体は鎌倉時代の作、木造高さ240cm。		
市指定	建造物	宗雲寺 宝筐印塔	1棟	久美浜町久美浜1268　宗雲寺		平3. 7. 15	長禄2（1458）年銘	宗雲寺の開山碑といわれ、宝珠・相輪・笠部・塔身・基礎各部に損傷殆んどなく完全に保存されている。塔姿は優雅で各部に時代的特徴を残し、長禄2年（1458）の刻銘がある。年代・塔姿・大きさ等、保存状態から見ても優れた文化財であり、京丹後市指定文化財となっている。		
市指定	建造物	八幡神社 本殿	1棟	久美浜町鹿野224　八幡神社		平3. 7. 15	天保2（1831）年	本殿は、棟札から天保二年に造営されたことがわかっています。建築は三間社・切妻造りの様式で、古い神殿形式の建物。		
市指定	建造物	売布神社 本殿	1棟	久美浜町女布724　売布神社		平3. 7. 15	明和6（1769）年伝	現社殿は明和六年（1769）の造営になると伝えられるが、確かな記録敷は見当らない。やす妻は二重虹梁太瓶束で、下段の虹梁を出組で一手先付出すという、与謝・丹後地域における標準的な架構法が採用されている。向拝廻りを除くと装飾的要素は少なく、復古的な気分の強い仕上		
市指定	建造物	三島田神社 本殿	1棟	久美浜町金谷		平3. 7. 15	天保13（1842）年	現在の本殿は、棟札により天保十三年（1842）に近在の金谷村の大工が建てたことがわかる。向拝中央間の竜の彫物の背面に陰刻した銘「彫物師、丹劦相原町住人、中井権次正貞」は、建物の随所を飾るすぐれた彫物の作者を示す。		
市指定	建造物	丸山区 法華経大石塔	1棟	久美浜町丸山		平3. 7. 15	天明元（1781）年銘	総高3.33mの石造物。地元の伝承によれば石塔は法華経69,348字を一石一字記したものを埋納した上に建てられたと言う。この題目の文字は深い所で13cmもあり、その加工技術も町内の石塔中最高である。		
府登録市指定	絵画	慶徳院 ″方丈障壁画（長沢芦州筆）	44面	峰山町五箇1792　慶徳院		昭58. 4. 15 昭60. 3. 28	江戸時代後期 文政6（1823）年	長沢芦洲（ながさわろしゅう）（1767～1847）が描いた四十四面の障壁画		

市指定	絵画	縁城寺 絹本著色十王図	2幅	丹後市峰山町橋木873　縁城寺		昭60. 3. 28	明:陸信忠筆	揃物の十王図のうちの「宋帝大王」と「五官大王」の2幅が残ったもので、各幅に「慶元府車橋石板巷陸信忠筆」の款記(かんき)があります。陸信忠(りくしんちゅう)は、今から約800年前、宋時代の初めの寧波(ねいは)の画工で、中世日本へ輸入されたその十王図や羅漢図(らかんず)等は少なくないといわれている。		
市指定	絵画	縁城寺 絹本著色倶生神像	1幅	丹後市峰山町橋木873　縁城寺		昭60. 3. 28	南北朝時代	南北朝時代の作と推定される絹本著色倶生神像		
市指定	絵画	縁城寺 絹本著色如意輪観音像	1幅	丹後市峰山町橋木873　縁城寺		昭60. 3. 28	南北朝時代	画風からみて、南北朝時代の頃の製作と推定され、描写も当時の仏画の典型的手法によって描かれる。縦84.3cm　横38.8cm		
市指定	絵画	常立寺 絹本著色釈迦十六善神像	1幅	丹後市峰山町吉原68　常立寺		昭60. 3. 28	南北朝時代	常立寺の十六善神像は、南北朝時代の作と推定される。箱書によると、もと高野山自昌院の什物と伝えられている。		
市指定	絵画	常立寺 絹本著色不動明王像	1幅	丹後市峰山町吉原68　常立寺		昭60. 3. 28	南北朝時代:妙沢筆	款記はないが描写からみて妙沢の作と考えられる。妙沢は龍湫周沢といい、天竜寺の夢想国師に師事し、同寺の寿寧院に住し、鎌倉後期から南北朝時代に生きた人である。		
市指定	絵画	常立寺 絹本著色京極家歴代藩主肖像画	12幅	丹後市峰山町吉原68　常立寺		昭60. 3. 28	江戸時代	丹後峰山藩主だった京極家初代藩主京極高通(安泰院)の肖像画が残る。		
府登録 市指定	絵画	岩屋寺 絹本著色釈迦十六善神像	1幅	大宮町谷内241・242－1 岩屋寺		昭58. 4. 15 昭60. 7. 1	鎌倉時代後期	本図は鎌倉時代まで上る丹後地方で最も古い作例の一つである。ただ、本図には釈迦の脇侍の文殊普賢(もんじゅふげん)の両菩薩や玄奘(げんじょう)が描かれず、梵天(ぼんてん)、帝釈天(たいしゃくてん)を加えて十六善神の形をとっていて、釈迦十六善神像の中でも珍しい形式のものである。縦105.2×横78.1		
府登録 市指定	絵画	岩屋寺 絹本著色地蔵菩薩像	1幅	大宮町谷内241・242－1 岩屋寺		昭58. 4. 15 昭60. 7. 1	鎌倉時代後期	左手に宝珠(ほうじゅ)を持ち右手に錫杖(しゃくじょう)を持つ地蔵菩薩が雲に乗って来迎する姿を描いた、いわゆる地蔵来迎図(じぞうらいごうず)である。		
府登録 市指定	絵画	岩屋寺 絹本著色五大尊像	1幅	大宮町谷内241・242－1 岩屋寺		昭58. 4. 15 昭60. 7. 1	鎌倉時代中期：寛元4(1246)年軸木銘	五大尊像は、不動明王を中心として降三世(ごうざんぜ)・軍荼利(ぐんだり)・大威徳(だいいとく)・金剛夜叉(こんごうやしゃ)の四明王を配するもので、本図のように五尊を一幅に描くもののほか、五幅に描きわけるものもある。縦120.4×横70.5		
府登録 市指定	絵画	岩屋寺 絹本著色毘沙門天像	1幅	大宮町谷内241・242－1 岩屋寺		昭58. 4. 15 昭60. 7. 1	鎌倉時代後期	左手に戟(げき)、右手に宝塔(ほうとう)を捧げ、二童子と眷属(けんぞく)を従えて立つ毘沙門天像(びしゃもんてん)を描く。 そのきれいに整理された描線、金泥を多用する彩色からみて、鎌倉後期の制作と思われ、当代天部画像の典型的な作例といえる。縦118.1×横57.8		
市指定	絵画	岩屋寺 絹本著色楊柳観音像	1幅	大宮町谷内241・242－1 岩屋寺		昭60. 7. 1	室町時代	寺伝によれば巨勢金岡の筆とされ、優麗繊細で気品高く優れた作品である。作風からみて室町時代の作品と推定される。		
市指定	絵画	岩屋寺 大江山鬼退治絵巻	2巻	大宮町谷内241・242－1 岩屋寺		平2. 3. 15	江戸時代初期	江戸中期すでに「頼光妖賊退治の図　巻物二軸」(『丹哥府志』)として知られるもので、箱書には「大江山絵伝上下並縁起壱巻」とあり、詞書は岩屋寺十世の光研和尚が酒呑童子の詞書を撰述、書写したもので、この詞書は大江町の鬼茶屋版「大江山千丈ケ嶽酒呑童子由来」の原本ともなっている。 江戸時代の初め狩野派の絵師およびその弟子達によって画かれたものであろう。		
府登録 市指定	絵画	竹野神社 紙本著色斎宮大明神縁起	1巻	京都市東山区茶屋町527 京都国立博物館　寄託	丹後町宮　竹野神社	平3. 4. 19 昭61. 5. 19	江戸時代(17世紀)	竹野神社に所蔵する紙本著色巻子装の絵巻。清園寺縁起(せいおんじえんぎ)、等楽寺縁起(とうらくじえんぎ)とともに麻呂子親王説話を絵画化した作品である。		
府登録 市指定	絵画	竹野神社 紙本著色等楽寺縁起	1巻	京都市東山区茶屋町527 京都国立博物館　寄託	丹後町宮　竹野神社	平3. 4. 19 昭61. 5. 19	桃山時代(16世紀)	竹野神社に伝わる紙本著色巻子装の縁起絵巻。独立した詞書(ことばがき)はなく、連続して展開する絵のみで構成され、適宜画面の所々に説明の文章を書込む。この縁起絵は、麻呂子親王(まろこしんのう)(この縁起では「皇子＝わうし」とのみ記される)による丹後の鬼賊退治、七仏薬師分置という寺の創建の物語を描く。		
市指定	彫刻	全徳寺 木造阿弥陀如来坐像	1躯	峰山町字鱒留643　全徳寺		昭60. 3. 28	平安時代末期～鎌倉時代	像の表面は布貼(ぬのばり)、肉身漆箔(しっぱく)、衣部古色仕上げとなるが、全て後補(こうほ)である。像高88.8cm		
市指定	彫刻	岩屋寺 木造阿弥陀如来立像	1躯	大宮町谷内241・242－1		昭60. 7. 1	鎌倉時代	木造彩色、像高58.3cm、檜材(ひのきざい)二材を矧合(はぎあ)わせる構造で、玉眼(ぎょくがん)を蔵入し、漆箔(しっぱく)を施す。像の特徴から見て鎌倉時代仏像と推定される。		
市指定	彫刻	岩屋寺 木造観音菩薩坐像	1躯	大宮町谷内241・242－1		昭60. 7. 1	室町時代：天文10(1541)年″	現在は位牌堂の本尊として祀られているもので、木造彩色、像高22.2cm、像底に天文10年(1541)の年紀が見られ、檜材(ひのきざい)の寄木造(よせぎづくり)で前後矧、割首の伝統的技法ながら当時の造像の影響下において製作された肩に衣を著けた珍らしいもので造形的にもまとまりのよい室町時代の一基準作といわれる。		
市指定	彫刻	地蔵院 石造地蔵菩薩立像(平地地蔵)	1体	大宮町上常吉263　地蔵院		平15. 10. 27	天保4(1833)年	平智山地蔵院(曹洞宗常林寺管理・下常吉)の地蔵菩薩像は、高さ5m、蓮華座の上に立つ石像で、立像としては、府下でも有数のものである「あざとり」地蔵として、厚く信仰されている。寺記によれば、常林寺八世勝者和尚により天保4年(1833年)3月、勧請奉祀されたと記されている。		
市指定	彫刻	上山寺 十一面観音菩薩立像	1躯	丹後町上山165　上山寺		昭61. 5. 19	平安時代	内刳(うちぐり)のまったくない一木造(いちぼくづくり)で現状は古色を呈するが、一部に後補の痕をとどめる。平安時代後期の製作と思われ、上山寺の古い歴史を物語るものとして重要である。		
市指定	彫刻	徳運寺 観音菩薩立像	1躯	丹後町徳光2099　徳運寺		昭61. 5. 19	室町時代	像高84.5cm、一木造、彫眼、素地仕上げの観音像で、室町後期の制作と見られる。		

市指定	彫刻	如意寺 木造阿弥陀如来坐像	1躯	久美浜町2371　如意寺		昭58. 4. 1	鎌倉時代	頭体の躯幹部を一材で彫成したあと前後に割放す一木割矧造(いちぼくわりはぎづくり)の技法になり、これに両肩先、膝前に各一材を寄せている。当造形的には定朝様(じょうちょうよう)の典型で、比例の整った体躯、優美に整えられた衣文(えもん)などに特色がある。鎌倉時代。		
市指定	彫刻	如意寺 木造金剛力士像	2躯	久美浜町2371　如意寺		平13. 3. 30	鎌倉時代初期	如意寺の金剛力士像は鎌倉時代の仏像である。本像は、像高237cm		
市指定	彫刻	遍照寺 木造阿弥陀如来坐像	1躯	久美浜町大向359　遍照寺		昭58. 4. 1	平安～鎌倉時代前期	高さ151cmを越えるこの地方では珍しい大型の仏像である。全体は寄木造(よせぎづくり)で彫眼(ちょうがん)等の技法も優れている。		
市指定	彫刻	大宮神社　神像	1躯	弥栄町　大宮神社		平18. 3. 28	？	大宮神社には、神像、仏像の古作が四躯伝えられている。男神坐像、女神坐像、僧形坐像、如来坐像がそれである。		
市指定	工芸品	縁城寺 手錫杖	1柄	丹後市峰山町橋木873　縁城寺		昭60. 3. 28	文明3(1471)年:智海銘	木の縁城寺には、室町時代の「手錫杖」一柄が伝えられる。鋳銅製で木造の短い柄に左右三個づつの遊環を添えた錫杖頭を付す。柄の一面に、「文明三／八辛卯」(1471年)、同他面に「智海」等の刻銘が見られ室町時代のものである。総長50.0cm。		
市指定	工芸品	縁城寺 鋳銅五具足	1具	丹後市峰山町橋木873　縁城寺		昭60. 3. 28	香炉:宝永2(1705)年銘 花瓶:宝永7(1710)年銘 燭台:寛保元(1741)年銘	香炉1、燭台2、花瓶2からなる五具足である。下記の銘文からするとそれぞれ寄進の時期は異なるようで、同年の作と思われる。		
市指定	工芸品	高森神社 狛犬	1対	(京都府宮津市字国分小字天王山611-1　丹後郷土資料館寄託)	大宮町延利　高森神社	昭60. 7. 1	文和4(1355)年銘	石製、高さ26cm、背銘に「文和四年己未五月七日」とある。文和4年(1355)は北朝の年号で小型ながら当市においては最古の年紀を有する狛犬である。現在は丹後郷土資料館に保管されている。		
市指定	工芸品	万休院 茶壺	1口	大宮町河辺2131　万休院		昭60. 7. 1	古瀬戸:享禄4(1531)年銘	灰色素地でやや大形の四耳付、室町時代に瀬戸の基準作として注目すべきもの。この壷は古瀬戸であり「享禄四月下旬祖母懐」と箆書きの銘がみられる。		
市指定	工芸品	野中区 宝筐印塔	1基	弥栄町野中		昭49. 7. 17	南北朝時代:至徳4(1387)年	基礎の背面には、南北朝時代末の、北朝側元号である「至徳四年」(1387)の年号が記されている。塔身は、線彫りの蓮台(れんだい)が付いた月輪(がちりん)の中に、梵字を薬研彫り(やけんぼり)に表す。		
市指定	工芸品	木橋区 線刻薬師如来像御正体	1面	(京都府宮津市字国分小字天王山611-1　丹後郷土資料館寄託)	弥栄町木橋	平9. 3. 19	平安時代末期～鎌倉時代	直径15．6cmの銅製円板に、薬師如来像(やくしにょらい)を線彫りに描いている。		
市指定	工芸品	加茂神社 鰐口	1口	(京都府宮津市字国分小字天王山611-1　丹後郷土資料館寄託)	網野町木津300 加茂神社	昭51. 3. 1	室町時代: 永享3(1431)年銘	室町時代の永享3年(1431年)に木津の加茂神社の神主真光が貴船大明神に奉納したものである。直径が約45cmあり、保存状態のよい優品で文化史上、貴重な資料となっている。		
市指定	工芸品	仲禅寺 仁王尊	2躯	網野町仲禅寺658		昭54. 1. 23	吽形:文明13年(1481)、阿形:宝暦9年(175	この一対の金剛力士像は、文明13年(1481年)に造立されたもので、吽形(うんぎょう)は江戸時代中期に手を加えられている。また、阿形(あぎょう)は火災により消失したため、宝暦9年(1759年)に造立し直された		
市指定	工芸品	上山寺 石造宝筐印塔	2基	丹後町上山165　上山寺		昭61. 5. 19	永徳元(1381)年銘 永禄9(1567)年銘	基壇には格狭間を画し、その中に蓮華を浮彫りする。「永徳元(1381)年大願主結衆十三人」の刻銘がある。他の一基は、総高60cm、塔身の仕様は類似し、さらに笠の隅飾りにも月輪内の種子をあらわす。基壇は格狭間を画すのみで、左右の刻銘は「永禄九(1567)年八月日敬白」とあ		
市指定	工芸品	上山寺 石造五輪塔	1基	丹後町上山165　上山寺		昭61. 5. 19	永禄8(1565)年	台座に刻銘があり「奉書写　大乗妙典　一字一石一部　当山開白天応元　開山明法上人願主　寺尾　舜盛　永禄八迄七百八十五年」と読め		
市指定	工芸品	八幡神社 石燈籠	1基	久美浜町鹿野224　八幡神社		昭58. 4. 1	応永24(1417)年銘	凝灰岩製の石灯籠で宝珠・請花(うけばな)四面に種子を彫る。		
市指定	書	常徳寺 紙本墨書日興筆本尊曼陀羅	1幅	丹後市大宮町口大野858 常徳寺		平2. 9. 17	正安2(1300)年	寛政5年9月に常徳寺本山の要法寺より寄贈されたものとされる。		
市指定	書	常徳寺 紙本墨書日親筆本尊曼陀羅	1幅	丹後市大宮町口大野858 常徳寺		平2. 9. 17	文安元(1444)年	日親筆本尊曼荼羅(にっしんひつほんぞんまんだら)で長辺83．5cm、短辺27．8cm。左下には、「文安元年四月日」と記されており、文安元(1444)年に記されたことが判明する。日親上人の真筆の可能性が高いものであり、貴重な書として指定されている。		
市指定	書	丹哥府志の原本	1冊	京丹後市網野町		昭51. 3. 1	江戸時代:宝暦13(1763)～天保12(1841)年	丹哥府志は、丹後旧事記と並ぶ丹後の歴史や地誌を知る上において大変貴重な歴史資料である。宝暦13年(1763年)から天保12年(1841年)までかかり、宮津藩の儒者小林玄章(こばやしげんしょう)とその子の之保、孫の之原が三代にわたって著述した記録である。原本は、昭和2年の丹後震災で焼失したものと思われていたが、わずかに竹野郡の部のみが網野町郷の立野家に保存されて残っていた。		
市指定	古文書	縁城寺 縁城寺縁起	2巻	丹後市峰山町橋木873　縁城寺		昭60. 3. 28	室町時代後期	縁城寺には真名本(まなほん)と仮名本(かなほん)の両巻の縁起が伝わる。両巻とも奥書はないが、ともに同一筆者の手になり、仮名本は真名本をそのまま仮名書きしたものである。室町時代後期の筆になるものとみられ、縁城寺本尊にまつわる観音信仰を伝えた縁起として注目され		
市指定	考古学資料	福昌寺 十三仏石塔(逆修塔)	1基	弥栄町黒部2292　福昌寺		昭49. 7. 4	享禄4(1531)年銘	安山岩製。塔上部に梵字(ぼんじ)で死後の法要を表す十三の仏を、下部に享禄四年(1531)七月十九日の銘と六人の名が記されている。高さ2mという、この種のものとしては稀にみる大きさである。		
市指定	考古学資料	オテジ谷古墳出土品	1括	(京都府宮津市字国分小字天王山611-1　丹後郷土資料館寄託)	丹後市弥栄町溝谷3443－2	平9. 3. 19	古墳時代中期	オテジ谷古墳は、一辺20m、高さ1．7mの古墳時代中期の方墳で、現在は弥栄町総合運動公園のゲートボール場に立地していた古墳である。木で組まれた棺の中には、「素環頭大刀」(そかんとうたち)と呼ばれる鉄製の刀(長さ約76cm)と、竪櫛(たてぐし)という髪留め(ヘアピン)		

市指定	考古学資料	木橋区 鰐口（木橋公民館管理）	1口	（京都府宮津市字国分小字天王山611-1　丹後郷土資料館寄託）	木橋区	昭49. 7. 4	室町時代：宝徳2（1450）年銘 永正5（1508）年銘、日吉神社（木橋）出土	木橋地内出土といわれるこの銅製鰐口には、両面に刻銘が残り、それによると、宝徳二年（1450）に藤原家次という人物が十王堂（所在地不明）に奉納し、約五十年後の永正五年（1508）、河守（こうもり）（現在の大江町か？）の天神社に、花田女という者が奉納したという旨が記されている。		
市指定	考古学資料	本覚寺 寛平法皇塚出土の石枕	1個	網野町網野1029　本覚寺		昭51. 3. 1	古墳時代中期	史跡　寛平法皇陵古墳の出土として凝灰岩製（ぎょうかいがんせい）の精巧なつくりの石枕が伝わっている。石枕は、竪穴式石室の内部に納められていたものらしく、遺体を葬る時に頭にのせる枕として作られたもので古墳時代中期の遺物として貴重なものです。		
市指定	考古学資料	竹野神社 神明山経塚出土銅鏡	2面	（京都府宮津市字国分小字天王山611-1　丹後郷土資料館寄託）	丹後町宮　竹野神社	昭61. 5. 19	平安時代	この銅鏡は、神明山経塚（しんめいやまきょうづか）から出土したもので、背面の文様から「藤山吹双鳥鏡」（ふじやまぶきそうちょうきょう）「網代垣山吹双鳥鏡」（あじろがきやまぶきそうちょうきょう）と呼ばれる。		
市指定	考古学資料	竹野神社 神明山経塚出土経筒	4口	（京都府宮津市字国分小字天王山611-1　丹後郷土資料館寄託）	丹後町宮　竹野神社	昭61. 5. 19	平安時代	銅鏡二面とともに、神明山古墳の中に営まれた経塚より出土したものである。		
市指定	考古学資料	丹後町 高山12号墳出土品	一括	（京都府京丹後市丹後町宮108	丹後町徳光	平15. 3. 6	古墳時代後期	丹後地域最大の横穴式石室であり保存状態もよく出土遺物も傑出している。		
市指定	考古学資料	平遺跡出土遺物	一括	（京都府京丹後市丹後町宮108　丹後古代の里資料館）	丹後町平の宇川河口左岸	平18. 3. 20	縄文～古墳時代	平遺跡は、丹後町平の宇川河口左岸の日本海に面した砂丘上に営まれた縄文時代前期から中期、後期、晩期の長期にわたる遺跡。その土器は平式土器として知られ近畿地方における縄文時代中期末の代表的なものである。		
市指定	考古学資料	大谷古墳出土石棺及び出土遺物	一括	（京都府京丹後市丹後町宮108　丹後古代の里資料館）	丹後市大宮町谷内	平18. 3. 20	弥生～古墳時代中期	大谷古墳は、竹野川上流右岸の眺望のよい丘陵上に単独で築造され全長32mを測る古墳時代中期前葉の古墳である。組合式箱形石棺を内部主体としており鏡、玉、剣の副葬品と共に遺存状態の良好な熟年女性の人骨が出土した。		
府登録 市指定	無形民俗文化財	丹波の芝むくり	－	峰山町丹波		昭60. 5. 15 昭61. 3. 29	－	芝むくりは丹波地区の氏神多久神社の秋祭り（十月の第二日曜日）の祭礼に行われる芸能である。先導一人、太鼓打六人、猿役二人の構成で、巡行する神輿に先行し、所定の要所で演じられる。		
府登録 市指定	無形民俗文化財	五箇の三番叟	－	峰山町五箇		昭61. 4. 15 昭61. 3. 29	－	五箇地区の氏神愛宕神社の秋祭（十月十日）に奉納される芸能で、本殿前にしつらえた板敷の舞台で演じられる。この三番叟は、舞手三人、鼓（カシラ）、鼓（シリ）、大鼓（オゝド）、カゲ、笛（現在・欠）という囃子方四人、及び後見によって行われる。歌舞伎色の強いもので、近世後期この辺に流行した農村歌舞伎とかかわる伝承であり、文化・文政期にさかのぼるものと考えられる。		
府登録 市指定	無形民俗文化財	周枳の三番叟・笹ばやし・神楽	－	大宮町周枳		昭61. 4. 15 昭61. 7. 21	－	大宮町周枳の氏神大宮売神社の秋祭に奉納される芸能である。神輿巡行（みこしじゅんこう）、太刀振などとともに行われる祭礼行事の一つであり、それぞれの組によって伝承される。三番叟・笹ばやしとともに三役と呼びならわされる一連の奉納芸であり、民俗芸能として貴重であ		
市指定	有形民俗文化財	溝谷神社 奉納和船	1艘	（京都府宮津市字国分小字天王山611-1　丹後郷土資料館寄託）	京丹後市弥栄町溝谷フキノオカ46-2 溝谷神社	平9. 3. 19	天保8（1837）年奉納	この和船（わせん）の模型は、全長277cm、幅87cmを測り、日本海海運の主力だった北前型弁財船（きたまえがたべんざいせん）と呼ばれる和船を、1／10の縮尺で製作したものである。天保八年（1837）、航海の安全を祈願するために、間人村の船大工らによって、溝谷神社の祭神・新羅大明神（しらぎだいみょうじん）に奉納されたもので、実物どおりの構造と寸法が忠実に再現されており、資料的価値の高いものである。		
市指定	史跡	常立寺 京極家墓所	－	峰山町吉68　常立寺		昭60. 3. 28	－	京極家の墓地は、旧峯山藩主京極家初代の高通から第十一代の高富に至るまで石碑が残されており、京極家紋章入りの棟門並びに築地塀、門から墓域に至る参道を含めると広さ約400㎡にのぼる。元和八年（1622）京極高通が初代峯山藩主となってから明治維新まで一貫して世襲されて続き、歴代藩主像と共に、その墓石が揃っている。		
市指定	史跡	扇谷遺跡	23405.65㎡	峰山町丹波、杉谷、荒山		平4. 7. 20	弥生時代	扇谷遺跡は峰山町字杉谷・丹波・荒山の境に所在する。今から約2,100年前の弥生時代の高地性集落跡。扇谷遺跡の最大の特徴である2の環濠（かんごう）は馬蹄形（ばていけい）に巡らされ、内堀の延長は850mに及び、両濠も幅約4～6m、深さ約2～4mと大規模なものである。		
市指定	史跡	延利区 駒返しの滝地蔵	1躯	大宮町延利		昭61. 7. 21	貞和5（1349）年銘	3m四方の巨石があり、その表面に丹後地方では珍しい磨崖仏（まがいぶつ）がきぎまれており、駒返しの滝地蔵として地方人に信仰されている。地蔵は30cmと60cmに丹型の凹みを作り、その半肉彫に彫られている。その左に「貞和五四」（1349）の文字があり、室町時代に刻まれたも		
市指定	史跡	大宮町 新戸古墳		大宮町奥大野		昭61. 7. 21	古墳時代後期	新戸古墳は大宮町奥大野の丘陵上に築かれ、東に竹野川を狭んだ沖積地を見下す絶景の地にある。また石室は丹後最大の巨石横穴式石		
市指定	史跡	森本区 立石大逆修塔	1基	大宮町森本小字立石		昭60. 7. 1	永禄7（1564）年銘	大宮町森本小字立石、通称石の峠の山麓にあり、高さ3m60cm、幅2m、厚さ90cmの石の巨塔で丹後一の大逆修納経塚の結願塔といわれる。文字は殆ど磨滅して読めないが、中央に「十万至霊三界?各々等」、右側に「願主小谷対馬守」及び「干時永禄七甲子二月二十六日」とあるの		
市指定	史跡	細川ガラシャ夫人隠棲地	－	弥栄町須川小字味土野		平11. 3. 10	－	山深い味土野の里にある細川ガラシャ夫人の隠棲地（女城跡）（いんせいち）は、ガラシャ夫人の父・明智光秀が本能寺の変を起こした天正十年から十二年（1582～1584）までの二年間、ガラシャ夫人が幽閉されていた場所である。		
市指定	史跡	下岡城趾	－	網野町下岡改谷６５－１		昭51. 3. 1	－	下岡地区に残る戦下国時代の山城で丹後守護職の一色氏が築城したものである。天正10年（1582年）織田信長の一色攻めにあい落城した。		

市指定	史跡	復元岡第1号墳	–	網野町小浜435		昭51. 3. 1	古墳時代後期	町内最大の横穴式石室（全長10.8m）を持つ7世紀初め頃の円墳。横穴式石室の中には、6体の人骨とともに、金銅装（こんどうそう）の環頭大刀（かんとうたち）をはじめ勾玉（まがたま）などの玉類や須恵器など豊富な副葬品が出土した。また、馬の前脚の骨が人骨の前の石の上に置かれており、肉のついた脚片を供えたものではないかと考えられ、全国		
市指定	史跡	浜詰遺跡	–	網野町浜詰小字クリヤマ677番地の21		昭51. 3. 1	–	縄文時代後期（約3,000～4,000年前）の遺跡。2ケ所の貝塚と1軒の竪穴式住居址（たてあなしきじゅうきょし）が発見された。		
市指定	史跡	離湖古墳	1,480㎡	網野町小浜小字離山908－3		平14. 12. 11	古墳時代中期	離湖古墳は離山山頂に位置する5世紀代の古墳である。埴輪等の状況から、築造後かなり削平されたと考えらるが、東西34m、南北43mの規模を持ち、長持形石棺と木棺が埋葬されていた。		
市指定	史跡	離山古墳	180㎡	網野町小浜小字離山908		平14. 12. 11	古墳時代中期	離山古墳は6世紀中頃の円墳で、墳丘は直径15m、高さ2.2mを測る。埋葬施設は初現期の横穴式石室といわれる竪穴系横口式石室であ		
市指定	史跡	上山寺歴史環境保全地区	約20000㎡	丹後町上山165　他		昭61. 6. 18	–	上山寺は、丹後でも最も古い由緒を誇る古寺の一つで、当寺に残る文化財は、本尊十一面観音像のほか、宝篋印塔・五輪塔など多数の石塔・石仏がある。現境内地にその代表例は集中しているが、付近に散在するかつて28坊といわれた坊跡や門跡とつたえられる地にもまた優		
市指定	史跡	片山古墳	–	丹後町竹野小字片山554		昭61. 6. 18	古墳時代後期	こうもりの穴・本塚ともいう。ほぼ南に開口する横穴式石室墳で、現在封土は失われ天井石が露出している。玄室は現状で長さ6.55m、巾2.5m高さ1.8mで、丹後でも規模の大きい石室である。		
市指定	史跡	大成古墳群	–	丹後町竹野小字大成745		昭61. 6. 18	古墳時代後期	大成古墳群は、もともと片山古墳・産土山古墳と連続する丘陵北端に位置し（現在は国道により寸断されている）、13基の横穴式石室墳からなる群集墳である。		
市指定	史跡	宝泉寺 松井与八郎の墓	1基	久美浜町湊宮1705　宝泉寺		平3. 7. 15	天正15（1587）年。天明3（1783）年再建	松井与八郎の墓は、宝泉寺にある。文禄2年8月15日遂に没した松井与八郎は、「海の見える場所に」との遺言によって、当寺に葬られた。天明3年（1783）に、現在の五輪塔が松井家によって建立された。		
市指定	史跡	宗雲寺 肥後の墓	1基	久美浜町小字小谷		平3. 7. 15	天正15（1587）年。天明3（1783）年再建	久美浜松倉城主松井佐渡守康之は、菩提寺宗雲寺山中に、出身山城から、父山城守正之・母法寿の墓を移し、のち、天正15年（1587）五輪の大塔を建立し供養を行った。やがて城主が、九州八代に移ったので、「肥後の墓」との名が残ったのである。現在の墓は天明3年（1783）に建て直されたものである。		
市指定	史跡	岩ケ鼻古墳	–	久美浜町甲山小字岩ヶ鼻		昭58. 4. 1	–	墳丘は主軸をほぼ南北にとり、前方部を北に向けた前方後円墳である。		
市指定	名勝	塩江区 五色浜周辺	–	網野町塩江		昭51. 3. 1	–	五色浜は、砂浜はないが、平らな岩場が広がりリアス式海岸の入りくんだ複雑な地形とともに美しい景観を見せる。この海岸には、チャートのよく磨かれ、様々な色をした小石があり、五色浜の名前の由来となってい		
市指定	天然記念物	若宮神社のスダジイ	一本	大宮町奥大野42番地　若宮神社		平13. 3. 27	–	胸高幹周6．32m・樹高16m・推定樹齢約400年を測る。幹周では大宮町内第2位・樹高・推定樹齢では町内第1位のシイの古木である。		
市指定	天然記念物	五十河区 内山の大ブナ	一本	大宮町五十河131番地		平13. 3. 27	–	胸高幹周3．65m・樹高32m・推定樹齢約350年を測る。地上1．5mのところで主幹が3本に分かれ、そこから枝が多数伸びている。京都府下で一番のブナの巨木である。		
	天然記念物	アベサンショウウオ	–	–		昭59. 4. 14 平13. 3. 27	–	昭和59年4月に京都府の天然記念物として種が登録されたアベサンショウウオ　学名（Hynobius　abeiSATO）は、両生類で、成体の体長は8～12cm、体部の背面は暗褐色、腹面は灰青色または淡褐色を呈す		
市指定	天然記念物	平海岸海浜植物群自生地	約10000	丹後町平小字湊		昭61. 6. 18	–	平海岸は、自然地形がほとんどそのまま残され、汀線にむかって緩傾斜した砂浜は海浜植物群落におおわれている。		
市指定	天然記念物	宇川流域天然鮎生息地	–	丹後町内小脇～平		昭61. 6. 18	–	宇川は丹後半島を北流する小河川に過ぎないが、その清流は30年に及ぶ京都大学の鮎生態調査河川として、また国際生物学会（I・B・P）環境保全指定河川として著名である。数多くの天然遡上鮎と稚魚の放流によってまかなわれる鮎は、宇川鮎と呼ばれる。		
市指定	天然記念物	八幡神社　ムクロジ	一本	峰山町鱒留小字大成354		平20. 7. 8	新指定！！	胸高幹周　4.96m　樹高　31m、樹齢400年程度と推測され、根元周も7.1mを測り、ムクロジとしては全国トップクラスの大きさである。		
市指定	天然記念物	生王部神社　スダジイ	一本	網野町生野内小字下大クゴ443		平20. 7. 8	新指定！！	胸高幹周　6.76m　樹高　14m、樹齢300年以上と推定され、本殿参道石段の横に位置することから、神木として歴代保護されてきたものと思		
市指定	天然記念物	迎接寺跡　シイ（ツブラジイ）	一本	久美浜町湊宮小字空下343－1		平20. 7. 8	新指定！！	胸高幹周　8.03m　樹高　14m、樹齢300年程度と推測され、ツブラジイとしては市内最大のものである。		
市指定	天然記念物	霧の宮神社　八岐杉	一本	大宮町五十河小字瀬戸道415		平20. 7. 8	新指定！！	胸高幹周　4.72m　樹高　35m、根元周りは7.4mにも達し、まっすぐ伸びた幹が地上4～6mの高さで8本立ちになるという特異な樹形が最大の特徴であり、平成3年に大宮町の名木30選に選ばれている。		
市指定	天然記念物	峰山陣屋跡のエノキ	一本	峰山町吉原97－2		平20. 7. 8	新指定！！	胸高幹径　4.43m　樹高15m、樹冠投影面積が1000㎡にもおよび、その枝ぶりが最大の特徴である。樹齢は250～300年と推定される。		
市指定	天然記念物	雲松寺のタラヨウ	一本	久美浜町小桑小字前田532		平20. 7. 8	新指定！！	胸高幹周　3.21m、樹高　10m、樹齢200年以上と推定され、寺の庭木として植えられたものと推測される。		
市指定	環境保全地区	三嶋田神社環境保全地区	–	久美浜町金谷小字今ゴ田	平3. 7. 15	–				
市指定	環境保全地区	甲坂不動尊環境保全地区	–	久美浜町栃谷	平3. 7. 15	不動尊磨崖仏：永禄2（1559）年銘		甲坂不動尊は天長年間、空海（くうかい）が当地で山籠もりした際に岩壁に爪彫り（つめぼり）したといわれる磨崖仏（まがいぶつ）である。指定された保全地区内にはタモ、樫（かし）、ムクロジ、杉等の古木が密生しており、これら古木の根が自然の階段となり、参道を形作り独特の景観		

指定種別	種　別	指定年月日	名　称	所有者（管理者）	所　在　地	時代または年代	登録基準	備　考	ジオサイトとなっているもの	保護保全の状況（無形文化に関しては担い手の問題も含む）
国指定	建造物	明 45. 2. 8	中嶋神社本殿　１棟	中嶋神社	豊岡市三宅１	室町　正長元		中嶋神社の創立は大変古く、第33代推古天皇の御代に田道間守命の七世にあたる三宅の吉士、中嶋の公が、祖先の田道間守命を初めてここに祀ったのに由来している。朱塗りの本殿は、二間社流造という珍しい様式で、室町時代中期(1428)に建てられたもの。その後何度か修理・塗装が施され現在も美しいまま現存している。		
国指定	（追加指定）	昭 42.12.11	二間社流造、桧皮葺　附　棟札　１枚 元禄拾弐庚辰祀二月如意珠日の記がある			（元禄12修理）〔棟札写〕				
国指定	建造物	昭 33. 5.14	酒垂神社本殿　一間社流造、桧皮葺附　棟札　２枚　１棟 遷宮文安元年　甲子十月一日の記があるもの　1 再営宝永八卯二月廿六日遷座供養の記があるもの　1	酒垂神社	豊岡市法花寺字長楽寺７２５	室町　文安元〔棟札写〕		解体修理が行われた際、永享10年（1438年）の棟札が見つかったほか「大伴久清、小工十二人」と書きつけたものもあった。創建時の棟りょうの名がわかることは比較的珍しい。		
国指定	建造物	昭 33. 5.14 （昭 58.6.2）	久久比神社本殿　三間社流造、こけら葺附　棟札　１枚 再営正徳元　辛卯　年九月廿日の記がある　１棟	久久比神社	豊岡市下宮字谷口３１８	室町　永正４ （庇元禄15） 〔実肘木墨書〕		三間社流造で室町時代末期の建立になる。蟇股を多く用い、妻飾を二重虹梁太瓶束の制にするなど社殿建築としては割合にぎやかな意匠である。		
国指定	建造物	明 37. 2.18	温泉寺本堂　桁行５間、梁間５間、一重、入母屋造、銅板葺　１棟	温泉寺	豊岡市城崎町湯島９８５	室町　至徳４ 〔懸仏墨書〕		但馬最古の木造建造物である室町時代初期建立の本堂。 桁行五間、梁間 五間、一重、入母屋造、銅板葺。室町前期建立。建立年代は明らかになっていませんが、本堂内の懸仏に至徳4年（1387年）の銘が記されていたことなどから、このころ、造られ		
国指定	建造物	昭 36. 3.23	温泉寺宝篋印塔　石造宝篋印塔　１基	温泉寺	豊岡市城崎町湯島９８５	室町前期		室町時代前期の石造宝篋印塔南北朝時代初期、花崗岩、高さ197cm		
国指定	建造物	昭 45. 6.17	日出神社本殿　三間社流造、こけら葺　附　棟札 ２枚　宝永元年申ノ四月十一日の記があるもの　享保十一丙午　天八月廿一日の記があるもの　１棟	日出神社	豊岡市但東町畑山３２９	室町後期		延喜式内の小社で、現本殿は室町時代末期に建立された三間社流造の建物である。正面庇部分は江戸中期の改造によって変っているが、細部の部材になお当初のものを残している。 本殿母屋が舟肘木、庇が三つ斗組になる兵庫県の室町時代末期の三間社流造本殿の一例として保存すべきものである。		
国指定	絵画	大 元 9. 3	絹本著色十六善神像　１躯	温泉寺	豊岡市城崎町湯島９８５	鎌倉				
国指定	彫刻	大 元 9. 3	木造聖観音立像　１躯	文常寺	豊岡市鎌田１２	平安		藤原期・像高66cm・寄木造		
国指定	彫刻	大 元 9. 3	木造四天王立像　４躯	東楽寺	豊岡市清冷寺１６６７	平安		ヒノキの一木造で、広目天の像高は134cm。他の3体もほぼ同じ大きさです。どの像も腰から下が大きく、全体にどっしりと落ち着いた姿になっています。四天王像としてはいかめしさが失われていますが、それぞれの像にわずかな変化を与え、微妙な動きをつけて重厚さを感じさせる造りになっており、平安時代後期の		
国指定	彫刻	明 37. 2.18	木造十一面観音立像　１躯	温泉寺	豊岡市城崎町湯島９８５	平安		像高2m、桧の一木彫の鉈彫りという独特の作風の観音さま		
国指定	彫刻	大 元 9. 3	木造千手観音立像　１躯			平安		本坊・持仏堂のご本尊。一般的な千手観音像が42臂であるなか、現在834臂もの多くの手を持った珍しい観音像。桧の一木彫で、平安期特有の温雅で穏やかな柔らかい作風。弘法大師		
国指定	工芸品	大 4. 3.26	脇差　銘但州住国光（外ニ梵字アリ）　１口	出石神社	豊岡市出石町宮内芝９９			全長39.2cmの脇指。但馬に住む国光という刀鍛冶が作ったという文字が茎に刻まれています。また反対側には梵字もあり、南北朝時代に製作されたと考えられています。明治14年（1881年）に、天気予報の創始者として知られる桜井勉が出石神社に寄進し、現在まで大切に伝えられてきました。		
国指定	史跡 （追加指定） （追加指定）	平 2.12.26 平 12.11.15 平 16. 2.27	但馬国分寺跡　12,437.04㎡	豊岡市	豊岡市日高町国分寺６５１－６			円山川中流域の一角にあり、1973年（昭和48）からの発掘調査で、金堂跡とその南方の中門跡、両者を結ぶと推定される回廊跡、金堂の真西に並ぶ塔跡などが確認された。なかでも塔跡の遺存状況は良好で、基壇は1辺約16mの規模をもち、乱石積み		
国指定	史跡	平 8.11.13	山名氏城跡　此隅山城跡　255,359.00㎡ 有子山城跡　1,249,330.00㎡	豊岡市	豊岡市出石町袴狭字城浦２６－１他 豊岡市出石町内町字蔵前１－１他	室町時代 室町～安土桃山		但馬は、南北朝の初期以来山名氏の根拠地であり、南北朝期後半以降戦国期まで一貫して山名氏が守護の地位にあった。この山名氏の本国但馬における居城が此隅山城であり、永禄頃天正期に山名氏が築いて移った城が有子城である。		
国指定	名勝	平 元 9.22	旧大岡寺庭園　4,972㎡	大岡寺	豊岡市日高町大岡寺東西１７			大岡山の山中に1967年まで存続した大岡寺の旧寺域に現存する、石組みと巨石を多く配した池泉座視式庭園である。		
国指定	天然記念物	昭 6. 2.20	玄武洞（青龍洞）　5,669㎡	豊岡市	豊岡市赤石竹栗１３３９他			山陰海岸国立公園に含まれる。玄武洞のほか、青龍洞、白虎洞、南朱雀洞、北朱雀洞の洞窟が玄武洞公園として整備されている。約160万年前の噴火によって噴出されたマグマが冷却され、玄武岩溶岩の厚い層が形成された。その後、河川による侵食により玄武岩塊がむき出しとなった。玄武洞の玄武岩はマグマが冷却される際に体積が小さくなることでできる割れ目（節理）が顕著で切り出しやすかったこともあり、これを人々が採掘し、その採掘跡が洞窟として残った。つまり洞窟は天然のもので		
国指定	天然記念物	昭 26. 6. 9	畑上の大トチノキ　１株	豊岡市	豊岡市畑上字畑上１２５９			目通り幹囲7．20メートル、根囲り13．50メートルの巨木で垂直に伸び地上6メートルより西方に一大枝を出しまた地上9メートルより三本の大枝を分けている。		
国指定	天然記念物 特別天然記念物	昭 26. 2. 9 昭 29. 3.29	オオサンショウウオ		地域を定めず			全長約110～115cm、翼開長160～200cm、体重4～6kgにもなる非常に大型の水鳥である。羽色は白と金属光沢のある黒、クチバシは黒味がかった濃い褐色。脚は赤く、目の周囲にも赤いア		
国指定	天然記念物 特別天然記念物	昭 28. 3.31 昭 31. 7.19	コウノトリ	兵庫県（昭 37. 7.14）	地域を定めず					
国指定	天然記念物	昭 40. 5.12	イヌワシ		地域を定めず					
国指定	天然記念物	昭 45. 1.22	オジロワシ		地域を定めず					
国指定	天然記念物	昭 45. 1.23	オオワシ		地域を定めず					
国指定	天然記念物	昭 46. 5.19	コクガン		地域を定めず					
国指定	天然記念物	昭 46. 6.28	マガン		地域を定めず					
国指定	天然記念物	昭 46. 6.28	ヒシクイ		地域を定めず					
国指定	天然記念物	昭 50. 6.26	ヤマネ		地域を定めず					

国選定	伝統的建造物群	平成19. 12. 4	豊岡市出石伝統的建造物群保存地区　1		豊岡市出石町材木、出石町八木及び出石町本町の全部、並びに出石町魚屋、出石町内町、出石町宵田、出石町田結庄、出石町東條、出石町小人、出石町柳、出石町入佐及び出石町伊木の各一部		面積：23.1ha/登録基準：二	出石重伝建地区は、辰鼓楼を中心とした東西約600m、南北約620m、面積約23.1haの範囲です。この範囲は明治９年の大火でほとんどの建造物を焼失しましたが、復興に際し、町家の多くは江戸時代の建築意い 匠しょう（形状・デザイン）を継承して建て直されました。その後、繊細な格子戸などの意匠の発展を遂げ、明治後期から昭和初期にかけて町家景観美のクライマックスを迎えました。　現代までその多くの伝統的建造物が残され、城下町の穏やかな歴史的町並みが今に伝えられています。		
国登録	有形(建造物)	平成17. 3. 23	赤木家住宅主屋ほか　１５棟１所	個人	豊岡市引野９７２	明治３年ほか	一・三	明治　3年竣工　兵庫住宅100選のうちの「住宅10選」にも選ばれている。赤木家住宅の特徴は、水害に対する備え。すぐ近くを流れる円山川が氾濫すると、地域の防災センターとしての役割を担ってきました。東西40m、南北65m、約900坪の広大な敷地に整然と積み上げられた石垣はほぼ玄武岩で構成され、周囲よりも約2mもかさ上げしてあり、一度も浸水したことがないといいます。また、蔵の軒下に吊されている小舟は、当時の様子		
	有形(建造物)	平成18. 12. 19	豊岡市役所南庁舎別館（旧兵庫縣農工銀行豊岡支店）　1棟	豊岡市	豊岡市中央町１１－２２	昭和９年	一	この建物は昭和9年（1934）に兵庫県農工銀行豊岡支店として建てられたもので、設計には建築家渡辺節が手掛けています。鉄筋コンクリート2階建、寄棟、桟瓦葺、外壁は腰壁と柱型が石張で、大壁はタイル張になっています。		
	有形(建造物)	平成20. 3. 7	平尾家住宅主屋ほか	個人	豊岡市森尾	明治		平尾家は江戸時代に大庄屋を務めた但馬屈指の大地主で、約4,000平方メートルの敷地内には大小約20もの建物が点在。		
県指定	建造物	昭 40. 3. 16	雷神社本殿　　五間社切妻造、三間向拝付、桧皮葺　1棟	雷神社	豊岡市佐野稲葉５４２	江戸　明暦２〔棟札〕		神社の創立についてはつまびらかでないが、延喜式に列する古社であり、大雷神・須佐之男命・菅原道真の3柱をまつっている。今の本殿は、明暦2年（1656）五味備前守豊直が大工服部清左衛門に命じて再建したものであり、このことは棟札によって知ることができる。妻飾りの細部手法などよく時間の特色をあらわしており、保存も良好で江戸時代初期の建造物として貴重		
県指定	建造物	昭 43. 3. 29	石造九重塔　1基	八幡神社	豊岡市津居山字八幡山３９９	鎌倉中期		鎌倉後期のもので、漁業や航海の無事を祈り、また遭難した人たちを供養するために建てられた九重の塔で、高さは約5m。		
県指定	建造物	昭 62. 3. 24	金剛寺宝篋印塔　1基	金剛寺	豊岡市金剛寺４８９	南北朝		南北朝時代 、花崗岩、総高 228cm		
県指定	建造物	昭 43. 3. 29	観音寺仁王門　桁行３間、梁間２間、一重、寄棟造、桟瓦葺　1棟	観音寺	豊岡市日高町観音寺字中筋７２１	室町中期		室町中期建立。建立された年代は明らかになっていませんが、形式や手法からこのころ造られたとされています。南に面した一重門で、前面両脇間の床が板張りで、内に仁王像を安置しているのは珍しい形式といわれています。蟇股や蓑束などの形状が時代の特質をよく表しており、隅柱や斗と の寸法などに古式を		
県指定	建造物	平 20. 3. 21	達徳会館　1棟	達徳会	豊岡市京町１２－１６	明治29		豊岡高校の本館として建てられた擬洋風建築物。1896年、兵庫県豊岡尋常中学校（現豊岡高校）の本館として建築され、市内に現存する明治期の数少ない擬洋風官公庁建築のひとつ。		
県指定	絵画	昭 62. 3. 24	絹本著色両界曼荼羅図　2幅	東楽寺	豊岡市清冷寺１６６５	室町				
県指定	絵画	昭 46. 4. 1	絹本淡彩月庵宗光像　1幅	円通寺	豊岡市竹野町須谷６	南北朝　永徳３		曲ろくに座す月庵の肖像が斜左から描かれています。永徳3年(1383)月庵58歳の時のもので、図上に自書の文字が記されています。		
県指定	絵画	平 6. 3. 25	絹本著色大日如来像　1幅	蓮華寺	豊岡市竹野町轟３６６	鎌倉		細線技法、彩色に鎌倉時代の特色を残す		
県指定	絵画	平 6. 3. 25	絹本著色愛染明王像　1幅	蓮華寺	豊岡市竹野町轟３６６	鎌倉				
県指定	絵画	昭 60. 3. 26	隆国寺障壁画　３６面	隆国寺	豊岡市日高荒川２２	江戸		本堂にある孔雀の図などの見事な襖絵は、円山派と対峙した岸連山一門(岸岱、岸徳(連山))が描いたものです。		
県指定	絵画	昭 58. 3. 29	絹本著色十六羅漢像　１６幅	蔵雲寺	豊岡市但東町中山１１５１	南北朝～室町		室町時代の画僧「明兆」の作といわれる。この蔵雲寺の十六羅漢図は4幅入り4重の桐箱に収納され、中国の仏画を手本とした新しい水墨画の技法を見ることができます。		
県指定	彫刻	昭 40. 3. 16	木造十一面観音像　1躯	帯雲寺	豊岡市野上４８１	平安		ヒノキの一木造で、像高222cm。明治時代に金箔が塗り替えられています。肩から胸部の厚みや腰の張り、衣文の彫の深さなど古い要素が見られますが、面相の柔和な表現などから、平安中期の作と考えられる。		
県指定	彫刻	昭 40. 3. 16	木造十一面観音像　1躯	野垣区	豊岡市野垣字宮の下２２６	平安		ヒノキの一木造で、像高172cm。内刳がなく、頭上11面も同じ材から削り出されているのは珍しいとされています。腰部を少し曲げて踏 ん張る下肢の力強さがありながら、面相の厳しさが消えている		
県指定	彫刻	昭 43. 3. 29	木造十一面千手観音立像　1躯	慈等寺	豊岡市三宅３５４	平安		慈等寺の前身である薬琳寺（廃寺）の仏像だったともいわれています。 檜を使用した寄木造で、像の高さは約190センチあります。部分によっては補修されていますが、体躯は当時のままで鎌倉初期に作られたものとされています。		
県指定	彫刻	昭 54. 3. 20	木造聖観音立像　1躯	文常寺	豊岡市鎌田１２	平安		文常寺の秘仏となっています。同じ厨子の中に二尊は安置されています。両腕まで一材で彫出した桧の一木造りで平安時代後期の作と思われますが、前立聖観音よりやや時代は古い。吹きさらしに近い堂内に長年立っていたものか損傷がひどくなっています。当初は彩色であったと思われますが、今は素木のように		
県指定	彫刻	昭 43. 3. 29	木造四天王立像（持国天、増長天、広目天、多聞天）　4躯	温泉寺	豊岡市城崎町湯島９８５-２	平安		ヒノキの一木造で、増長天の像高は132cm。他の3体もややばらつきはありますが、ほぼ同じ大きさに造られています。平安時代中期の作とされ、厳しく引き締まった顔つきとどっしりとした体躯を持っています。平成20年度からの修復が完成し、4体がそろって須弥壇に納められています。		
県指定	彫刻	昭 58. 5. 4	木造金剛力士立像（吽形像、阿形像）　2躯	温泉寺	豊岡市城崎町湯島９８５-２	鎌倉		温泉寺山門の左右に安置される阿形・吽形二体の仁王さん。天衣、手首先、頭部の髻などの後補、彩色の補修が後世におこなわれているため、一見するとそう古い仁王像ともみえないが、注意して観ると面部の写実的な表現、堂々たる体の筋肉の表出、像全体のバランスの良さなど、鎌倉時代の仁王に共通する表		
	彫刻	昭 43. 3. 29	行道面　9面 附　金銅製菩薩宝冠残欠　5片 木製光背　2枚 金銅製透彫光背残欠　3片	桑野本区	豊岡市竹野町桑野本	鎌倉		豊岡市竹野町桑野本、桑原神社には古い9つの行道面があります。 建久2年(1191)8月15日に鷹野神社の祭礼舞楽に用いられた面と伝えられています。		

県指定			鉄製鈴　　１器 鉄製鏡　　１器							
県指定	彫刻	昭 55. 3.25	木造地蔵菩薩立像　１躯	称名寺	豊岡市出石町馬場１９	平安後期		檜の一木造で、外見は一般的な地蔵菩薩の造形をしています。平安前期に見られる着衣の彫りですが、衣文の彫りが浅いことから平安中期～後期に造られたものと推測されています。		
県指定	彫刻	昭 56. 3.27	木造千手観音立像　附　像内納入品　１躯	総持寺	豊岡市出石町宮内１７３４	室町　天文４		天文5年(1536)、9代山名祐豊を始め、家臣、多数の人々の寄進によって造立されたことが記されており、県の文化財に指定されています。室町時代末期の等身大の仏像で、檜の寄木造、素木で作られています。光背と台座は元禄3年(1690)に、出石		
県指定	彫刻	昭 57. 3.26	木造薬師如来坐像　１躯	袴狭区	豊岡市出石町袴狭	平安後期				
県指定	彫刻	平 16. 3. 9	伝聖観音坐像　１躯	日野辺区	豊岡市出石町日野辺	奈良末期～平安初期		一木造で、像高33cmの坐像。造られたのが奈良時代末から平安時代初期ごろとされ、但馬最古の木造仏です。頭部が大きく、全体に厚みがあって重厚な像で、衣文も深く刻まれています。特に、背面の衣文の表現、組んだ足の前面中央に扇形に広がる裳裾など個性的な作風を示し、類例はほとんどないといわれ		
県指定	彫刻	昭 46. 4. 1	木造薬師如来坐像　１躯	松禅寺	豊岡市但東町栗尾４６９	平安		平安時代の作といわれます。彫りの浅い優麗な姿で、平安時代の特色を色濃く表しています。素材は檜を材とした一木造。背面と両脚部に大きい内抉りを施しています。定朝様式の典型的仏像といえ、優雅な仏像様式を見せています。像高126cmの結		
県指定	彫刻	平 3. 3.30	木造十一面観音立像　１躯	西谷区	豊岡市但東町西谷字船木口２０７	平安				
県指定	工芸品	昭 48. 3. 9	鰐口　１口	進美寺	豊岡市日高町赤崎１１５０	南北朝　明徳２		直径66cm、厚さ25.7cm、重さ48.8kgにもなる大きな鰐口です。中央部分には繊細な蓮華文様が鋳出されています。右側に寺名と、左側に明徳3年(1392年)に、進美寺の僧侶であった幸こう円が願主となって寄進したと刻まれています。その大きさ、古さ、また形状や文様などが秀でていま す。		
県指定	古文書	昭 62. 3.24	進美寺文書　２巻６通	進美寺	豊岡市日高町赤崎１１５０	鎌倉		建久5年(1194年)から暦応2年(1339年)の間に書かれた文書で、軸物2巻と無表具の6通からなっています。当時の進美寺が朝廷と鎌倉幕府の祈願所として但馬を代表する寺となっていたことや、書かれている人名や役職名から但馬国こ く衙が と守護所の組織や機能をうかがうことができるなど、歴史上貴重な内容が記されています。		
県指定	考古資料	平 元. 3.31	金剛界五仏種子板碑　１基	新堂区	豊岡市新堂字門谷３１０－４	室町		室町時代、法華経一千部を納経し、供養のために建てられた板碑である。高さ181cmの自然石を利用し、正面に金剛界の五仏を表す種子が彫られている。		
県指定	考古資料	平 15. 3.25	中郷深谷２号墳出土石棺　１基	豊岡市（豊岡市教育委員会）	豊岡市中央町２－４	古墳前期		中郷にあった4世紀末頃に築かれた小形の方墳・深谷2号墳から出土した石棺で、上陰で産出する「陰石」を用いて造られています。石棺は、底石5枚、両小口2枚、両側石2枚、蓋石4枚からなり、内法で長さ162cmあります。底石の１ 枚は、古墳時代の髪型「みずら」を模した石の枕になっており、全国的にも珍しく貴		
県指定	考古資料	平 17. 3.18	妙楽寺出土仏具一括【錫状頭(1)、宝珠杵(1)、六器(25)、二器(5)、　柄香炉蓋(1)、火舎(1)】　３４点		豊岡市神美台１５７－４０	平安～鎌倉		昭和37年(1962)、豊岡盆地側から県立但馬文教府へ至る道路の造成工事中に、鎌倉時代から室町時代のものと思われる密教関係の仏具が多数発見されました。特に、総高48.2cm、重量2,756kgの大型の錫杖頭は、全国屈指の大きさを誇り、錫杖頭に尊仏を配する例は全国的にも珍しいとされています。仏教考古学、美術工芸史及び地域史上もきわめて価値が高い資料で		
県指定	考古資料	平 15. 3.25	森尾古墳出土品　１０７点 方格規矩四神鏡(1)、鉄剣破片(9)、鉄鏃(10)、鉄斧(1)、鎌(1)、ﾔﾘｶﾞﾝﾅ(1)及び破片(2)、鉄斧ないしﾉﾐ、(あるいは鉄)(1)(鎌と銹着)、ガラス製勾玉(2)、ガラス製管玉(53)、緑色凝灰岩製管玉(25)、石杵(1)	個人 （豊岡市教育委員会）	豊岡市森尾 豊岡市神美台１５７－４０	古墳前期		方格規矩四神鏡(1)　ガラス製勾玉(2)　ガラス製管玉(53)　緑色凝灰岩製管玉(25) 鉄剣破片(9)、鉄鏃(10)、鉄斧(1)、鎌(1)、ﾔﾘｶﾞﾝﾅ(1)及び破片(2)、鉄斧ないしﾉﾐ(あるいは鉄)(1)、　(鎌と銹着)、石杵(1)		
県指定	考古資料	平 17. 3.18	見蔵岡遺跡の石棒生産に関わる出土品　【石棒および石棒未製品・石柱（５）、敲打器（７）】　１２点	豊岡市（豊岡市教育委員会）	豊岡市竹野町森本６３２	縄文中期		縄文時代の遺跡である見蔵岡遺跡は、鎌倉時代の屋敷の下に眠っていました。ここでは、西日本で初めての「石棒」の製作地が発見されています。この石棒や石棒未製品の出土は、近くで石材の産出地があったことを裏付ける遺跡としても重要だと考えられています。石器が原材と推定される石材も一定数出土しており、中でも石棒加工具と推定される槌石(つちいし)は、この遺跡で最も特徴的な石器であるといえます。		
県指定	考古資料	昭 63. 3.22	田多地経塚出土遺物　一括	豊岡市	豊岡市出石町魚屋５０	平安後期		1981年(昭和56年)、当時の大学生が頂上部の古墳断面に青銅の遺物を発見。古墳の墳丘を利用した経塚の調査では、竪穴を掘りくぼめたところに横穴を掘り、小石室を設けるという特殊な形をしており、経筒は比較的古式のものであることが判明した。また、古墳の調査では、ひとつの墳丘に多数の埋葬施設が確認された。石棺には玄武岩を使ったものもあり、当時の船運や流通を考える貴重な材料となっている。調査後の古墳は、絶壁の上で年々自然崩壊している。		
県指定	歴史資料	平 4. 3.24	金剛寺文書(足利尊氏寄進状)　１通	金剛寺	豊岡市金剛寺４８９	南北朝		大きさは33×45cm。足利尊氏が、金剛寺に但馬国利 生塔を造った時の寄進状で、暦応2年(1339年)の銘があります。尊氏は、南北朝の戦いで亡くなった人たちの供養のため、一国に一基の塔を造りました。この書状は、利生塔を設置するために池内村と相坂社を寄付すると書かれており、文面の最後には、尊		
県指定	有形民俗	昭 45. 3.30	農村歌舞伎舞台【　桁行6.9m、梁間5.0m、切妻造、瓦葺】　１棟	虫生区	豊岡市但東町虫生箱の宮	江戸		舞台壁面に残る墨書に1861(文久元)年のものがあり、それ以前の創建 但馬では関宮、但東町、日高町にあり、但東町の代表的な舞台が虫生(むしゅう)の「安牟加神社」にある舞台。安牟加神社では、10月17日に太古踊り[たいこおどり]が行われる。		

県指定	無形民俗	平 17. 3.18	法花寺万歳	法花寺万歳保存会	豊岡市法花寺７２３			今の漫才の起源といわれる県下唯一の門付け万歳「万歳」。江戸末期から始まったと言われている万歳です。太夫と才若が、三味線の伴奏にあわせて滑稽な掛け合いをします。現在、「門入」、「蚕祈祷」という演目が伝承されています。全国各地にある古典的な万歳とよく似ていますが、途中に「マダラト」という囃子言葉が入るのが特徴です。新春を祝う門付け芸で、毎年1月３		
県指定	無形民俗	平 12. 5. 2	轟の太鼓踊り	蓮華寺古代太鼓踊保存会	豊岡市竹野町轟３６６　蓮華寺内			遅くとも19世紀初頭には踊られていたと考えられている。但馬の他の「ざんざか･ざんざこ踊り」が芸能色豊かになっているのに対して、この轟の太鼓踊りは衣装や踊りに独特の意匠をこらす風流性がなく、衣装も白浴衣のみである。しかし、盆の祖霊供養や施餓鬼供養に奉納されるなど、念仏踊りから風流踊りが誕生する過程を考える上で貴重であり、但馬の「ざんざか･ざんざこ踊り」の成立過程を知る上で、重要なものである。		
県指定	史跡	昭 63. 3.22	中谷貝塚 173㎡	個人	豊岡市中谷殿替	縄文		縄文時代中期から晩期（約5000 - 2500年前）の貝塚である。5 - 80cmの厚さに堆積した貝層に淡水性貝のヤマトシジミを中心に、ハマグリ、アサリ、マガキなどの貝類のほか、クロダイ、ニホンジカ、イノシシなどの動物の骨や土器なども出土している。ヤマトシジミは淡水と海水が交じり合う汽水域に生息することから、この頃の豊岡盆地が汽水域の入り江であったことが分かる		
県指定	史跡	平 14. 4. 9	三宅瓦窯跡 １基　45.77㎡	慈等寺	豊岡市三宅字家ノ上３５６－１			約1,300年前に三宅廃寺の屋根を葺くために築かれた登り窯である。できたての瓦は、すぐ隣接地に建設された三宅廃寺に使用されたといわれている。		
県指定	史跡	昭 50. 3.18	二見谷古墳群 ２基　約560㎡	個人	豊岡市城崎町上山１７０７他	６世紀後半		古墳群4基のうち、保存状態がよい1号墳と4号墳の横穴式石室の中には、それぞれ刳抜式と組合せ式の家形石棺が置かれていました。4号墳からは珍しい遺物として金銅製の鈴が見つかっています。7世紀前半から次々と造られていった二見谷古墳群は、この時期の但馬での代表的な古墳の1つです。		
県指定	史跡	平 3. 3.30	ケゴヤ古墳 １基	個人	豊岡市城崎町上山５２３-１他	６世紀末～		1984年（昭和59年）に調査を開始。北但馬では大型の横穴式石室であることが判明し、保存の措置がとられている。羨道は約1.87m、玄室は6.35m、石室全長8.22mと計測され、6世紀後半のもので、早い時期の石室である。出土した須恵器から貝類で		
県指定	史跡		円墳 330㎡	豊岡市		７世紀				
県指定	史跡	平 3. 3.30	鬼神谷窯跡 ３基	鬼神谷区　個人	豊岡市竹野町鬼神谷字宮ノ下１３他	５世紀末～７世紀		古墳時代中期～後期(5世紀末～7世紀)に操業した須恵器生産窯跡。 発見された3基のうち、1号窯は県内最古の須恵器窯とされている。近くには工房とみられる住居跡も見つかっている。		
県指定	史跡	昭 52. 3.29	楯縫古墳 １基	個人	豊岡市日高町鶴岡字森垣６７－３	６世紀		径約29mの円墳。両袖型の横穴式石室が西に開口、全長約13m、玄室部は長さ約5.1m、幅約2.6m、高さ約3.4m、羨道部は長さ約8m、幅約1.5m、高さ約1.7mを測る。銀象嵌を施した大刀飾りのほか馬具、須恵器などが出土している。7世紀初頭の築		
県指定	名勝	昭 43. 3.29	切浜の「はさかり岩」	切浜区	豊岡市竹野町切浜海岸			竹野海岸切浜の波触岩礁地帯の海岸線に位置する。レキ岩辻レキ岩層に地層に沿って形成された海食洞の天井の岩が落ちて洞側壁の岩に挟まった状態、すなわち洞崩壊の途中の姿を留める奇岩である。		
県指定	名勝	昭 47. 3.24	宗鏡寺本堂庭園 344㎡	宗鏡寺	豊岡市出石町東条３３	江戸時代		山名氏滅亡後永らく荒廃していた寺は、出石城主小出吉英のすすめを受けた沢庵により1616年(元和2年)に再興された。		
県指定	天然記念物	昭 40. 3.26	白藤神社の大モミ １本	白藤神社	豊岡市大谷６８７－１			樹高　36m目通り幹囲　5．2m推定樹齢　800年の大モミの		
県指定	天然記念物	昭 40. 3.26	絹巻神社の暖地性原生林 12,068㎡	絹巻神社	豊岡市気比字絹巻２５８５			約2haのスダジイを主体とした原生林である。スダジイの中に、ヒメユズリハ、カクレミノ、カゴノキ、モチノキ、タブなどの木や多くの種類の草が生えている。ヒメハルゼミの生息地としても知られている。兵庫有数の規模、種類数、自然度の高さで日本海型照		
県指定	天然記念物	昭 43. 3.29	小江神社の大ケヤキ １本	小江神社	豊岡市江野字大ベライ１５２３			少々前伏になっているが隆々と元気旺盛である。樹のすぐ下に水の湧き出す池があり、最近まで地区共同の用水場として使用されていた。昔から地元の人は、このケヤキを「セキリョウさん」と呼んで、お参りをすると咳が止まると言い伝えられている。		
県指定	天然記念物	平 2. 3.20	鎌田の大イヌマキ １本	個人	豊岡市鎌田			樹高は低いが幹周りが大きく、樹齢350年ともいわれ、今尚樹勢は旺盛で枝張りは東西、南北ともに14m前後ある。イヌマキは中国原産とされるが、日本には多く植栽されており、本州中部や九州には自生種があると言われている。足立家の庭の中心に		
県指定	天然記念物	昭 47. 3.24	波食甌穴群 152.53㎡	竹野区	豊岡市竹野町賀鳴３			竹野浜の西、猫崎半島。その西海岸の岩盤には無数の丸い穴がある。これは、海水の浸食作用によってできた窪みで「甌穴」と呼ばれる。 甌穴（おうけつ）は、岩棚の岩盤の一定の場所で、小石などが回転し、数万年の歳月をかけて岩盤を丸く、深くえぐってできたもの。面積150㎡ほどの波食棚上に甌穴群が広く分布している。		
県指定	天然記念物	昭 47. 3.24	宇日流紋岩の流理（流紋） 約9,000㎡	田久日区	豊岡市竹野町田久日字向山			宇日流紋岩の流理は、兵庫県豊岡市北部の竹野海岸の平井の鼻から宇日海岸・田久日海岸にかけての海岸線に連続する宇日流紋岩を指す。約300万年前から200万年前の新第三紀鮮新世照来層群高山累層宇日流紋岩層の露頭で、宇日流紋岩の大断崖、奇岩、球顆状流紋岩などがみられる。		
県指定	天然記念物	平 17. 3.18	桑野本の大イチョウ １本	桑野本区	豊岡市竹野町桑野本８５０			桑原神社の神殿前に立ち、今尚悠々と成育している。この付近には巨木が多くあったが、戦時軍用材として伐り出され、このイチョウのみ残されたと言われている。県下のイチョウの中で最も樹高が高く黄葉が全部落ちた翌日は雪が降ると伝えられ、雪の		
県指定	天然記念物	昭 42. 3.31	栃本の溶岩瘤	兵庫県	豊岡市日高町栃本字西畑（稲葉川南岸沿）			清滝地区の稲葉川流域にある、全国的にも類を見ない溶岩瘤で、兵庫県の天然記念物に指定されています。そのほか周辺には溶岩流や数多くの滝など、神鍋火山群の溶岩の流出によって形成された貴重な地形が今に残っています。		

県指定	天然記念物	昭 43. 3.29	栃が谷平のアスナロ群生 170,000㎡	万劫区	豊岡市日高町万劫			岡市日高町を流れる稲場川の支流、栃が谷平川沿いの山の北西斜面にアスナロ群生があります。標高550～650mの辺りに約7haにわたって群生地が広がっています。		
県指定	天然記念物	昭 53. 3.17	長楽寺のチリツバキ １本	長楽寺	豊岡市日高町上石６６４			3月下旬から4月上旬に、紅に僅かに白色の斑が入った愛らしい花が咲く。花弁の数は20枚近くある。他のツバキのように丸ごと落ちるのではなく、サザンカのように花びらが1枚1枚落ちる。地面を花びらが紅いジュウタンを敷いたように覆うことからチリツバキと呼ばれる。樹高 7m 幹周 1.9m 樹齢 350年		
県指定	天然記念物	平 17. 3.18	天神社のトチノキ １本	万場区	豊岡市日高町万場４８０			このトチノキは地上1.7mのこぶの上に、幹周り90cmもあるケヤキが着生し見事に成育している、850cmを超える県下3位の太い巨木である。樹高 35m 幹周 8.5m 樹齢 350年		
県指定	天然記念物	昭 61. 3.25	一宮神社のケヤキの森 ９本	一宮神社	豊岡市但東町久畑字宮ノ市８７５			桂小五郎ゆかりの関所で知られる一宮神社の境内にはケヤキ9本、エノキ・ムクノキ・イチョウ各1本、スギ2本の大木が茂り森をつくっている。ケヤキの最大のものは、樹高35m・幹周り7mの推定500年の巨木であり、残り8本も幹周り3～4mの巨木でケヤキの森をつくっている。		
県登録	有形(建造物)	平成18.12.22	四所神社本殿及び拝殿 ２棟	四所神社	豊岡市城崎町湯島４４２	昭和３年	一	現在の社殿は、大正14年(1925年)の北但馬地震で古記録と共に全壊、焼失したため、昭和3年(1928年)に再建されたもの。本殿は三間社流造、拝殿は入母屋造平屋建で共に県の有形文化		
市指定	建造物	昭 44. 6. 1	宝篋印塔 １基	佐野区	豊岡市佐野字宮谷					
市指定	建造物	昭 52.11. 1	旧豊岡県庁の門 １棟	豊岡市	豊岡市京町５－２８			正門は、総ケヤキ造の武家門で、両わきにくぐり門を構えた豪壮なものです。この門は、明治4年(１８７１)に豊岡県が久美浜県を吸収合併した際に、久美浜県庁より移築したもので、豊岡		
市指定	建造物	昭 52.11. 1	宝篋印塔「伝田結庄是義供養塔」 １基		豊岡市日撫			この宝篋印塔は南北朝期のもので、全高234cmの均整のとれた大塔である上、 ほとんど損傷がないという点で貴重なものとなっている。 大きさ・造立時期なども ほとんど金剛寺印塔と同じだが、 格狭間(こうざま)に中心飾りがついているのがこの印塔の特徴である。 この飾りは同期の印塔の一部に共通するもので、全国的には、但馬・丹後・丹波に集中しており、その他には4例しか見当たらない。 宝篋印塔は、もともとは仏舎利や経文を収めたもので、後には供養のためや墓標として建てられた。 この印塔についても、背後の城(鶴城)で戦士した戦国末期の武将・田結庄是義の供養塔であると伝えられている。 しかし是義の死は、塔造立後2百年を経た天正3年(1575)のことであり、		
市指定	建造物	昭 63. 4.27	妙経寺の中世石造供養塔群 ２８基	妙経寺	豊岡市九日市下町２９２			山名氏のものと思われる		
市指定	建造物	平 元. 4.28	「称名寺」銘 宝篋印塔 １基	勝妙寺	豊岡市九日市上町１９２					
市指定	建造物	平 4. 5.12	妙経寺の題目印塔 １基	妙経寺	豊岡市九日市下町２９２			南北朝末期		
市指定	建造物	昭 50. 3. 1	弁天山宝篋印塔 「越中次郎兵衛の墓」 １基	四所神社	豊岡市城崎町湯島２６１	南北朝 応安2		南北朝時代の応安2年(1369年)の建立		
市指定	建造物	昭 50. 3. 1	桃島宝篋印塔 「守護職山名家累系の碑」 １基	桃島区	豊岡市城崎町桃島１０４３-１４	南北朝 応安5		基礎側面 三方を中心飾り付の格狭間で荘厳する宝篋印塔で、南北朝時代 中期 応安五年(1372)の在銘塔。高さ 168.5cm		
市指定	建造物	昭 50. 3. 1	温泉寺宝篋印塔 (東塔) １基	温泉寺	豊岡市城崎町湯島９８５-２	室町末期		南北朝時代初期、花崗岩、高さ 197cm		
市指定	建造物	昭 58. 5. 4	極楽寺山門 入母屋造、桟瓦葺、三間一戸、楼門 １門	極楽寺	豊岡市城崎町湯島８０１			元禄年間(1688～1703)に建てられた山門		
市指定	建造物	昭 58. 5. 4	温泉寺山門 (仁王門) 【三間一戸、二階二重門、入母屋造 １棟	温泉寺	豊岡市城崎町湯島９８５-２			山門は至徳、永正、寛文年間と再三造立され、現在の門は明和年間(1764～1772)に再建されたもので、左右の金剛力士像は、均斉のとれた運慶・湛慶作といわれる力作である。		
市指定	建造物	平 4. 5.19	温泉寺多宝塔 【三間多宝塔、桟瓦葺】 １基	温泉寺	豊岡市城崎町湯島９８５	江戸中期1766年に再建		明和4年(1767)の再建であるが、再建にあたり当初の南北朝時代の様式を踏襲したとみられ、屋根がやや大きめになっているのが特色であろう。内部の須弥壇は南北朝時代のものをそのまま用いている但馬地方唯一の多宝塔です。		
市指定	建造物	昭 56. 3. 6	宝篋印塔 ８基	観音寺 (両界院)	豊岡市竹野町羽入２２６					
市指定	建造物	昭 52. 3.29	長楽寺薬師堂 １棟	長楽寺	豊岡市日高町上石６６４			桁行三間、梁間三間、一重、入母屋造、銅板葺。寛政3年(1791年)再営。境内にある「チリツバキ」がよく知られていますが、北側の一段高い 場所に建てられた薬師堂も、優れた建造物です。堂の向こ う拝上部にある装飾が豪奢で、虹梁上の彫物も のや木鼻などに過度なほどの彫刻が施されています。また、参拝者から見える正		
市指定	建造物	昭 57. 4.26	宝篋印塔 １基	大円寺	豊岡市日高町栗栖野５７３					
市指定	建造物	昭 57. 4.26	大円寺山門 １棟	大円寺	豊岡市日高町栗栖野５７３					
市指定	建造物	昭 51. 3.31	見性寺鐘楼 １棟	見性寺	豊岡市出石町松枝１４７	江戸		江戸時代の作。		
市指定	建造物	昭 51. 3.31	経王寺鐘楼 １棟	経王寺	豊岡市出石町下谷６	江戸		門の前に建つ鐘楼は白い漆喰塗りの壁に二層望楼形の構えで、土塀には銃眼が備えられていました。		
市指定	建造物	昭 53. 3.31	宗鏡寺開山堂 １棟	宗鏡寺	豊岡市出石町東条３３	江戸		桁行三間、梁間二間半、一重、寄棟造、瓦葺。元禄4年(1691年)建立。宗鏡寺は出石藩主の菩提寺として知られており、開山堂は沢庵和尚が中興した当時の建物です。格天井の中央部が一段持ち上げられた折上げ格天井、また欄間や床など、細部にいたるまで丁寧で上質な造作に目を見張るものがあります。出石地域で一番古い建物といわれています。		
市指定	建造物	昭 57. 3.20	須義神社本殿 １棟	須義神社	豊岡市出石町荒木２７３－１	江戸				
市指定	建造物	昭 57. 3.20	願成寺山門 １棟	願成寺	豊岡市出石町東条３２	江戸 文化元年棟札		門は一間一戸、入母屋、桟瓦葺、上部は吹き放しの鐘楼堂で所謂鐘楼門形式の建物です。		
市指定	建造物	昭 57. 3.20	旧郡役所建物 １棟	豊岡市	豊岡市出石町魚屋５０	明治		出石町における唯一の明治年間の洋風建築物です。 維新後の郡制で明治12年(1879)には出石・気多(日高地区)両郡を併せた、「出石気多郡役所」が出石に設置されました。その後明治29年(1896)には、気多郡を分離して「出石郡役所」となり当町内町(旧出石町役場)にあった建物を現在地に移築したものです。玄関のコリント式の柱頭などに見られるように数少なくなった明治期特有の木造洋風建築の貴重な遺構であります。		

市指定	建造物	昭 58. 3.22	御出石神社本殿	1棟	御出石神社	豊岡市出石町桐野	江戸		永禄十一年（1568）本社を再建。天正八年（1580）秀吉によって社領を没収されたが近世に、出石領主小出氏や仙石氏に崇敬され万治二年（1659）本殿修理。安永六年（1777）上野五ヶ村の氏子により社殿改造。大正五年に、本殿修理・拝殿		
市指定	建造物	平 2. 3.24	出石神社社殿	1棟	出石神社	豊岡市出石町宮内１１４１	大正		本殿は、三間社流造、銅板葺。本殿の前面に幣殿と祝詞殿があって、その左右から透塀がぐるりと囲っています。拝殿は舞殿形式になっており、参拝する正面には、平唐か ら破風の向拝が独立して造られています。大正２年（1913年）に再建された代表的な神社建築で、但馬一宮 、通称「一宮（い っきゅう）さん」と親		
市指定	建造物	平 9. 1.28	旧福冨家住宅	1棟	豊岡市	豊岡市出石町宵田７８	明治		明治９年（1876）に当地を襲った大火の後間もなく建てなおされたと考えられる町家建築。生糸を商う豪商であった福富家の住居として、京都から職人を呼び寄せ、贅を尽くして建てられたと		
市指定	建造物	平 10. 4.28	永楽館	1棟	豊岡市	豊岡市出石町柳１７	明治		1901年に竣工し、100年以上歴史を持つ建築の劇場で、現地に現存する劇場建築としては日本最古とされる。土壁と太鼓楼を特徴とする外観および、直径6.6メートルの廻り舞台、奈落、花道、すっぽん（セリの一種）といった舞台機構、舞台用衣裳や上		
市指定	建（石）造物	昭 44. 3.31	キリシタン灯籠	1基	鍛冶屋区	豊岡市出石町鍛冶屋	安土桃山				
市指定	建（石）造物	昭 44. 3.31	キリシタン灯籠	1基	豊岡市	豊岡市出石町宵田７８	安土桃山				
市指定	建（石）造物	平 2. 3.24	六十六部供養塔	1基	田多地区	豊岡市出石町宵田７８	室町　天文７				
市指定	建造物	昭 51. 3. 5	今井敏郎氏宅	1棟	個人	豊岡市但東町畑山	江戸時代				
市指定	建造物	昭 51. 3. 5	大生部兵主神社本殿・拝殿	2棟	大生部兵主神社	豊岡市但東町薬王寺宮内８４８	江戸時代				
市指定	建（石）造物	昭 51. 3. 5	宝篋印塔	1基	佐々伎神社	豊岡市但東町佐々木	南北朝時代				
市指定	建（石）造物	昭 51. 3. 5	嘉吉断碑	1基	蔵雲寺	豊岡市但東町中山１１５１	室町時代				
市指定	建（石）造物	昭 51. 3. 5	経塚	1基	出合市場区長	豊岡市但東町出合市場	江戸時代				
市指定	建（石）造物	昭 51. 3. 5	笠塔婆	1基	金蔵寺	豊岡市但東町中山２３３	鎌倉時代				
市指定	建（石）造物	昭 51. 3. 5	逆修塔	3基	金蔵寺	豊岡市但東町中山２３３	室町時代				
市指定	建（石）造物	昭 51. 3. 5	山本家嘉碑	1基	虫生区長	豊岡市但東町虫生字谷虫生	江戸時代				
市指定	建（石）造物	昭 51. 3. 5	庚申塔	1基	河本区長	豊岡市但東町河本	江戸時代		造立寛政９年（1797）銘文右側面：寛政９年河本村左側面：丁己九月　西谷連中　高さ170cm幅88cm花崗岩質自然石		
市指定	建（石）造物	昭 51. 3. 5	庚申塔	1基	佐々木区長	豊岡市但東町佐々木１１６	江戸時代		花崗岩質自然石高さ115cm幅82cm江戸期後期/佐々伎神社の道路脇にあり上辺を2重2段の花頭形の掘り込みを施し、その輪郭内中央に青面金剛像を配し、上部に日月、下部に三猿ならぬ二猿をいれている。寛政6年（1794）の紀年銘がある。		
市指定	建（石）造物	昭 51. 3. 5	庚申塔	1基	佐田区隣保長	豊岡市但東町佐田８６２	江戸時代		花崗岩質自然石造立江戸時代銘文無し/地蔵堂内に安置されており、紀年銘はないが安政4（1775）年前後の造立であろう。高さ140cm幅85cm		
市指定	建（石）造物	昭 51. 3. 5	庚申塔	1基	久畑区長	豊岡市但東町久畑	江戸時代		造立安永４年（1775年）5月高さ117cm幅83cm銘文右：安永四乙未　左：5月吉日/青面金剛像の両脇にみられるのが当初は二童士と考えられてきたが、拓本の結果猿の立像であることがわかった。花崗岩質自然石		
市指定	建（石）造物	昭 51. 3. 5	庚申塔	1基	大河内区長	豊岡市但東町大河内	江戸時代		造立宝暦5年（1755年）4月高さ135cm幅65cm銘文基部宝暦五乙亥年四月吉日　村中/現在確認されている町内の庚申塔の中で最も古い紀年銘である。花崗岩質自然石		
市指定	建（石）造物	昭 51. 3. 5	庚申塔	1基	個人	豊岡市但東町赤花	江戸時代		造立文化3年（1806）高さ182cm幅126cm　銘文（右）文化三丙寅天八月一二日（左）願主上垣　若連中　/本体より大きな巨岩に乗せられ、覆堂などの施設はない。規模雄大で町内最大級の庚申塔。花崗岩質自然石		
市指定	建（石）造物	昭 51. 3. 5	地境争犠牲者供養碑	1基	個人	豊岡市但東町赤花	江戸時代				
市指定	絵画	昭 48. 6.15	一遍上人絵像	1幅	西光寺	豊岡市九日市上町３４９					
市指定	絵画	昭 60. 3.29	春日曼荼羅図	1幅	西光寺	豊岡市田結１７４７			仏習合の思想が表れた絵図（縦約９２センチ、横約３３センチ）で、奈良の春日大社と興福寺が描かれている。上半分は春日大社を俯（ふ）瞰（かん）して描き、下半分の興福寺は、諸堂の代わりに安置された仏像を描くことで境内の様子を表している。西光寺によると、鎌倉から室町時代に制作されたとみられる		
市指定	絵画	昭 63. 4.27	涅槃像図	1幅	東楽寺	豊岡市清冷寺１６６５					
市指定	絵画	昭 53. 4. 4	海北友竹作　「紙本温泉寺縁起図」 斉藤畸庵作　「那智群山図」 斉藤畸庵作　「渭川煙雨図」 斉藤時畸作　「紙本山水図（林多太古樹山有四時雲）」	1軸 襖絵８面 襖絵８面 1軸	温泉寺	豊岡市城崎町湯島９８５-２	江戸中期		温泉寺本尊十一面観音にまつわる縁起図である。奈良時代の仏師嵇文は大和長谷寺の二丈六尺の十一面観音像を造った時、もう一軀の観音像を造らんとしたが完成せず、そのまま海中に投じたが、後に嵇文が湯治のため当地を訪れたところ円山川河口近くの田結庄にこの像が漂着していたのに出合った。仏縁の不思議さに感じ、像を完成し、道智上人を迎えて温泉寺を開創したという説話物語を描いている。図の上部から始まって下辺、右辺、さらに中央辺で終わる。左側下に「海北友竹画」の款記があり、江戸中期に友松の孫、友竹が描いたことがしられる。仏師嵇文は正しくは嵇文会といい、父文勲、弟の首勲とともに奈良時代の名工であり、法隆寺はじめ古刹の本尊を造立した		
市指定	絵画	昭 52.11.15	絹本彩色伯英徳俊全図	1幅	大寧寺	豊岡市竹野町切浜６３１			伯英徳俊和尚を書いたもので室町時代初期の作。		
市指定	絵画	昭 61. 3.27	悦叔宗最禅師項相	1幅	大圓寺	豊岡市日高町栗栖野５７３					
市指定	絵画	昭 43. 3.30	沢庵和尚自賛頂相	1幅	宗鏡寺	豊岡市出石町東条３３	江戸時代				
市指定	絵画	平 元. 3.23	釈迦如来十六善神画像	1幅	宗鏡寺	豊岡市出石町東条３３	南北朝				
市指定	絵画	平 元. 3.23	釈迦如来十六善神画像	1幅	願成寺	豊岡市出石町東条３２	室町				
市指定	絵画	平 元. 3.23	地蔵菩薩画像	1幅	見性寺	豊岡市出石町松枝１４７	室町時代				
市指定	絵画	平 元. 3.23	三十六歌仙屏風	1幅	経王寺	豊岡市出石町下谷６	江戸時代		伝土佐光起筆六枚屏風一双		
市指定	絵画	昭 51. 3. 5	達磨像（作：白隠）	1棟	蔵雲寺	豊岡市但東町中山１１５１	江戸時代		作者白隠慧鶴禅師、江戸時代の妙心派の禅僧で薄墨絵を得意とした。		
市指定	絵画	昭 51. 3. 5	達磨像（作：祥啓）	1棟	蔵雲寺	豊岡市但東町中山１１５１	室町時代		作者賢江祥啓という。寺の役職名での啓書記として知名度も高い。室町中期の水墨画を主とする鎌倉建長寺に属する画僧で		

市指定	絵画	昭 51. 3. 5	布袋像賛	１幅	個人	豊岡市但東町赤花	江戸時代		作者は、石清水八幡宮の真言宗で松花堂昭乗という。江戸初期の文人・書家・又画人でもある。沢庵和尚の賛辞を一道による後書などからみてもその画の出来栄えが伺える。		
市指定	絵画	昭 51. 3. 5	寒山拾得図	２幅	金蔵寺	豊岡市但東町中山１１５１	室町時代		紙本彩色99.2×41.7cm室町時代作、仏像人物画を主とする松渓の作品である。中国の高僧寒山と拾得を画いた双幅のもので古くから金蔵寺に伝えられてきた。		
市指定	彫刻	昭 52.11. 1	十一面観音立像	１躯	光震寺	豊岡市宮井２４１					
市指定	彫刻	昭 61. 3.25	聖観音立像	１躯	東楽寺	豊岡市清冷寺１６６５					
市指定	彫刻	昭 52.11.15	狛犬	１対	ほそ椒神社	豊岡市竹野町椒１９０６－２			木製、高さ60cmのものと39cmのものがある。室町時代作		
市指定	彫刻	昭 55. 3.26	木造聖観音菩薩立像	１躯	蓮華寺	豊岡市竹野町轟３６６					
市指定	彫刻	昭 55. 3.26	木造十一面観音菩薩立像	１躯	蓮華寺	豊岡市竹野町轟３６６					
市指定	彫刻	昭 48. 3.29	木造四天王像	２躯	井田神社	豊岡市日高町鶴岡					
市指定	彫刻	昭 55. 4.21	磨崖仏	１基	羽尻区	豊岡市日高町羽尻			室町期築造		
市指定	彫刻	昭 55. 4.21	薬師如来像	１躯	国分寺	豊岡市日高町国分寺７３４			室町期築造		
市指定	彫刻	昭 58. 3.28	一石六地蔵	１基	兵主神社	豊岡市日高町浅倉			『浅倉村史』によれば、この「一石六地蔵」は、長禄4年（室町時代末期・1460）庚辰と書かれており、この年は飢饉で餓死者が多数出たので、その供養に造立されたものと思われる。		
市指定	彫刻	昭 61. 3.27	逆修供養塔	１基	松岡区	豊岡市日高町松岡２７５			1433年築造		
市指定	彫刻	平 元. 3.28	石幢	１基	山宮区	豊岡市日高町山宮１３５２			室町期築造		
市指定	彫刻	平 元. 3.28	磨崖仏	１基	観音寺区	豊岡市日高町観音寺４８７－１			室町期築造		
市指定	彫刻	昭 44. 6. 3	木造観世音菩薩立像	１躯	中村区	豊岡市出石町中村字中島	江戸時代		寄木造で、像高204cm。胎内に元禄5年銘（1692年）の開眼供養の棟札だなどが納められています。隣に並ぶやや小ぶりな木造勢至菩薩立像と同じような作風であることから、同一仏師によって造られたのではないかといわれています。衣文の彫りなどからも江戸時代初期の仏像とされています。		
市指定	彫刻	昭 44. 6. 3	木造勢至菩薩立像	１躯	中村区	豊岡市出石町中村字中島	江戸時代				
市指定	彫刻	昭 44. 6. 3	木造阿弥陀如来坐像	１躯	中村区	豊岡市出石町中村字中島	江戸時代				
市指定	彫刻	昭 46. 3.31	木造薬師如来坐像	１躯	福居区	豊岡市出石町福居６９７－１	安土桃山				
市指定	彫刻	昭 55. 3.31	木造阿弥陀如来坐像	１躯	称名寺	豊岡市出石町馬場１９	江戸時代				
市指定	彫刻	平 元. 3.23	木造釈迦如来坐像	１躯	宗鏡寺	豊岡市出石町東条３３	鎌倉				
市指定	彫刻	昭 51. 3. 5	阿弥陀如来坐像	１躯	個人	豊岡市但東町中山	室町時代				
市指定	彫刻	昭 51. 3. 5	如意輪観世音菩薩坐像	１躯	玉宗寺	豊岡市但東町中藤３８４	平安時代				
市指定	彫刻	昭 51. 3. 5	十一面観世音菩薩立像	１躯	金蔵寺	豊岡市但東町中山２３３	平安時代				
市指定	彫刻	昭 51. 3. 5	阿弥陀如来坐像（坂津・長禅庵）	１躯	蔵雲寺	豊岡市但東町中山１１５１	室町時代		木造、肉身部漆箔、彫眼、衣部漆塗り、像高75.2cm坂津区峠付近の安養堂長禅庵に安置されていたが、無住寺の際中山の蔵雲寺に移された。		
市指定	彫刻	昭 51. 3. 5	聖観世音菩薩立像	１躯	蔵雲寺	豊岡市但東町中山１１５１	室町時代		ヒノキの一木造で、像高37cm。小像ながら精巧な造りで、着衣全体に金 泥で繊細な文様が描かれており、優雅な印象を与えています。光背は銅板を打ち抜いて造られており、細かな線刻も施されています。頭部から胸部にかけて厚みのある形状から、室町時代		
市指定	彫刻	昭 51. 3. 5	千体仏	１，００４躯	蔵雲寺	豊岡市但東町中山１１５１	江戸時代		千体仏はりくの祖父で豊岡藩の家老だった石束源五兵衛毎術（つねやす）が隠居後に菩提寺の正福寺へ寄進した仏像3000体の一部。内蔵助と離縁して帰郷したりくが朝夕給仕して夫と息子の大願成就を祈り、本懐を遂げてこの世を去った義士たちを弔ったという。 その後、正福寺が衰微したため、仏像は出石領大庄屋橋本家の菩提所・三対庵（さんたいあん）などに分祀。昭和12年ごろ、三対庵から蔵雲寺に移された。 　同寺には1004体が安置。高さ8～13センチほどで、表面が金泥で着色されている。残りの約2000体は散逸しており、昭		
市指定	彫刻	昭 51. 3. 5	四天王像（多聞天・増長天）	２躯	松禅寺	豊岡市但東町栗尾４６９	平安時代		一木（内刳り）彫眼、彩色像高136cm（増長天）像高140cm（多聞天）平安時代作		
市指定	彫刻	昭 51. 3. 5	地蔵菩薩立像	１躯	松禅寺	豊岡市但東町栗尾４６９	平安時代		松禅寺の本尊、像高120センチメートル、平安時代、着衣のひだの簡略化に特色があります。		
市指定	彫刻	昭 51. 3. 5	十一面観世音菩薩立像	１躯	小阪区	豊岡市但東町小坂	平安時代				
市指定	彫刻	昭 51. 3. 5	朽木仏像群	２７躯	豊岡市	豊岡市但東町水石	平安時代				
市指定	彫刻	昭 51. 3. 5	阿弥陀如来坐像	１躯	楽音寺	豊岡市但東町久畑７３４	室町時代		寄木、彫眼、肉身部金泥、像高88cm室町時代築造、恵心僧都からの本尊であったが、荒廃の後、山を下りて現在の阿弥陀庵に安置された。最近無住になったので同じ宗派の楽音寺に祀っている。衣文の彫りが力強く鮮明であり全体からみても大変調		
市指定	彫刻	昭 59. 3.31	大日如来坐像	１基	楽音寺	豊岡市但東町大河内	室町時代				
市指定	工芸品	昭 52.11. 1	高屋焼染付大花瓶	１点	個人	豊岡市元町					
市指定	工芸品	平 8. 3.27	青銅密教法具ほか　附　越前焼甕	１６口・２点	観音寺（両界院）	豊岡市竹野町羽入２２６			観音寺の墓地から出土した甕の中に、法具（仏具）が一緒に入れられていました。法具は鎌倉時代前半のものですが、甕は鎌倉時代後半に作られたとみられることから、寺僧が埋葬される際に、代々伝わってきたものを供えたと考えられます。一括の出土品として、また美術品としての価値も高いとされています。		
市指定	工芸品	昭 45. 4.17	長楽寺の茶湯釜	１口	長楽寺	豊岡市日高町上石６６４			千利休専属の釜師与治郎の作であるが、いつごろ、どのような由来で長楽寺に招来されたものか分からない。資料的にも貴重で、美術品としての価値も高い。		
市指定	工芸品	昭 51. 3.26	大円寺釣鐘	１口	大圓寺	豊岡市日高町栗栖野５７３			香取秀真作、1926年作		
市指定	工芸品	昭 52. 3.29	気多神社の鰐口	１口	気多神社	豊岡市日高町上郷３４０－１			銅製外形38.7cm1427年作製		
市指定	工芸品	昭 53. 3.24	久斗文楽人形の頭	２４点	久斗文楽座	豊岡市日高町久斗			正確な文書を紛失し頭を入れている箱書でしか確認できないが、幕末に三方村室（豊岡市日高町）から人形10体を買い求めた記述によりその存在が知れる。現存する小道具の多くは、明治期のもので江戸時代のものは少ないものの、頭（かしら）カドメ、若男、娘など因州（現在の鳥取方面）や浪速（現在の大阪方面）の阿波系統のものである。この久斗文楽の全盛期は明治から戦前まで演じられたが、1962年（昭和37年）を最後に途絶えて		

市指定	工芸品	昭 44. 6. 3	経典輪蔵（転輪経蔵）	１基	見性寺	豊岡市出石町松枝１４７	江戸後期　文政４	経典を収めた経蔵の中に輪転式の大きな「一切経経典輪蔵」があります。		
市指定	工芸品	昭 43. 3.30	沢庵和尚夢見の鐘	１口	宗鏡寺	豊岡市出石町東条３３	室町　長享２	鐘には、長享2年(1488年)に宗寿という女性が、大工藤原宗次に作らせたと刻まれています。この鐘は、沢庵和尚が「投淵軒」に住んでいたころ、三木村に鐘が埋まっているので掘り起こすようにとの夢を見て、次の日に掘り出して持ち帰ったとされています。このいわれから、夢見の鐘として大切にされてきまし		
市指定	工芸品	昭 43. 3.30	出石大神宮銅印	１点	出石神社	豊岡市出石町宮内１１４１	鎌倉時代	5.7×5.7×h5.0cm　270g社宝として伝来する銅印　鈕の形状；苔鉦無孔　楷書体		
市指定	工芸品	昭 46. 3.31	仙石政明具足	１揃	出石神社	豊岡市出石町宮内１１４１	江戸中期　貞享３	仙石家より出石神社に奉納されたもので、政明所用と伝わり、その胴には、貞享3年(1686)2月、増田明珍式部紀宗介の作銘が刻まれている。この宗介は、甲冑師明珍〔みょうちん〕家第22代で、この頃その一門とともに江戸を中心に活躍している。 貞享3年の作であり、上田在城時代、政明の注文により作られたものであろうか。 兜〔かぶと〕の鍬形台･吹返〔ふきかえし〕および手甲部に永楽銭紋を付す。また鎧櫃〔よろいびつ〕には「無楯〔たてなし〕御甲冑」とある。		
市指定	工芸品	昭 46. 3.31	小出公馬印	１点	出石神社	豊岡市出石町宮内１１４１	江戸時代	仙石家旧蔵品で忠政所用と伝わる金幣（金色のぬさ）の馬印。箱書きには「忠政公御小馬印金幣」とある。出石神社蔵の秀久所用金幣馬印に対して「小馬印」と称したものであろう。		
市指定	工芸品	昭 46. 3.31	仙石秀久馬印	１点	出石神社	豊岡市出石町宮内１１４１	江戸時代	秀久所用と伝わる金幣〔きんぺい〕（金色のぬさ）の馬印		
市指定	工芸品	昭 46. 3.31	雲板	１口	竜谷寺	豊岡市出石町三木１３５	江戸前期　寛文９			
市指定	工芸品	昭 46. 3.31	櫓時計	１基	個人	豊岡市出石町田結庄	江戸時代			
市指定	工芸品	昭 46. 3.31	天目台	１点	個人	豊岡市出石町内町	安土桃山			
市指定	工芸品	昭 48. 3.20	大安寺鰐口	１口	個人	豊岡市出石町内町	鎌倉　応永３			
市指定	工芸品	昭 48. 3.20	猿猴の甲冑	１揃	出石神社	豊岡市出石町宮内１１４１	江戸初期　元和元			
市指定	工芸品	昭 48. 3.20	経文胴の甲冑	１揃	出石神社	豊岡市出石町宮内１１４１	安土桃山　天正18			
市指定	書跡	昭 48. 3.29	大円寺開山悦叔禅師語録	３幅	大円寺	豊岡市日高町栗栖野５７３		大円寺を開山した南禅寺の269世悦叔禅師が書いたとされる語録集で、3冊からなっています。慶長8年(1603年)から元和7年(1621年)までの19年にわたる法語や行事などが記されていま		
市指定	書跡	昭 58. 3.28	寺本久内判物	１幅	個人	豊岡市日高町万場３３８		1581年作		
市指定	書跡	昭 58. 3.28	光厳上皇院宣	１幅	蓮生寺	豊岡市日高町宵田１０		1338年作		
市指定	書跡	昭 58. 3.28	大岡寺文書	３０幅	大岡寺	豊岡市日高町山宮６７２		但馬地域の戦国期の詳細な寺領納帳を含む「大岡寺文書」		
市指定	書跡	昭 58. 3.28	山論文書	一括	個人	豊岡市日高町稲葉５２		1732年作		
市指定	書跡	昭 60. 3.30	羽柴秀長鮎漁免状	１幅	個人	豊岡市日高町岩中８０５		1580年作		
市指定	書跡	昭 60. 3.30	前野長泰判物	１幅	個人	豊岡市日高町浅倉４０５		1587年作		
市指定	書跡	昭 60. 3.30	前野長泰判物	１幅	個人	豊岡市日高町江原５０		1595年作		
市指定	書跡	昭 61. 3.27	悦岩道号記	１幅	隆国寺	豊岡市日高町荒川２２		隆国寺は、室町時代の開基で、山名の四天王筆頭といわれた垣屋播磨守隆国公の菩提寺と伝わっています。実質開基ともいわれる光成公は、策彦周良和尚から、天正4年(1576)に「悦岩」道号記を授かっています。		
市指定	書跡	昭 43. 3.30	後村上天皇綸旨	１葉	出石神社	豊岡市出石町宮内１１４１	鎌倉　正平６			
市指定	書跡	昭 43. 3.30	蓮華王院院宣	１葉	出石神社	豊岡市出石町宮内１１４１	中世文書			
市指定	書跡	昭 43. 3.30	家則・家朝補任状・軍忠状　他２	２葉	出石神社	豊岡市出石町宮内１１４１	鎌倉	但馬守護であった山名氏の文書		
市指定	書跡	昭 43. 3.30	荘園の図	１葉	個人	豊中市	鎌倉			
市指定	書跡	昭 43. 3.30	山名持豊の願文	１葉	個人	豊中市	室町　永享８	永享8年（1436）山名持豊が納めた自筆願文（神床家文書）		
市指定	書跡	昭 43. 3.30	源家景補任状	１葉	個人	豊中市	鎌倉　建武元			
市指定	書跡	昭 44. 6. 3	出石城下町絵図	１葉	個人	豊岡市出石町魚屋	江戸後期　天保２			
市指定	書跡	昭 44. 6. 3	寄進文　他７葉	７葉	個人	豊中市	中世文書			
市指定	書跡	昭 44. 6. 3	山名文書書翰　他６葉	７葉	個人	豊岡市	中世文書			
市指定	書跡	昭 44. 6. 3	御用部屋日記	一括	豊岡市	豊岡市出石町宵田７８	江戸後期～明治	出石藩の御年寄（家老）が、月番で日々のできごとを記録した藩の日記の一つで、藩主が在国のときは「御城在日記」、江戸に参勤しているときは「御留守日記」と表記されています。文化12年（1815年）正月から明治5年（1872年）２月まで、693冊も残さ		
市指定	書跡	昭 44. 6. 3	東門日乗	２１部	豊岡市	豊岡市出石町宵田７８	江戸後期	天保年間に書かれた出石藩の漢学者桜井東門が著した日記。日乗とは日記のこと。		
市指定	書跡	昭 46. 3.31	豊太閤制札本紙	１葉	個人	豊岡市出石町内町	安土桃山　天正８			
市指定	書跡	昭 51. 3.31	大燈国師墨跡	１葉	願成寺	豊岡市出石町東条３２	室町			
市指定	書跡	昭 51. 3.31	菅荘八幡宮文書（写）	一括	須義神社	豊岡市出石町荒木１７３４	室町（大正時代の写し）			
市指定	書跡	昭 53. 3.31	大悲山（山号）沢庵和尚筆	１葉	慈眼寺	豊岡市出石町桐野５０９	室町			
市指定	書跡	昭 55. 3.31	中世文書山名誠豊公　他８	８葉	総持寺	豊岡市出石町宮内１７３４	室町			
市指定	書跡	昭 58. 3.22	仙石久行筆「弘道館」横額	１幅	弘道小学校	豊岡市出石町寺町	江戸中期　天明２			
市指定	書跡	昭 58. 3.22	松平定信筆横額	１幅	弘道小学校	豊岡市出石町寺町	江戸中期　文化８			
市指定	書跡	昭 58. 3.22	東郷平八郎筆横額	１幅	出石町	豊岡市出石町内町１	明治37			
市指定	書跡	昭 59. 3.30	沙門法音院日道筆勧進状	１葉	経王寺	豊岡市出石町下谷６	安土桃山　天正９			
市指定	古文書	昭 44. 6. 1	光行寺胎内文書	５４葉	光行寺	豊岡市元町６－６	鎌倉時代	光行寺の本尊である阿弥陀如来像の胎内に、遺骨とともに鎌倉時代中期の54葉の文書が納められていました。僧円空が弟子であった覚か く 智ち尼にのために祈った願文といわれています。この願文紙には3cmの小さな阿弥陀像17,497体がぎっしりと刷られていて、覚		
市指定	古文書	昭 44. 6. 1	鳥井家文書	８０巻	個人	豊岡市桜町		但馬豊岡久保町の名主鳥井家の日記。天保10年（1839）までの分が、7代忠左衛門義根。以降は、8代忠左衛門義実が筆録。江戸末期の城下町豊岡の景況を伝える唯一の記録。		
市指定	古文書	昭 52.11. 1	河本家文書「宮部継潤安堵状」	１枚	個人	豊岡市六地蔵		初代豊岡城主「宮部善祥房継潤」が天正9年（1581）町内五町に地 子税を免除する安堵状を下したが、そのときの安堵状が今では唯一河本家に 伝わっている。		

市指定	古文書	昭 52.11. 1	光行寺文書「寺領安堵状」	４枚	光行寺	豊岡市元町６－６			興正寺の末寺であった但馬国城崎郡城崎村の光妙寺という寺は、本願寺に属しているということで但馬国の守護から課役などを免除するとの免許状を得ています。光妙寺は江戸時代に寺号を光行寺と改め、以後は光行寺と号しています。光妙寺の免許状はそのままこの光行寺に伝えられています。この光妙寺の免許状は、大永六年(1526)、尭威こと山名誠豊が発給したものです。宛所は光妙寺ではなく、本願寺末寺中となっています。免許状は本願寺末寺に対し出されたものであって、山名誠豊は但馬国内の本願寺の末寺の課役などを免除したということになります。光妙寺も本願寺の末寺としてこの免許状を得ているので		
市指定	古文書	昭 51. 3. 5	但馬大田文（写）	１枚	個人	豊岡市但東町中山	江戸時代		当時の守護職太田政頼が鎌倉幕府の命を受けて、国の面積、領有関係、耕作状況を註進した文書である。現存する太田文記載の中で特に詳細なものに属するが再度の書写を経ている。		
市指定	古文書	昭 51. 3. 5	わら谷地境争戦許状関係文書		豊岡市	豊岡市但東町西野々２２６	江戸時代		1748年(寛延元年)から3年間にわたって、地境の大きな争いがありました。江戸行きまでした結果の判決がこの「地境裁許状」です。現在の兵庫県但東町の西野々と木村の“わら谷”の土地の境界をめぐる争いです。当時の但東町は、幕府の直轄地である天領と倉見領、出石領の三つの領分に分けられており、この地境では常に土地を巡る争いが起っていたようです。その中でも大きな争いが西野々と木村の“わら谷”を巡る争いで、その裁決は江戸の評定所まで持ち込まれました。		
市指定	古文書	昭 51. 3. 5	天正八年「検地帳」写	１枚	豊岡市	豊岡市但東町赤花	江戸時代		赤花村水帳(写し)は、但馬地方に現存する最も古いものである。領地の実態掌握をするために秀吉の弟、秀長によって検知が行われ、土地の所在、面積、等級、生産者、名請人や石高、耕作者などを調査記入されたもので後の検地にも役立った。紙		
市指定	古文書	昭 51. 3. 5	山名文書	１枚	個人	豊岡市但東町薬王寺	室町時代		山名常熙(時熙)は有名な山名宗全の父親である。薬王寺にある天王社の社領環付状の書下で、神官の不始末によって売却された社領田地を買戻し、寄進するように命じたもの。宛名より上に常熙の署名花押があり、身分の高い者(守護)が低い(守護代)に宛てたものである。		
市指定	歴史資料	平 9. 6.27	大石家文書	３通	豊岡市	豊岡市京町５－２８			大きさは27×37cm。山名宗全が、小田井神社に出した歳暮の礼状で、祈祷と絹をもらった礼が記されています。年代は書かれていませんが、宗全が享徳3年(1454年)から4年間、九日市守護所にいた時のものと考えられます。12月27日に出されたもので、当地と山名氏を結びつける貴重な資料です。		
市指定	歴史資料	平 15. 2. 4	円山川改修測量図	１幅	豊岡市（豊岡市教育委員会）	豊岡市京町５－２８			1889(明治22)年ごろ作製の縮尺5000分の1の詳細な「円山川改修測量図」大きさは96×423cm。明治22年ごろに作成された測量図で、但馬に現存する地図の中でも一番古いものと考えられます。図面には、日高町辺りから北側の円山川下流域が描かれており、当時の大保恵堤の 状況や、いわゆる「大磯の大曲がり」の流路改修計画も確認できます。豊岡市立図書館建設の際、城崎郡役所だった旧郷土		
市指定	考古資料	平 14. 1.28	高屋金山鉄製経筒	２点	豊岡市（豊岡市教育委員会）	豊岡市神美台１５７－４０					
市指定	考古資料	昭 54. 3. 8	鬼神谷窯跡出土品	一括	豊岡市	豊岡市竹野町森本６３２			1974年(昭和49年)、豊岡市竹野町鬼神谷字宮の下で発見されたのは、県下最古の窯を3基の須恵器窯跡群である。少なくとも5世紀後半には、但馬で須恵器の生産が行われていたことがわかる。 また、かつて鬼神谷は須谷地区の一部であったことから、須谷		
市指定	考古資料	昭 55. 4.21	風鐸	１点	豊岡市（豊岡市教育委員会）	豊岡市日高町祢布８０８			1977年但馬国分僧寺跡から出土		
市指定	考古資料	昭 55. 4.21	木簡	３６点	豊岡市（豊岡市教育委員会）	豊岡市日高町祢布８０８			1977年但馬国分僧寺跡から出土		
市指定	考古資料	昭 55. 4.21	玦状耳飾	１点	豊岡市	豊岡市日高町国分寺			野、姫谷遺跡出土		
市指定	考古資料	昭 43. 3.30	下安良古墳出土品	一括	豊岡市	豊岡市出石町宵田７８	古墳前期				
市指定	考古資料	昭 43. 3.30	長持形石棺残片	２点	豊岡市	豊岡市出石町宵田７８	古墳中期				
市指定	考古資料	昭 43. 3.30	長持形石棺残片	１点	本覚寺	豊岡市出石町魚屋１９	古墳中期				
市指定	考古資料	昭 53. 3.31	出石神社旧鳥居残欠	２基	出石神社	豊岡市出石町宮内１１４１	不明				
市指定	考古資料	昭 56. 3.31	弥生式土器（器台）	１点	豊岡市	豊岡市出石町宵田７８	弥生後期				
市指定	考古資料	平 元. 3.23	入佐山３号墳出土品	一括	豊岡市	豊岡市出石町宵田７８	古墳前期		1988年の発掘調査で出土した砂鉄が、日本海の海岸で採取されたものとしては国内最古の「浜砂鉄」。砂鉄は、1988年の発掘調査で、木棺の被葬者の頭部付近で約150gが壺に入れられて見つかっていた。副葬品として発見されるのは唯一の例という。出土したものとして方格銘四獣鏡、四獣形鏡、ガラス製小玉、鉄ヤリガンナ、鉄斧、鉄鎌、鉄剣、鉄刀、鉄槍、鉄鏃など		
市指定	考古資料	昭 51. 3. 5	経筒外容器	１基	大生部兵主神社	豊岡市但東町薬王寺字宮内８４８	平安時代				
市指定	考古資料	昭 51. 3. 5	奥藤古墳出土一括資料（須恵器）	１５個	豊岡市	豊岡市但東町奥藤	古墳時代		須恵器など		
市指定	考古資料	昭 59. 3.31	古鍋器（仏具）	１６個	金蔵寺	豊岡市但東町中山	平安～鎌倉		山頂にあった旧金蔵山金蔵寺は七堂伽藍を有し、山岳寺院として往時隆盛したと伝え聞く。旧金蔵寺から現在の金蔵寺に伝えられた古銅器である。真言宗の仏具で、当時の祭器用の法具とみられる。鍍金のあとが所々に残っている。		
市指定	考古資料	昭 59. 3.31	瓦経	１基	蔵雲寺	豊岡市但東町中山	平安～鎌倉		16×16cm平安中・末期に流行した経典の保存版である。観音像と観音経を刻んで経塚におさめたもの。この瓦経は古い蔵雲寺本堂修理の際、発見されたと伝えられる。		
市指定	無形文化財保持者	平 元. 7.31	城崎麦わら細工技術保持者	５人	個人	豊岡市城崎町湯島			麦わら細工には長い歴史と伝統があり、今より約280年前、城崎に湯治に来た因州(鳥取県)の半七という職人が、竹笛やコマなどに色麦わらを貼って宿の軒先で売り、宿料の足しにしたのが始まりと言われています。		

市指定	民俗資料	昭 52.11. 1	柳ごおり生産用具一式および製品 一式	豊岡市	豊岡市神美台１５７－４０			古くから、杞柳製品は円山川下流域の荒地に生えるコリヤナギを原材料に生産されてきました。編み目が詰まり、丈夫で水も漏らさない作りができるため、耐久性が求められる文書箱や弁当箱、衣装箱などに加工されてきました。これらを作る生産用具も、江戸時代からほとんど姿を変えていません。		
市指定	有形民俗	昭 54. 3. 8	飾千石船 ２基	豊岡市	豊岡市竹野町竹野５０－１２			江戸時代中期から明治時代にかけて、大阪から瀬戸内海を通り、日本海を経て北海道まで寄港しながら、買った品物を別の港で売ってもうける北前船（千石船）が行き来していました。この辺りでは、竹野港がその拠点の一つでした。船主は千石船を新造する際、その実物を縮小した飾千石船を船大工から贈られ、毎年正月に船祝いをして航海の安全を願ったといわれてい		
市指定	有形民俗	昭 55. 3.26	石造十界曼荼羅 １基	蓮華寺	豊岡市竹野町轟３６６			石造の仏像の集まり、賽の河原を表現したもの		
市指定	有形民俗	昭 55. 3.26	石棒 ２本	豊岡市	豊岡市竹野町森本９８４－１					
市指定	有形民俗	昭 62.12.21	興長寺熊野堂海上信仰資料 ９０点	興長寺	豊岡市竹野町竹野２９７－１					
市指定	有形民俗	昭 62.12.21	鷹野神社海上信仰資料 ３点	鷹野神社	豊岡市竹野町竹野８４－１			竹野は江戸時代の終わりごろ但馬北前船入港の中心的な港であった。鷹野神社は多くの船主や船頭たちの海上信仰をあつめ、航海の安全祈り船絵馬を上げた。		
市指定	有形民俗	昭 46. 3.31	大名行列諸道具一式 一括	豊岡市	豊岡塩出石町内町９８	江戸時代		毎年11月3日に行われる出石お城まつりに披露される大名行列槍や り振りは、無形民俗文化財に指定されています。この大名行列に使われていた城主や家老などを乗せる駕か籠ご、馬の鞍くらや鐙あぶみ、また槍振りに使われる白は熊、黒鳥毛、小白鳥などの毛槍などが保存され、展示されています。華やかな大名行列を飾るにふさわしい洗練された道具の数々です。		
市指定	無形民俗	平 8. 9. 2	奈佐節（六条さん）	奈佐節保存会	豊岡市奈佐地区一円			奈佐節は鎌倉時代に生まれ、18世紀になって、豊岡にあった福成寺が出石城主の招きにより移転することになりました。檀家の人々が生活の支えを失い嘆き悲しんでいたところへ、さらに大水害が奈佐地区一帯を襲いました。そこへ、法如上人(一向宗第17代京都西本願寺住職)が、復興の慰問にこの地を訪れました。人々はたいそう喜び、法如上人を歓迎するために、歌い踊ったことが現在の形のはじまりといわれています。		
市指定	無形民俗	平 8. 9. 2	雷神社の御田植祭	雷神社、納屋区、佐野区、上佐野区	豊岡市納屋区、佐野区、上佐野区			5月１日に御田植祭が行われる。神前には早苗に見立てた葉付きの桜の小枝数10本を束ね、拵振り[えぶり]と一緒に供える。2～30人の氏子[うじこ]は宮当番から葉付きの桜の小枝を1本ずつ受け取ると、拝殿の前庭に田に見立てた大きな円陣を作る。この人たちは早乙女[さおとめ]役である。烏帽子をつけた白丁姿[はくちょうすがた]の古老1人が柄振り[えぶり]を持って円の中に入り、田の表面を今度は均らす所作をする。古老がお田植神事の歌を唄い出すと、早苗に見立てた桜の葉を、1枚ずつちぎって円陣の内側に投げ入れる。 最後も同様のことを繰り返すが、神歌を歌い終わると桜の小枝を円の内側に放り投げ、お		
市指定	無形民俗	昭 54. 3. 8	轟大神楽	轟大神楽保存会	豊岡市竹野町轟			豊岡市西部に位置する竹野町轟の森神社では，例年10月第2日曜日の秋祭りに轟大神楽が奉納されます。 伊勢派の流れを組むこの轟大神楽は，但馬地域に伝わる獅子舞と同様，二人立ちの獅子舞で演じられます。，江戸時代後期頃にはこの地域で演じられるようになっていたと推定される。 獅子は神が宿った獅子頭で4種類の獅子舞を演じ，集落の悪魔祓いと五穀豊穣		
市指定	無形民俗	昭 52. 3.29	そうだろ節とヤチャ節	神鍋民謡保存会	豊岡市日高町神鍋			そうだろ節は、日高地域西気・清滝地区で神鍋民謡保存会を中心に伝えられてきました。起源は江戸時代にさかのぼり、神鍋の山林をめぐる争いが解決した宴会の席で歌われたのが始ま		
市指定	無形民俗	平 5. 3.29	田ノ口の賽の神祭	田ノ口区	豊岡市日高町田ノ口			毎年１月第２月曜日に、健康と交通安全を祈って大草鞋（わらじ）と大草履（ぞうり）を編み、賽（さい）の神に奉納する伝統行事		
市指定	無形民俗	平 5. 3.29	松岡の御柱祭	松岡区	豊岡市日高町松岡			毎年4月14日に十二所神社に奉納される伝統行事。十二所神社前の円山川河川敷に据えられた巨大な「御柱松」に火を灯す火祭りである。祭りの由来は、1221年（承久3年）の承久の変で豊岡市高屋に流刑になった雅成親王（後鳥羽上皇皇子）のあとを追って、円山川に身を投げたという妃・幸姫の霊を慰めたこと		
市指定	無形民俗	昭 46. 3.31	大名行列槍振り	豊岡市	豊岡市出石町内町１	江戸時代		江戸末期ごろ、参勤交代の行列を飾るために行われていたものを城下町の町衆が習い伝えてきたとされています。奴衣装に身を包み、先頭の御立振れの指示にあわせて、金紋先箱の足さばきや、長い槍を振りながら互いに受け渡したりする動作が見事です。江戸末期の大名行列に使われていた道具一式も、有形民俗文化財として家老屋敷に大切に保存されています。毎年		
市指定	無形民俗	平 6. 6.17	幟まわし	出石神社	豊岡市出石町宮内１１４１	江戸時代		出石神社で行われる。宮内地区の中学生達が初節句を迎える男の子がいる家々を回り、門前で丸い輪を描きながら5本の幟を持ち、歌を歌い、竹法螺を吹きながら祝う。幟には、豊臣秀吉、静御前などの姿が描かれ、色鮮やかである。この幟は宮内地区の氏子達が代々受け継ぎ、古くなれば新調して大事に守られている。出石神社前の辻、3ヶ所でも行われる。		
市指定	無形民俗	昭 51. 3. 5	ささ噺子（太鼓踊）	安牟加神社	豊岡市但東町虫生			太鼓踊りとは、腰や胸の部分に太鼓を付け、前後左右に足を移動させながら踊る踊りをいう。		
市指定	史跡	昭 48. 6.15	銅鐸出土地（跡） １基	気比区	豊岡市気比					
市指定	史跡	昭 52.11. 1	森尾古墳跡 １基	個人	豊岡市森尾					
市指定	史跡	昭 52.11. 1	大石良雄夫人　りくの墓 １基	正福寺（豊岡市教育委員会）	豊岡市日撫			正福寺の山すそにひっそりとたたずむ、大石りくとその子・吉千代、くうの塚です。毎年12月14 日には、墓前で義士祭が営まれ		
市指定	史跡	昭 57. 6.29	風谷古墳 １基	田結区	豊岡市田結字風谷			直径約15m、高さ3mの円墳。 墳丘南側に片袖式の横穴式石室が開口、全長約11m、玄室部は長さ5.4m、幅2.6m、高さ約2.7m、羨道部は現状で長さ約3.6mを測る。6世紀末頃～7世紀初頭の築造。		

市指定	史跡	昭 61．3.29	大師山古墳群　１６基　2,608㎡	個人、豊岡市	豊岡市引野字大成ル他			豊岡市引野 90墓近い円墳が造られています。		
市指定	史跡	平　6．4.25	鶴城址　204,102㎡	山本区、六地蔵区、船町区、日撫区	豊岡市山本字愛宕山４９－１８他			鶴城は豊岡市を貫流する円山川の東方の愛宕山上に存在した山城で、永享年間（1429～41）、但馬守護職山名宗全による築城と伝えられる。戦国時代になると、「山名四天王」の一人田結庄氏の居城となった。但馬有数の規模を有した城で、三方に延びる尾根上に広がる南北660m、東西460mの城域には曲輪が連なり、堀切、土塁を多用され、戦国期特有の畝状竪堀も設け		
市指定	史跡	平 12．8.29	三開山城址　約151,145㎡	木内区、香住区、大篠岡区他	豊岡市木内字見開山１０５１－１他			城跡は豊岡市大篠岡木内にあって「瑞峰寺」南東側の三開山山頂（標高202m）に山上郭、中腹にかけては広大な規模を持つ当時の屋敷跡が展開されている。古くから成立している山城である為に幾度も城主は交代している様だが、特に山名氏の居城として有名。当然秀吉による但馬攻略の際には落城したと思われるが、その後秀吉側によって改修が施されたのかあるいは		
市指定	史跡	平 17．2.24	加陽大市山遺跡　2,040㎡	下加陽区、沖加陽区	豊岡市加陽字大市山８１	奈良後期～平安後期				
市指定	史跡	昭 55．3.26	ヨゴレババ古墳群　２基	田久日区	豊岡市竹野町田久日字坊主が鳴４８４－６			日本海を望む断崖絶壁の上にある古墳群で、約35m離れて2基が造られています。横穴式石室を内部に持ち、7世紀前半に造られたと考えられます。この古墳群にたどり着くには、海岸道路から20分近く下りて行かなければなりません。近くに集落を形成する場所もないため、眼下に広がる日本海を支配する人物の墓		
市指定	史跡	昭 44．3.15	神鍋遺跡	太田区	豊岡市日高町太田			神鍋山の北側、標高350m付近の緩やかな斜面に広がっています。縄文時代早期・前期（約1万年前～5千年前）を中心とする土器、石器が 大量に見つかっています。発掘調査によって、前期の住居址し		
市指定	史跡	昭 51．3.26	岩倉古墳群　群集	栗栖野区	豊岡市日高町栗栖野					
市指定	史跡	昭 43．3.30	出石城跡（平城）	豊岡市	豊岡市出石町内町字城山	江戸時代		1604年に小出吉英（よしふさ）が有子山（ありこやま）山頂にあった高城を山麓に移して平城を築いたのが出石城の始まりです。小出氏断絶後、しばらくは松平氏によって治められましたが、1706年に仙石氏が、信州上田から入封しました。以来出石は幕末まで仙石氏の城下町として繁栄しました。		
市指定	史跡	昭 43．3.30	家老屋敷及び長屋門	豊岡市	豊岡市出石町内町９８－９	江戸時代		出石城の内堀の近く、江戸時代後期の上級武士の居住区であった内町通りに面して当屋敷がある。 仙石騒動の中心人物の一人である仙石左京の屋敷跡に建つことから左京屋敷とも呼ばれる。当屋敷の外観は平屋建に見えるが、内部には隠し階段が仕組まれており、2階建である。 刀を使い難くするためか天井は低く造られ、屋根上への通路も存在する。これらは、襲撃		
市指定	史跡	昭 43．3.30	茶臼山古墳　１基	個人	豊岡市出石町谷山８４７－１	古墳時代		5世紀ごろの築造、但馬最大級の円墳		
市指定	史跡	昭 44．6．3	辰鼓楼　１棟	豊岡市	豊岡市出石町内町１	明治４		明治4年に造られたもので、今では出石城下町のシンボルとしてよく知られています。高さは13.5mで四層からなり、裾に向かって緩やかな曲線を描いています。最初は太鼓で辰と き（時刻のこと）を知らせていました、 明治14年に医師池口忠恕が大時計を寄贈してここに掲げ、以		
市指定	史跡	昭 51．3.31	須義八幡山古墳　１基	細見区	豊岡市出石町細見字丸山	古墳時代				
市指定	史跡	昭 51．3.31	船着場灯籠　１基	豊岡市	豊岡市出石町柳５３－２３	明治２		かつては日本海より三十石船が入れるほど広かった谷山川（旧出石川）の大橋東詰にあった船着場の灯籠である。別名「おりゅう灯篭」「おりゅう」という名の由来は、鎌倉時代の悲恋物語の主人公「おりゅう」にちなんだものとされている。灯籠のすぐそばには柳の木があり、おりゅうと恋人が寄り添う様子に見立ててい		
市指定	史跡	昭 52．3.31	寺屋敷出石焼窯跡　１基	個人	豊岡市出石町福住	明治時代				
市指定	史跡	昭 53．3.31	加藤弘之生家　１棟	豊岡市	豊岡市出石町下谷	江戸時代		東京大学の初代学長を務めた加藤弘之の生家。		
市指定	史跡	昭 55．3.31	出石焼登り窯　１基	個人	豊岡市出石町福住	明治時代		1890（明治23）年に創業した上田製陶所（同町田結庄）が建造した。開業時に作られた登り窯は、国会開設の年にちなんで「国会窯」と命名。その後、戦時色の強まりに伴って燃料のアカマツが不足したため、当時の職人らが国会窯の資材を用いて1939（昭和14）年に省エネ型の徳利窯を築いた。欧州に起源が		
市指定	史跡	昭 51．3．5	亀ヶ城跡	個人	豊岡市但東町太田	室町時代		太田集落の北側にある独立した丘陵上にある山城で、但馬守護であった太田氏が築城したと伝えられています。丹後と出石を結ぶ街道を見下ろす場所にあり、山裾には、門口、構口、大手口などといった地名が残されています。中央部に幅15m、深さ10mの堀切があり、標高165mに位置する東城と、標高172mの		
市指定	史跡	昭 51．3．5	御池（恒良親王住居跡）	個人	豊岡市但東町中畑山	室町時代				
市指定	史跡	昭 51．3．5	旧但馬安国寺跡	個人	豊岡市但東町相田	室町時代				
市指定	史跡	昭 51．3．5	旧金蔵山金蔵寺跡	金蔵寺	豊岡市但東町中山	中世				
市指定	史跡	昭 51．3．5	久畑関所跡	久畑区長	豊岡市但東町久畑９６５	江戸時代		久畑村は江戸時代、京街道の宿場として栄えていました。出石藩の参勤交代の本陣もここに構えられ、京都側の村境に関所が設けられていました。幕末、禁門の変で追われる身となった桂小五郎（後の木戸孝允）が、出石在住の商人広戸甚助の機転によっ、この関所を通ることができたことでもよく知られていま		
市指定	史跡	昭 51．3．5	大岡畔・わら谷	西野々区長	豊岡市但東町西野々わら谷他	江戸時代		1748年（寛延元年）から3年間にわたって、地境の大きな争いがありました。江戸行きまでした結果の判決がこの「地境裁許状」です。現在の兵庫県但東町の西野々と木村の“わら谷”の土地の境界をめぐる争いです。当時の但東町は、幕府の直轄地である天領と倉見領、出石領の三つの領分に分けられており、この地境では常に土地を巡る争いが起っていたようです。その中でも大きな争いが西野々と木村の“わら谷”を巡る争いで、その裁		
市指定	史跡	昭 51．3．5	奥藤古墳　１基	個人	豊岡市但東町奥藤	古墳時代				
市指定	史跡	昭 51．3．5	佐田古墳　１基	個人	豊岡市但東町佐田	古墳時代				
市指定	史跡	昭 51．3．5	栗尾古墳　１基	栗尾区長	豊岡市但東町栗尾	古墳時代				

市指定	名勝	昭 63. 4.27	観正寺の庭園 約225㎡	観正寺	豊岡市気比２１４１			文化4年（1807年）江戸の庭師、岩崎清光によって作られた築山式枯山水庭園で、但馬の三庭園の一つである。植栽本位の自然主義的作庭傾向の強かった当時、石組み本位の水墨画的な庭園は珍しい。		
市指定	名勝	平 13. 2.27	三木邸庭園 244㎡	個人	豊岡市目坂					
市指定	名勝	昭 52.11.15	段の白滝と河床	段区	豊岡市竹野町段字白滝			銅山から段に向かう市道の途中の小さな谷にあります。四段の滝と、50m以上続く一枚岩からなる河床を流れる水は、よく澄み、年中枯れたことがないといわれています。特に滝つぼから河床に流れ込む景観は、周囲の緑との対比が美しく、また、一枚岩の河床を流れる水は、透明な布を流したようにも見えま		
市指定	名勝	平 元. 3. 2	細田邸庭園	個人	豊岡市竹野町轟			塀に囲まれ大きな滝石組も配置された歴史のある大庄屋の池泉観賞式日本庭園です。（1750年頃の築庭とされる）		
市指定	名勝	昭 55.12.18	隆国寺石垣 １基	隆国寺	豊岡市日高町荒川２２			この石垣は、神鍋山溶岩を積み上げたもので、寛政4年（1792年）の本堂の再建とともに、改修されました。境内正面及び両側に配する石垣も町を代表する貴重な文化財です。創建当時に作られたもので、神鍋溶岩の蒸し石を巧みに組み合わせ、重厚な構えを呈しています。特に、山門を経て本堂を望む景観と見事な構成をなし、その石組みは優れた技術と感覚を示しています。苔むした石垣に鮮やかなボタンの花がいっそう映え、訪れる		
市指定	名勝	昭 53. 3.31	竜谷寺本堂庭園	竜谷寺	豊岡市出石町三木１３５	江戸時代				
市指定	名勝	昭 53. 3.31	白糸の滝	袴狭区	豊岡市出石町袴狭			兵庫県豊岡市出石町の袴狭（はかざ）川上流に懸かる滝。		
市指定	名勝	昭 60. 3.20	願成寺本堂庭園	願成寺	豊岡市出石町東条３２	江戸時代		天保年間に書かれた『東門日乗』に、天保6年（1800年）ごろに造られた庭園であることが記されていました。庭園は庫裏書院と本堂から鑑賞する池泉鑑賞式庭園で、入佐山の斜面を利用して造られています。宗鏡寺 の庭を「無の庭」、本庭を「心の庭」として、合わせて「無心の庭」として沢庵禅師が造ったという伝		
市指定	名勝	昭 63. 4.26	経王寺本堂庭園	経王寺	豊岡市出石町下谷６	江戸時代				
市指定	名勝	昭 63. 4.26	中和邸庭園	個人	豊岡市出石町三木	江戸時代		江戸時代中期に作庭されたもので,小ぶりな池泉（ちせん）鑑賞式庭園ですが、石組みや庭園構成に優れ、洗練されたものに仕上げられています。		
市指定	天然記念物	昭 44. 6. 1	ハナミョウガの群落 一群	気比神社　気比区	豊岡市気比			茎や葉がミョウガに似ていて、美しい花が咲くのでハナミョウガという。シイやカシなどの林床に形成される常緑多年生草木の群落。この地のハナミョウガが群落規模も大きいので天然記念		
市指定	天然記念物	昭 52.11. 1	めぐみ公園のシイノキ １本	豊岡市	豊岡市京町			樹齢約500年のシイの巨木		
市指定	天然記念物	昭 52.11. 1	安楽寺のエノキ １本	安楽寺	豊岡市城南町４－１６			幹周/5.25m、樹高/21m、樹齢/推定400年。兵庫県では最大の幹周をもつエノキ。		
市指定	天然記念物	平 7. 6.25	絹巻神社周辺の暖地性原生林 9,278㎡	豊岡市	豊岡市気比字絹巻３６７５－３他			約2haのスダジイを主体とした原生林である。スダジイの中に、ヒメユズリハ、カクレミノ、カゴノキ、モチノキ、タブなどの木や多くの種類の草が生えている。ヒメハルゼミの生息地としても知られている。兵庫有数の規模、種類数、自然度の高さで日本海型照葉樹林を代表する樹林である。		
市指定	天然記念物	平 6. 6.25	畑上の大トチノキ群 784,948㎡	畑上区	豊岡市畑上１２５９－２８			目通り幹囲7．20メートル、根囲り13．50メートルの巨木で垂直に伸び地上6メートルより西方に一大枝を出しまた地上9メートルより三本の大枝を分けている。 枝張り西へ20メートル、東へ16．60メートル東北へ17メートル、南へ15．50メートル北へ14．50メートルで樹勢きわめて旺盛でトチノキの巨木として有数なものである。		
市指定	天然記念物	平 9. 6.27	金刀比羅神社のコブシ １本	金刀比羅神社	豊岡市野上字尾崎６２６－１			この参道に自生するコブシは近畿最大級の巨木で、平成8年県指定郷土記念物に指定。4月10日春祭の頃の花は見事であり、スギ・ケヤキ・ツバキ・ヤブソテツ・フモトシダ・イノデ・ジャノヒゲ等安定した成育環境である。樹高21.5m		
市指定	天然記念物	平 2. 5.18	ヒメハルゼミの発生の地	四所神社 温泉寺	豊岡市城崎町湯島４４７　神社裏山 豊岡市城崎町湯島９８５-２　参道沿い古木群一帯			ヒメハルゼミは、ヒグラシによく似ている小形のセミです。体長はオスが約2．8センチメートル、メスが約2．5センチメートルです。体の色は暗いオリーブ色で、羽は透明、頭に黒紋、背にも黒い紋があります。一般にシイの木に棲みますが、アカガシ、ヤブツバキなどにも棲み、7月末ごろ羽化が終わります。		
市指定	天然記念物	平 2. 5.18	温泉寺参道沿いの古木群	温泉寺	豊岡市城崎町湯島９８５-２			温泉寺山門から本堂にかけての参道沿いには、300mにかけて、スダジイを主にしてツブラジイなどシイの古木が立ち並んでいます。参道石段の両脇にはコケが生え、シダ類やシャガの群落なども点在しています。森厳そのものが1200余年の歴史を物語っており、自然の美しさは、ふるさとの道そのものである		
市指定	天然記念物	昭 54. 3. 8	おまき桜 １本	ほそ椒神社	豊岡市竹野町椒字岩内			県道沿いにある,ほそ椒（ほそき）神社の境内ある古木の桜、樹高・14．5m、胸高周囲6,1m樹種はエドヒガン桜、主幹には大きな空洞ありますが、毎年四月の中旬から下旬ごろに満開wo迎えます。麻（あさ）の栽培が盛んだったころ、この桜の開花が、麻（お）の種の蒔く目安になっていたことから、“おまき桜”と呼ばれ		
市指定	天然記念物	昭 44. 3.15	神鍋山及び神鍋溶岩流	栗栖野区、太田区、東河内区、兵庫県他	豊岡市日高町栗栖野他			神鍋山（かんなべやま）は、標高469.5mのお椀を伏せたような形です。 神鍋火山群の中で、最も新しい火山で、約2万年前頃まで、噴火していたのではないかと言われています。近畿でもっとも新しい火山で、はっきりとした噴火口が残る珍しい山です。噴火口は周囲750m、深さ約40mの大きさです。神鍋火山群から噴出された溶岩が、神鍋の谷を埋め下流15kmまで流れました。そこは円山川の流れにそそぎ、様々な地形を創りました。その溶		
市指定	天然記念物	昭 48. 3.29	山神社社叢 群生	山神社	豊岡市日高町山宮			この地を昔は『神戸の里』と呼び、この神社は位の高い山の神として崇拝されてきた。山神社社叢はケヤキが多く幹周り4m前後の木が8本ある。境内の奥にこの640cmのケヤキがあり、460cmと340cmのイチョウや、貴重なフジキの巨木もあり立派な木がまとまって残っている森である。		

市指定	天然記念物	昭 51．3.26	名色の大モミジ　１本	個人	豊岡市日高町名色			イロハモミジ		
市指定	天然記念物	昭 55．4.21	奇勝知見のとんがり山と大桜	知見区	豊岡市日高町知見			トンガリ山の麓江戸末期トンガリ山にたてこもり仙人になったお婆さんがおり、夕食時になるとこの山から滑空して降りてきた。村人は真似て滑空しようとしたがどうしても出来なかったことからパパキミョウという地名が出来たと伝えられる。ヤマザクラにさきがけて、白い可愛らしい花を付ける老木である。樹種 バラ科・サクラ属　エドヒガン 樹高 21m 幹周 5.4m		
市指定	天然記念物	昭 58．3.28	久斗兵主神社のケヤキ　１本	久斗区	豊岡市日高町久斗					
市指定	天然記念物	昭 59．3.30	井田神社社叢　群生	井田神社	豊岡市日高町鶴岡			井田神社社叢は、標高１７mの円山川右岸から７７．２mの伊福城跡まで広がっています。町内で最も低いところにある照葉樹林で、面積が８，７９２㎡と比較的大きな規模をもっています。この社叢には、町内で稀なタブノキやカゴノキを含む複数の大木が残ることから原生状態に近いと考えられ、日高町の低地の照葉樹林を考える上で高い価値を持つ森です。社叢は、スダジイやシラカシの中にアラカシが混じる照葉樹林ですが、タブノキやカゴノキ、イタビラカズラなど温暖な場所に生育する植物が含まれています。カゴノキは「なんじゃもんじゃの木」とも呼ばれ、大		
市指定	天然記念物	昭 59．3.30	万劫の大カツラ　１本	個人	豊岡市日高町万劫			幹周りが9mあり、兵庫県で第2位の大カツラと言われ、植樹祭を記念して作られた『但馬の巨木百選』の表紙に用いられている。昔の人は、カツラの木が水を生むと思って大切にしてきた。蘇武岳の中に、公開されていないがこのレベルのカツラが数本知られている。樹高 35m 幹周 9m		
市指定	天然記念物	平　5．9.16	石部神社の大ケヤキ　１本	石部神社	豊岡市出石町下谷５４－１			幹周/7.30m、樹高/25m、樹齢/推定1000年。		
市指定	天然記念物	昭 51．3．5	説法杉　１本	蔵雲寺	豊岡市但東町中山１１５１			臨済宗大徳寺派の蔵雲寺の中庭にある大杉は昔から説法スギと呼ばれ、一度仰ぎ見た人は、誰でもどんなに迷い深い人でも必ず後には正しい道に導かれると言う伝説がある。この木は枝の数が多く地上7～8mで幹が二股になっていて、この種子からは二股の苗木が育つと言われている。幹周/5.25m、樹高		
市指定	天然記念物	昭 51．3．5	清竜の滝	西谷区長	豊岡市但東町西谷字滝ノ谷１０５			県立自然公園東床尾山東麓にある。規模 :落差約20m		
市指定	天然記念物	昭 51．3．5	大師山巨石群	赤花区隣保長	豊岡市但東町赤花字菅谷			宮津花崗岩の方状節理･風化（大師山の巨石群）十数個の巨岩が並び、大きなものでは高さ20mに及ぶものも。		
市指定	天然記念物	昭 51．3．5	オオサンショウウオ棲息地	坂野区長	豊岡市但東町坂野			文化財保護法や種の保存法，絶滅危惧Ⅱ類（環境省自然環境局野生生物課，2006）に指定されている大型の両生類であり，岐阜県以西の本州と四国及び九州北部に広く分布する		
市指定	天然記念物	平 15．5.29	河ノ辺の大桜　１本	薬王寺生産森林組合	豊岡市但東町大河内伊吹山１－１４			幹回り四・九七メートル、樹高二〇メートル、樹齢二百年、県下でも5本の指に入る ヤマザクラ		
市指定	天然記念物	平 19．3.26	安川神社のムクノキ　１本	百合地区	豊岡市百合地向フ山１３１４			幹周/6.25m、樹高/34m。ムクノキとして、幹周では兵庫県下第6位ですが、樹高ではナンバーワンです。		

文化財の種類	指定種別	種　　別	名称	所在地	備考	ジオサイトとなっているもの	保護保全の状況（無形文化に関しては担い手の問題も含む）
有形文化財	国指定	絵画	大乗寺障壁画	香美町香住区森860　大乗寺	圓山應擧とその門弟12名の筆による障壁画165面		
有形文化財	国指定	絵画	絹本着色釈迦十六善神像	香美町村岡区村岡字宮ノ上723　黒野神社	伝承によれば宮中の絵所の絵師巨勢金岡[こせのかなおか]作と伝えられていますが、実際は鎌倉時代後期から南北朝時代の作		
有形文化財	国指定	彫刻	木造聖観音立像	香美町香住区下浜599　帝釈寺	像高　144．7センチメートル　木造彩色　平安時代		
有形文化財	国指定	彫刻	木造聖観音立像	香美町香住区森860　大乗	木造　一木造、像高　103cm、平安時代の特徴をもつ仏像。		
有形文化財	国指定	彫刻	木造観音立像	香美町香住区森860　大乗	木造　一木造、像高　93cm		
有形文化財	国指定	彫刻	木造十一面観音立像	香美町香住区森860　大乗	木造彩色　寄木造、像高　138cm、平安時代の末期特徴をもつ仏像。		
記念物	国指定	名勝　天然記念物	但馬御火浦	香美町香住区余部	三尾漁港の東前方に「三尾大島」と呼ばれる島があります。ここを中心に、岸田川河口から香美町伊笹岬までの海岸一体は日本海の荒波で侵食された凝灰（ぎょうかい）岩、花こう岩などの変化に富んだ景色が多く残		
記念物	国指定	名勝	香住海岸	香美町香住区境字今子谷632－1　他　919．344平方メートルの地先1，000メートル以内の海面	但馬海岸の中のほぼ中心部に位置する香住海岸は海食によってできた雄大な柱状節理や断崖、洞門、洞穴、岩礁など変化に富んだ景勝地。		
記念物	国指定	天然記念物	鎧の袖	香美町下浜字フナ谷1535－2　他　1，761平方メートル	鎧の袖は高さ約70メートル、幅200メートル、傾斜角70度の切り立った崖で、崖のほとんど全部が柱状節理の著しく発達した流紋岩からできており、火成岩の構造としてはとても珍しいものです。柱状節理と板状節理が交わり、鎧の縅[おどし]のようにみえるために鎧の袖の名が生まれた。		
有形文化財	県指定	建造物	郡主神社本殿	香美町村岡区板仕野字平ル1番　郡主神社	指定概要柿葺　三間社流造「郡支配棟礼写」（文化5年）によれば、本殿は応永15年（1408年）の建立と伝え、寛永・享保などその後数次の修理を経ている。		
有形文化財	県指定	建造物	石造五輪塔	香美町香住区訓谷　沖野神社	文安元年（1444年）時の長谷寺住職慶成律師が大工（石工）宗次につくらせ供養のため建立したもの。		
有形文化財	県指定	建造物	大乗寺　客殿及び庫裡、山門	香美町香住区森860　大乗寺	門の建築で、このような手の込んだ細部を作るのは珍しく、さらに所狭しと充填された彫刻は中井権次橘正次の作		
有形文化財	県指定	絵画	役行者像	香美町香住区安木	98．2cm×38．7cm絹本着色　室町時代初期の作		
有形文化財	県指定	彫刻	木造四天王立像	香美町香住区森860　大乗寺	観音堂に安置されている四天王像で、4体とも体部は内刳りを施し、背部を同質の材で矧ぎつけている。藤原初期の趣きをよく残しており貴重な存		
有形文化財	県指定	彫刻	木造薬師如来坐像	香美町香住区森860　大乗寺	カヤ材でつくられ、頭部・体部・二の腕を含んだ部分を一材から彫り出して内刳りを施し、後頭部から背部、膝部は別材で矧ぎつけている。但馬地方の仏師が京風にならい、12世紀初頭頃に製作したものと考えられる。		
有形文化財	県指定	彫刻	木造帝釈天倚像	香美町香住区下浜599　帝釈寺	帝釈寺本尊で本堂内陣中央の厨子内に安置されている。像内背面に正安三年（1301年）七月十日の像造期日と思われる墨書がある。		
記念物	県指定	名勝	猿尾滝	香美町村岡区日影	鮮緑ヒン岩（猿尾滝ヒン岩脈）よりなる高さ約60メートルの岩頭から真白い水がしぶきをあげて落下するのはまことに壮観であり、この景観が猿の尾に似ているということから「猿尾滝」と名づけられたといわれている。		
記念物	県指定	名勝	吉滝	香美町小代区鍛冶屋	滝の高さが28m（第1滝[23m]、第2滝[5m]）あり、吉滝神社が滝の裏側に建立されています。 裏見の滝は県下でもめずらしい。		
記念物	県指定	天然記念物	和池の大カツラ	香美町村岡区和池	村岡区和池の西方約15km奥地渓流にまたがって成長したカツラの巨木です。 　但馬高原植物園の園内にあり樹高約38m、根まわり約18．5m、目通り幹囲約16．4m、支幹の太さ約3m内外の樹叢12本、枝張東側10．2m、西側9．3m、南側16．0m、北側は9．5mです。		
記念物	県指定	天然記念物	兎和野の大カツラ	香美町村岡区黒田	兎和野高原野外教育センターの南約600mの所にあり、根元に渓流のある谷間に成長した巨木。 樹高約32m、根まわり約12m、目通り幹囲		
記念物	県指定	天然記念物	小城のブナ原生林	香美町村岡区山田・小城	小城部落の背後にある標高700～800メートルの北斜面に約4ヘクタールにわたって約3，000本、代表樹約500本のブナの純林が、小城地区の共有林として保存されています。		
記念物	県指定	天然記念物	大笹のザゼンソウ群落	香美町村岡区大笹	ザゼンソウはサトイモ科に属し、寒地の多年生草本である。鉢伏山、ハチ高原の東にある大笹のザゼンソウ群落は面積1．5ヘクタールにおよび、植生状態きわめて旺盛であり、他に比肩を見ない。		
記念物	県指定	天然記念物	海底面の流痕	香美町村岡区村岡字由里	約1，500万年前の海底面を土砂をふくんだ海水が流れたあとを示すもので、当時の村岡地域の状況を物語る資料として学術上価値が高いものと考えられます。		
記念物	県指定	天然記念物	銚子ヶ谷カキツバタ群落	香美町村岡区村岡	銚子ヶ谷湿原は、植物社会学的には冷温帯の日本海型ブナ林であるブナ－ヒメアオキ群集に成立する湿原です。花粉分析の結果では、4，000年以前からカキツバタが確認され過去の植物史を物語る湿原でもあり貴		
記念物	県指定	天然記念物	漣痕化石	香美町香住区下浜	この漣痕化石は香住砂岩泥層と呼ばれる層で、新第3紀中新世中期（約2000万年前）の地層です。これは日本列島が形成される時期であり、当時の環境をしめす貴重な資料です。		
記念物	県指定	天然記念物	小長辿の大トチ	香美町小代区大谷字長辿峠 稲荷神社	根囲り11．3メートル、目通りの周囲9．62メートル、樹高26．93メートル、樹齢は400年以上と推定されています。		

記念物	県指定	記念物	三の谷壁画古墳	香美町村岡区高井	矢田川の上流、瀞川山の東北に延びた1支脈、標高350メートルの山腹に営まれた横穴式石室古墳。墳丘は約12メートルの円墳状を呈しており、幅1．2メートル、高さ1．7メートル、奥行約6．5メートルの横穴式石室が開口しており、壁面に、線刻による2羽の鳥の沈線文が認められ		
記念物	県指定	史跡	八幡山古墳群（付　八幡山6号墳出土品一括）	香美町村岡区福岡216-1	福岡集落を眼下に見下ろす山頂に営まれた古墳群で、その地域は、現在、八幡神社境内地となっている。いずれも円墳と推定され周濠をもつものもあり、石室の開口するものが多く、羨道部をもった横穴式石室古墳。ほぼ6世紀代の古墳とみられるが、中には5世紀にさかのぼる古墳もあ		
記念物	県指定	史跡	文堂古墳（付　文堂古墳出土品一括）	香美町村岡区寺河内	眼下に高井部落を見おろす標高270メートルの山腹に営まれた、後期古墳の両袖式の横穴式石室古墳です。		
民俗文化財	町指定	無形民俗文化財	柤岡芸おどり	香美町村岡区柤岡	柤岡地区に伝承された所作事[しょさごと]踊りで 踊り手は二人、時として三人が一組となり、棒、懐剣、脇差、なぎなたなどを手にし、音頭と太鼓に合わせて所作事を演じるものです。		
民俗文化財	町指定	無形民俗文化財	寿式三番叟	香美町小代区新屋	熱田神社の祭礼当日に、地区の安泰と農作物の豊作を祈念してお社に作物を献上し、神社境内のお堂で村芝居の前に、神酒と清めの塩を供えて奉納することとされ、 二人の舞子（踏み手）と謡曲兼拍子木の打ち手一人並びに舞子の衣装着替えを行う黒子（影子）二人で演出される村芝居		
民俗文化財	町指定	無形民俗文化財	鎧麒麟獅子舞	香美町香住区鎧	1650年（慶安3年）鳥取市樗谿[おうちだに]神社の建設をきっかけに始まった。明治45年山陰本線開通祝に披露されたのが始まり、村々の祭りにも取り入れられるようになって広がったと言われている。その最東端が十二社神社（鎧地区）の麒麟獅子舞といわれている。		
民俗文化財	町指定	無形民俗文化財	和田ショウブの綱引き	香美町村岡区和田地区	旧五月節供のショウブ綱引きの伝統行事です。 現在但馬地方で祭りで綱引きを行われているのは極僅かとなり、貴重な文化財といえます。		
民俗文化財	町指定	無形民俗文化財	入江きつねぎゃあろ	香美町村岡区入江	入江の狐狩りは、1月8日（かつては14日のとんどの日）に行われる。まず先ぶれの人が「もう、ねっされよう（寝なさいよ）」と村中をふれて歩く。現在は「火い消せえ火い消せえ」とふれる。その声に応じて村の人たちは、雨戸を閉め、光が外へもれないようにし、声をひそめて室内に慎む。ご幣をもった人を先頭に、唱えごとを交互に叫びながら、村中をまわる。		
民俗文化財	町指定	無形民俗文化財	大糠お頭の餅つき	香美町村岡区大糠	大糠区のお頭の餅つきは厳格さが漂い、歴史的条件をよく伝えています。餅つきのみが芸能的評価を受けますが、祭祀組織、民俗的通過儀礼など文化財としての価値が十分にあると考えられます。		
民俗文化財	町指定	無形民俗文化財	耀山お当の餅つき	香美町村岡区耀山	耀山区のお当の餅つきはオープンな形式で、歴史的条件をよく伝えてい		
記念物	町指定	史跡	ホウキ古墳	香美町香住区訓谷	香住区訓谷の東側山すそに西に向けて造られている横穴式石室		
記念物	町指定	史跡	上野山古墳	香美町香住区矢田	上野山丘陵の北端に位置し、鉄道線路をへだててちょうど矢田の大山神社の真上あたりに2基の石棺が並んでいる。長さおよそ2メートル、幅およそ80センチメートルの箱式石棺二基		
記念物	町指定	史跡	安坂山古墳	香美町香住区下岡	香住区西下岡から隼人に向う途中の西側の山の中腹に位置し、奥佐津地区の中心部を見下ろす眺望のよい陵線上に造られている横穴式石		
有形文化財	町指定	彫刻	木造阿弥陀如来坐像	香美町香住区下浜833（宗）西迎寺	座高　85．6cm、材質　ヒノキ　寄木造　彫眼、年代　平安時代　後期		
記念物	町指定	史跡	はじき口古墳	香美町小代区広井	径約10mのやや変形した円墳で、墳丘の高さは約2m。入口を東側に向けた横穴式の石室があり、大きさ 奥行4．3m、幅1．5m、高さ1．3m。		
記念物	町指定	史跡	村岡藩主山名氏墓所	一二峠御廟：香美町村岡区萩山壺渓御廟：香美町村岡区村岡桜山御廟：香美町村岡区村岡	村岡藩主山名家墓所については、一二峠御廟、壺渓御廟、桜山御廟の3ヵ所所在する。村岡藩初代山名豊国は清和源氏の流れを汲む山名氏の末裔であり、慶長6年（1601）に但馬国七美郡6700石の知行を得ました。		
記念物	町指定	天然記念物	大乗寺のくす	香美町香住区森860　大乗	樹齢約800年、樹高約28メートル、幹周り約5．8メートルのくすの木		
記念物	町指定	天然記念物	せんだん葉の菩提樹	香美町香住区一日市　岡見公園	野生状態で自生群落しています。原産地は中国大陸で本邦では珍しい。高さ6メートル、幹周り50メートルを最大として、約100本の純群落で、岡見公園の東側斜面に生育している。		
記念物	町指定	天然記念物	八坂神社モチノキを主とした	香美町香住区安木字小山1473　（宗）八坂神社	約20本のモチの古木の群生を中心にケヤキの大木や椿が群生している。		
記念物	町指定	天然記念物	沖野神社の大ケヤキ	香美町香住区訓谷　（宗）沖野神社	香住区内で最大のケヤキ、樹高約25メートル 幹周り4．95メートル		
記念物	町指定	天然記念物	訓谷のクロマツ	香美町香住区訓谷	・樹高約22メートル　幹周り5．1メートル樹齢約400年のクロマツ。但馬の巨木100選		
記念物	町指定	天然記念物	黄金の松	香美町香住区沖浦	沖浦鉱山跡の海岸の岩上に1本だけ生息しています。四囲の事情からクロマツの変異したものと思われますが、年中黄金色の松葉で、春季ナタネの花盛りの候にはいっそうその色を増して美しく珍しい松です。		
記念物	町指定	天然記念物	アセビ谷甌穴群	香美町香住区余部	市午アセビ谷の甌穴群は、数多くの甌穴が点在しており、中でも最大の岡壺は、縦3．6メートル、横4．0メートル、深さ2．2メートルを誇る。		

記念物	町指定	天然記念物	八反滝	香美町小代区新屋	約200万年前、鉢伏山の火山活動によってできた安山岩の平原の侵食のはげしいところにできた滝といわれています。		
記念物	町指定	史跡	庵の谷2号墳	香美町村岡区森脇	庵の谷2号墳は4世紀後半から5世紀前半に作られた矢田川流域における最古の古墳。出土遺物の「土器転用枕」は古墳時代にこの地域にそのような風習があったことがわかる貴重な資料です。		
有形文化財	町指定	建造物	宝篋印塔	香美町香住区小原616（宗）遍照寺	町内に数ある宝篋印塔の中では古い部類に属し、形の保存がよく秀品です。桃山時代ごろの作品（約400年前）と見られます。		
有形文化財	町指定	建造物	大放神社社殿	香美町香住区鎧字北山584-2（宗）十二社神社	香住区鎧の十二社神社の境内にある小社です。各所に中世の部材を残し、中世初頭の形式を残すめずらしい神社として貴重です。		
有形文化財	町指定	絵画	般若（釈迦）十六善神像	香美町香住区下浜599（宗）帝釈寺	室町時代の作,般若経とそれを誦持する人々を守る十六の夜叉神像を描いたもの。		
有形文化財	町指定	彫刻	訓谷磨崖仏	香美町香住区訓谷	磨崖仏とは、自然の巨石や岩壁に彫刻した仏像で石仏の一種。銘はないが、大地蔵信仰が民間に普及した室町時代以降に旧街道の安全を祈念して彫られたものと推測される。6躯の地蔵像は陽刻、1躯の高さ約40cm、幅約15cm		
有形文化財	町指定	彫刻	聖徳太子立像	香美町香住区一日市165（宗）長福寺	木造　彩色　　身高　32cm作者不詳、江戸期の作		
有形文化財	町指定	彫刻	貴徳面	香美町村岡区村岡723（宗）黒野神社	彫刻・造形がすばらしく、形式・彩色などの作風から推定制作年代は鎌倉時代。		
有形文化財	町指定	彫刻	山名禅高木造	香美町小代区秋岡462（宗）竜泉寺	寛永十九年（1642年）村岡藩主山名伊豆守が竜泉寺に参詣した時に、山名家も竜泉寺と同じ禅宗に帰依しているので、初代禅高（山名豊国）の木像を安置しました。		
有形文化財	町指定	工芸品	長福寺梵鐘	香美町香住区一日市165（宗）長福寺	下端波状型をなし、池の間に飛天、太鼓、獅子、牡丹を陽刻し、草の間4区に銘文を陰刻したいわゆる元禄の華麗な気風を表現した作品。		
有形文化財	町指定	古文書	永代寄進状	香美町小代区秋岡462（宗）竜泉寺	寛永19年（1642年）8月、山名家よりの永代供養料のお墨付として寄進状が位牌、膳部一式とともに竜泉寺に納められたもの。		
有形文化財	町指定	古文書	木地師文書	香美町小代区大谷	木地師たちの特権と保護を文章化したもので、現在保存されている主な古文書。 由緒書（古文書）は各地の木地屋に通有の惟喬親王[これたかしんのう]伝説を述べたもの。1220年～1853年ごろ		
有形文化財	町指定	古文書	大照山論争関係古文書	香美町小代区神水	神水、城山、熊波、相岡の間で争われた山争いに関する元禄年間の古		
有形文化財	町指定	考古資料	磨製石斧	香美町村岡区村岡　香美町教育委員会	長さ21．5cm　横幅　先2．5cm　本5cmからなる蛤刃の磨製石斧で石質はセン緑岩と推定されます。縄文時代のもの		
有形文化財	町指定	考古資料	環状石斧	香美町村岡区村岡　香美町教育委員会	香住区無南垣小泉遺跡出土品。		
有形文化財	町指定	考古資料	元じいがかま古墳天井石	香美町香住区森860　大乗寺	香美町香住区守柄[すから]の谷の奥にある、じいがかま古墳より運び出された天井石といわれている。		
有形文化財	町指定	考古資料	独鈷石	香美町香住区下浜599　帝釈寺	香住区下浜帝釈寺裏の山から出土したと伝えられている。中央に刀の鍔のように膨らんだ2つの帯が全体を一周し、断面は卵形をしている。		
有形文化財	町指定	考古資料	青銅製経筒	香美町香住区下浜599　帝釈寺	香住区下浜帝釈寺の裏山から壺に納められた青銅型の納筒が出土。室町時代帝釈寺にて経本を印刷した版木を焼き、その灰を経筒に納めて埋めたという伝承があり、その伝承が実証された。		
有形文化財	町指定	考古資料	古墳出土鉄器	香美町村岡区村岡　香美町教育委員会	古墳時代の馬具の部品、農具の部品、武具の一部など		
有形文化財	町指定	考古資料	打製石斧	香美町村岡区村岡　香美町教育委員会	この打製石斧は上ノ山遺跡1号住居跡から出土。形態、ともに出土した遺物から縄文時代中期～後期にかけてのものだと考えらる。		
有形文化財	町指定	考古資料	紡錘車	香美町村岡区村岡　香美町教育委員会	上底の直径2．4cm、下底3．3cm、高さ2．2cmの載頭円錐形紡錘車。小代区広井にあるハジキ口古墳で出土した遺物であり、本遺物は小代区で唯一の出土品。		
民俗文化財	町指定	有形民俗文化財	一日市三番叟面	香美町香住区一日市	面の内側に元禄9年（1696年）9月、網屋五兵江が奉納した記録が残されていますが作者は不詳。のみの跡、着色の塗りにしてもよく秀れた作		
有形文化財	町指定	考古資料	古墳出土耳環	香美町村岡区村岡　香美町教育委員会	小代区水間にある野田3号墳の石室内から完全な形で出土した耳環（金環）4点		
民俗文化財	町指定	有形民俗文化財	訓谷三番叟面	香美町香住区訓谷	面相もよく逸品であり、制作年代は江戸初中期頃		
民俗文化財	町指定	有形民俗文化財	木地師の用具	香美町香住区大谷	木地師の用具類 のこぎり（大小種々）・斧（大小種々）・なた・ろくろ用のみ・ろくろ用かんな・曲りかんな・手斧・ふいご・砥石・ろくろ　　など		
民俗文化財	町指定	有形民俗文化財	梨の生産に関する資料	香美町村岡区村岡390-1香美町教育委員会	香住区矢田にあった梨の試験場に展示してあった梨の生産に関する資料。		
民俗文化財	町指定	無形民俗文化財	一日市三番叟	香美町香住区一日市　一日市区三番叟保存会	香住区内で6箇所伝承されている三番叟のひとつ。八坂神社秋季祭礼に奉納。所要時間約45分。舞手方、歌手方、囃子方の三部から構成されて		
有形文化財	町指定	建造物	大乗寺 観音堂	香美町香住区森860　大乗寺	内部の架構が大きな特色です。近年の改修工事でかなり多くの材が取り替えられていますが、基本的な形態は保たれている。		

記念物	町指定	史跡	萬寺廃寺	香美町香住区小原	小原部落から約1，000メートルの山頂に位置し、面積が120平方センチメートルの二段の石垣で固められている。一辺10メートル余りの方形の遺構がある。		
記念物	町指定	天然記念物	天王山椎群生林	香美町香住区安木字小山1473 （宗）八坂神社	樹齢約200年～300年と推定されます。面積約20，000平方メートルに亘り424本が群生しており、樹高約20～30メートル。		
記念物	町指定	名勝	帝釈寺庭園	香美町香住区下浜599　帝釈寺	準築山式枯山水庭園。江戸時代初期の作庭であり、一説に小堀遠州作との伝承もある。		
記念物	町指定	史跡	宮ノ前遺跡掘立柱建物跡	香美町小代区実山	宮の前遺跡より、平安時代から鎌倉初期にかけての里の長の館とみられる建物遺構が確認された。		
有形文化財	町指定	彫刻	鋳造阿弥陀如来坐像	香美町香住区森989 （宗）吉野神社	座高　89．3cm/　材質　体部　鋳鉄造/頭部　銅造　年代　平安時代後期		
民俗文化財	町指定	無形民俗文化財	下浜三番叟	香美町香住区下浜　下浜三番叟保存会	八幡神社秋季祭礼に奉納。所要時間は約1時間30分。舞手方、歌手方、囃子方の三部から構成されています。動作が悠長なのが特徴です。		
民俗文化財	町指定	無形民俗文化財	森三番叟	香美町香住区森　森吉野神社三番叟保存会	吉野神社秋季祭礼に奉納。要時間約45分。舞手方、歌手方、囃子方の三部から構成されています。		
民俗文化財	町指定	無形民俗文化財	沖浦三番叟	香美町香住区沖浦　沖浦三番叟保存会	大放神社秋季祭礼に奉納。所要時間約45分。舞手方、歌手方、囃子方の三部から構成されています。		
民俗文化財	町指定	無形民俗文化財	訓谷三番叟	香美町香住区訓谷	沖浦神社秋季祭礼に奉納。所要時間約45分。舞手方、歌手方、囃子方の三部から構成されています。		
民俗文化財	町指定	無形民俗文化財	香住三番叟	香美町香住区香住　香住三番叟保存会	香住神社秋季祭礼に奉納。所要時間　約45分。舞手方、歌手方、囃子方の三部から構成されています。		

文化財の種類	指定種別	種　　別	名　　称	数量	所在地	指定年月日	備考	ジオサイトとなっているもの	保護保全の状況（無形文化に関しては担い手の問題も含む）
有形文化財	国指定	彫刻	木造十一面観音菩薩立像		新温泉町清富589　相応峰寺	明治 34.8.2	相応峰寺の観音像は、斉衡3年(856)作善上人が浜坂を訪れた時、矢城の観音島付近で観音像を勧請して安置されたものと伝えられています。平安時代		
記念物	国指定	名勝及び天然記念物	但馬御火浦		新温泉町浜坂東海岸	昭和 9.1.22	三尾漁港の東前方に「三尾大島」と呼ばれる島があります。ここを中心に、岸田川河口から香美町伊笹岬までの海岸一体は日本海の荒波で侵食された凝灰(ぎょうかい)岩、花こう岩などの変化に富んだ景色が多く残ります。		
重要無形形文化財	国指定	民俗文化財	但馬久谷の菖蒲綱引き		新温泉町久谷	平成 元.3.20	新温泉町久谷地区の端午の節句行事として、６月５日に行われる菖蒲綱引き。江戸時代から日本海沿岸に伝わる綱引き行事の形態をよく伝えられている		
有形文化財	国登録	建造物	旧森家住宅(浜坂先人記念館以命亭)	5棟	新温泉町浜坂字本町1208　浜坂先人記念館以命亭	平成 20.7.8	森家は近世に庄屋を務め、酒造業を営んでいました。主屋は3行3列の座敷をもち、正面は上下階とも格子をたて、風格ある外観です。		
記念物	県指定	天然記念物	大杉神社の大ヒノキ	一本	新温泉町久斗山字宮前1279-2 大杉神社裏	昭和 40.3.16	久斗山の大杉神社本殿裏には、幹回り6.5㍍もある推定樹齢800年とも、千年とも言われている大ヒノキ		
記念物	県指定	天然記念物	正法庵の大シイ	一本	新温泉町正法庵字沖中405	昭和 41.3.22	幹回りが約6㍍、東西・南北ともに約17㍍の推定樹齢800～1,000年の大スダシイ		
記念物	県指定	名勝	鍾乳日本洞門・亀山洞門		新温泉町居組字亀山	昭和 41.3.22	日本洞門は、第三紀層の玄武岩質安山岩にできた幅7～8㍍、奥行き82㍍の細長い洞穴で、岩石中の石灰分が浸み込んだ水分で溶解されてできた小さな鐘乳石や石灰被膜が見られる。 亀山洞門は日本洞門の東隣にある間口16m、高さ9m、入り口がやや円形の洞窟。この洞窟は奥行き28m、水深は3mと浅く、内部はやや広い。荒天時に洞内から噴き出す白く泡立った荒波の様子が魚の潮を吹く様子を思わせることから潮吹き洞門とも呼ん		
記念物	県指定	天然記念物	泰雲寺しだれ桜		新温泉町竹田1388　泰雲寺	昭和 41.3.22	樹齢は約２５０年（推定）とされ、高さ１４．５ｍ幹廻５．２５ｍ幹廻りでは、西日本一の大きさを誇るしだれ桜。		
記念物	県指定	天然記念物	居組不動山暖地性植物群落		新温泉町居組字不動山	昭和 42.3.29	居組不動山は、居組港の北西にある東西200㍍、南北22㍍、標高60㍍の島で、島全体には65科177種以上の植物が自生している。		
記念物	県指定	天然記念物	宇都野神社社叢暖地性植物原生林		新温泉町浜坂2456-4　宇都野神社	昭和 43.3.29	シイの木の群叢を中心とした社叢で目通り5mのスダジイをはじめスギの大木、サカキ、クスノキ、モチノキなどが繁茂し、貴重な原生林が残っている。		
記念物	県指定	名勝	霧ヶ滝渓谷		新温泉町岸田	昭和 44.3.25	岸田川支流三倉谷川の上流一帯は扇山（１，３１０ｍ）、上山高原（９１０ｍ）を源流とした落差と浸食の激しい渓谷で大小の奔流、奇岩、大石並びに絶壁・断崖・瀑布が連続し豪壮は渓谷美を形成している。		
記念物	県指定	天然記念物	タンゴイワガサとワカサハマギク群落		新温泉町芦屋　城山	昭和 46.3.19	タンゴイワガサは、越前・丹後・但馬地域の岩場に自生する耐寒性のバラ科の植物で、毎年五月下旬頃、小さい可憐な花を咲かる。ワカサハマギクは、若狭を中心に越前から但馬・因幡の浦富まで分布しているキク科の植物で、日当たりがよく、潮風のあたる場所に自生し、毎年十月下旬頃に白い花を咲かせま		

記念物	県指定	名勝	小又川渓谷		新温泉町海上	昭和 48.3.9	珍しい形状をした瀑布群が数多く見られ、中でもシワガラの滝は、滝水に岩漿が浸食されて、約20平方メートルもある洞窟が出来ており、洞窟内から滝を鑑賞する。 その他、桂の滝・シワガラの滝・布滝・ヨウドメの滝な		
記念物	県指定	天然記念物	池の島の大甌穴		新温泉町諸寄字北川辺	平成 2.3.20	池の島の大欧穴は、東西16㍍南北10㍍、探さ5㍍の穴で、このような巨大なものは珍しく、縄文前期の海面上昇を立証する学術的に貴重なもの		
記念物	県指定	天然記念物	諸寄東ノ洞門		新温泉町芦屋字イタチウラ105番地先	平成 2.3.20	1600万年前に噴出した安山岩の中にできた亀裂が波によって侵食されてできた洞門で、入り口の幅が20～25㍍、長さが60㍍、高さが15㍍の洞門。		
記念物	県指定	名勝及び天然記念物	福富のアカメヤナギ		新温泉町福富541　三柱神社	平成 18.3.3	福富三柱神社の境内にあるアカメヤナギは、幹回り4.5㍍、高さ15～20㍍、枝張りが12～15㍍前後あります。推定樹齢は、約150年。		
無形文化財	県指定	民俗文化財	久谷ざんざか踊り		新温泉町久谷地内八幡神社境内ほか町内一円	昭和 43.3.29	久谷の「ざんざか踊り」は、踊の体形が行道型をとることと、頭上に被る一文字笠の形態が但馬地方のざんざか踊りの被り物の中で最も古い形態が残ってい		
無形文化財	県指定	民俗文化財	宇都野神社麒麟獅子舞		新温泉町浜坂地区一帯	昭和 47.3.24	但馬三大祭の一つ「川下大祭」毎年7月中旬に3日間行われます。江戸時代中期より宇都野神社の氏子の間に継承されてきた		
無形文化財	県指定	民俗文化財	丹土はねそ踊		新温泉町丹土	昭和 47.3.24	剣術で祖先の霊を慰める伝統行事。毎年盆には行事の一つとして踊られ、古くは村祭や田植休み等にも村人総出で踊りに加わったといわれます。		
無形文化財	県指定	民俗文化財	居組麒麟獅子舞		新温泉町居組字宮の前615-1	昭和 49.3.22	麒麟獅子舞は鳥取県東部地域から新温泉町、香美町にかけて伝承されている。例祭日10月9日 大歳神		
無形文化財	県指定	民俗文化財	三尾の麒麟獅子舞		新温泉町三尾	昭和 53.3.17	神社：八柱神社（大三尾）三柱神社（小三尾） 例祭日：１０月９日		
有形文化財	県指定	絵画	絹本著色南溟禅師像	一幅	新温泉町田井411　　楞厳寺	昭和 38.4.19	楞厳禅寺開山南溟禅師〔南溟昌運・嘉暦3年（1328）京都で誕生、應永19年（1412）85才の老齢で入滅〕の晩年の姿を写した頂相。應永初年の優品の1つ。		
有形文化財	県指定	絵画	絹本著色夢窓国師像	一幅	新温泉町田井411　　楞厳寺	昭和 38.4.19	本画像は、夢窓国師の33回忌に当る弘和3年（1383）にその法要のため新調したものと推定されて		
有形文化財	県指定	絵画	絹本著色仏国国師像	一幅	新温泉町田井411　　楞厳寺	昭和 38.4.19	頂相は仏国国師の百回忌に当る應永22年（1415）に作られたと推定されます。		
有形文化財	県指定	絵画	絹本著色山名時熙像	一幅	新温泉町田井411　　楞厳寺	昭和 38.4.19	鉄線描による簡略な着衣の表現と柔らかい細線を駆使して面貌を描き、戦乱の厳しい世を生き抜いた武将の逞しい堂々たる体駆、風格が港み出ていて、正長元年（1428）当時の肖像画では、最も注目すべき優作の1つと認められています。		
有形文化財	県指定	絵画	絹本著色両界曼荼羅図	二幅	新温泉町清富589　相応峰寺	昭和 62.3.6	因州白豪寺（鳥取県）から室町時代に譲り受けたもので、鎌倉時代の巨勢金崗の作と伝えられていま		
有形文化財	県指定	古文書	楞厳寺文書	四巻・四幅	新温泉町田井411　　楞厳寺	昭和 38.4.19	楞厳寺文書は、4巻4幅です。 すなわち、後小松天皇論旨他1巻（2通）、足利将軍家御判御教書1巻（4通）・・・足利義満・義持・義教・義政の御判御教書、楞厳寺什書巻物（2巻の巻1・18通）・・・山名時熙・持豊・政豊・致豊ら寄進状・安堵状他、楞厳寺什書巻物（2巻の巻2・18通）…楞厳寺開山禅師年譜・南溟禅師常楽院置文士代・山名致豊・誠豊・祐豊らの直状・安堵状他、以上4巻と南溟禅師契状1幅、南溟禅師置丈1幅楞厳寺開山禅師年譜1幅、山名時熙書状1幅、の4幅の合わせて4巻4幅をまとめて、楞厳寺文		
有形文化財	県指定	古文書	夢窓国師書状	一幅・一通	新温泉町田井411　　楞厳寺	昭和 38.4.19	夢窓疎石の晩年の真蹟の自筆書状と推定され、楞厳寺の数多くの文化財の中でも随一の重宝とされて		

有形文化財	県指定	古文書	服部庄重書案	一巻	新温泉町田井411　　楞厳寺	昭和 39.3.9	服部庄は、因幡国の一宮宇部神社（現鳥取県鳥取市国府町）の社領で、宇部神社は領家職をもっていました。永徳2年（1382）に、楊梅従三位入道親行が、楊梅家代々の菩堤を訪うことを条件として、服部庄領家職を手継証文をそえて寄進したもの。「服部庄領家職手継重書案一巻」におさめられた13通の文書案は、これら服部庄の伝領の経過を示すもので		
有形文化財	県指定	典籍	妙法蓮華経・伝順徳院皇女消息経	八巻	新温泉町田井411　　楞厳寺	昭和 39.3.9	本経は、世にいわれる春日版に属し、鎌倉時代中期からやや後期に入りかけた頃のものといわれ、天地に金銀切箔砂子をまいたすばらしい八巻の装飾経。		
有形文化財	県指定	典籍	仏説阿弥陀経・観無量寿経	二巻	新温泉町田井411　　楞厳寺	昭和 53.3.17	2経は1巻ずつで、1箧に納められており、「妙法蓮華経順徳院皇女消息経」八巻と合わせて、同時同処の刊印と思われます。		
有形文化財	県指定	建物	石造宝篋印塔		新温泉町七釜1436　玉田寺	昭和 52.3.29	塔の基礎石に正和3年（１３１４）の銘があり、宝篋印塔が建てられ始めた鎌倉後期の様相をよく現わしている。兵庫県下では、最も古い年号を持つ宝篋印		
有形文化財	県指定	建物	観音山相応峰寺・圓通殿	１　員数	新温泉町清富字観音山825清富字観音山	平成 21.8.7	新温泉町の観音山頂上に位置する天台宗相応峰寺の仏堂。木造平屋建、寄棟造、桟瓦葺の三間堂で、唐様の簡素な建築。棟札が残り、年代（天保３＝1832年）や大工棟梁等、建立の経緯が判明します。		
有形文化財	県指定	彫刻	木造阿弥陀如来座像		新温泉町熊谷1286　善住寺	昭和 38.8.24	この如来像は桧の一木造りの坐像で、高さ76．5cm、素朴な彫りは地方仏師の作か室町初期と推定されている。		
有形文化財	県指定	彫刻	木造不動明王立像		新温泉町湯174　正福寺	昭和 41.3.22	桂の木の一木造り。衣文には翻波式手法が見られ全体的に作風は素朴でありこの地方で作られた物と思われる。高さ134．5cmで平安中期以前の作と推		
有形文化財	県指定	工芸	鰐口		新温泉町前428　正楽寺	昭和 45.3.30	（仏堂の正面軒先につり下げられる、金属製梵音具の一種）銘帯の左右に「応永三十五年（1428年）戊申三月八日」と記されており、憧座には美しい蓮華が浮き彫りされています。		
記念物	町指定	天然記念物	大歳神社社叢暖帯性照葉樹林		新温泉町居組字宮の前615-1大歳神社	昭和 54.3.3	居組大歳神社社殿を覆う森には、シイ・ツバキ・タブの古木を中心に、ケヤキ・ヤブニッケ・モチの木・ヤマザクラ・ヒメユズリハ・フジヅル・エビヅル・ムベ・センダンの木・ハマウド・ヤブレガサなどが自生してい		
記念物	町指定	天然記念物	八坂神社社叢常緑広葉樹林		新温泉町諸寄697-1　八坂神社	昭和 54.3.3	諸寄八坂神社周辺の森には、針葉樹のスギ・広葉樹のケヤキ・常緑樹のシイなど、大木を中心に大小様々な樹種の木々が茂っています。		
記念物	町指定	天然記念物	弥栄神社社叢常緑広葉樹林		新温泉町対田1009　弥栄神社	昭和 54.3.3	シイの大木を中心とする原生林で、幹回り3～4㍍のシイを中心に、ケヤキや幹回り3.3㍍のイチョウやシラカシ・ヤマギリなどの大木が見られます。		
記念物	町指定	天然記念物	八幡神社社叢常緑広葉樹林		兵庫県新温泉町久谷　八幡神社	昭和 54.3.3	常緑広葉樹が群生しており、スダジイ・ヤブツバキ・シダ・サカキなどの暖帯性の樹木が多く茂っていま		
記念物	町指定	天然記念物	観音山シイの原生林		新温泉町清富589　相応峰寺	昭和 60.3.1	観音山山頂には、幹回り5㍍前後のシイの大木が14本、カシの木が3本、タモの木が2本などの原生林が広がっています。		
記念物	町指定	天然記念物	七釜山宮神社社叢		新温泉町七釜字木谷1409　山宮神社	昭和 61.3.31	幹回り2～3㍍のスダジイやヒノキの古木をはじめ、ヤブツバキ・サカキなどの常緑樹が覆い茂っていま		
記念物	町指定	天然記念物	諸寄西ノ洞門		新温泉町諸寄字北川辺	平成 元.5.18	南北方向の断層と直行するやや東西方向に向いた洞門で、幅5.5㍍、奥行き7㍍で、岩脈の弱線に沿って侵食が行われてできたものです。		

記念物	町指定	天然記念物	居組七坂尾の一本松(衝立)	一基	新温泉町居組七坂尾	平成 元.5.18	旧七坂八峠に海を守る灯台のように立っていた高さ約25メートルのクロマツ「一本松」(推定樹齢は350年以上)がありました。 昭和57年にマツクイムシの被害を受け、伐採してしまいましたが、現在、根の部分が標本(高さ2．5m、横2．2m、根回り8m)として新温泉町役場庁舎の玄関に展示されています。		
記念物	町指定	天然記念物	正福寺桜		新温泉町湯174　正福寺	平成 9.7.15	植物学者　牧野富太郎氏により、学名:「プルヌスタジマエンシス　マキノ」と付けられ、和名を「正福寺桜」と言う。特徴は、ガク片(花びら)が10枚で1花をつつみ、めしべが1つの花から1～6本、1果より6果を結ぶ花として、非常に珍しい種類の桜である。		
記念物	町指定	天然記念物	ホンコウホネの群生		新温泉町春来	平成 11.4.12	コウホネとはスイレン科の多年草で、1m位の深さのある日当たりのよい泥地に生息する植物です。県内でも群生の形跡はなく、但馬ではほとんど全滅している植物です。		
無形文化財	町指定	民俗文化財	岸田さえもん踊		新温泉町岸田	昭和 52.12.20	約600年の歴史をもつ踊りでさし手の中に献物の形を残し優雅さの中に舞いの要素を加えて流麗典雅なものです。		
無形文化財	町指定	民俗文化財	海上傘踊		新温泉町海上	昭和 52.12.20	この傘踊りの起源については歴史性に乏しい面もありますが、鳥取県国府町の「傘おどり」と同系列のものであり、徳川末期と伝えられています。		
無形文化財	町指定	民俗文化財	歌長太神楽		新温泉町歌長	昭和 52.12.20	天保年間以前より歌長に伝わる神楽で、源流は遊行芸である伊勢大神楽と獅子舞を合わせた物であり、「獅子舞」と「立て物」とで成立します。この地方で飢饉が相次いだ時、伊勢参りした村人達が神楽を覚えて帰ったのが始まりと言われています。		
無形文化財	町指定	民俗文化財	塩山槿木塔婆歌念仏		新温泉町塩山	昭和 52.12.20	起源については、確固たる史料も文献も無いわけですが、おそらく民俗念仏として徳川時代に行われたであると考えられます。		
無形文化財	町指定	民俗文化財	千谷麒麟獅子舞		新温泉町千谷	昭和 55.5.20	江戸末期鳥取県国府町の宇部神社より伝えられたといわれています。		
無形文化財	町指定	民俗文化財	湯村の火祭り		新温泉町湯	昭和 55.5.20	「ジーロンボ、ターロンボ、ムーギノナーカノクーロンボ」のはやし言葉に合わせ、春来川両岸を取り囲んだ子どもたちと、観光客が一緒にたいまつ(現在はトーチ棒)の炎を打ち振ります。		
無形文化財	町指定	民俗文化財	巌山権現(祭り)		新温泉町飯野	昭和 56.9.1	飯野と塩山では8月24日に地蔵盆の祭りが行われる。 但馬では極めて珍しい伝統的な神仏習合の形式を今に伝えている。巌山地蔵大権現の祭りであり、お		
無形文化財	町指定	民俗文化財	福富麒麟獅子舞		新温泉町福富	昭和 57.5.1	神社:三柱神社 鎮座地:新温泉町福富字蔵の後口541 祭神:大国主命・素盞嗚命・稲田姫命 例祭日:9月28日		
無形文化財	町指定	民俗文化財	諸寄麒麟獅子舞		新温泉町諸寄	昭和 60.3.1	神社:為世永神社 鎮座地:新温泉町諸寄字川中町3239 祭神:伊弉諾命・素盞之男命・塩土翁命・伊弉冉命・事代主命 例祭日:7月14日・15日		
無形文化財	町指定	民俗文化財	栃谷・田君麒麟獅子舞		新温泉町栃谷・田君	昭和 61.3.31	神社:長田神社 鎮座地:新温泉町栃谷字宮の前1079 祭神:大国主命・素盞嗚命・稲田姫命 例祭日:10月13日		

無形文化財	町指定	民俗文化財	和田麒麟獅子舞		新温泉町和田	昭和 61.3.31	神社:八柱神社 鎮座地:新温泉町和田字寺の内307 祭神:神速素盞嗚命 例祭日:10月3日		
無形文化財	町指定	民俗文化財	七釜麒麟獅子舞		新温泉町七釜	昭和 61.3.31	神社:山宮神社 鎮座地:新温泉町七釜字木谷1409 祭神:大山祇命 例祭日:9月29日		
無形文化財	町指定	民俗文化財	川下祭り(渡御行列)		新温泉町浜坂字宇都野2456-4 宇都野神社	平成 4.3.31	但馬三大祭の一つ「川下大祭」毎年7月中旬に3日間行われます。家業繁栄、家内安全、商売繁盛を願う「獅子舞」「榊」「鉾」「神輿」などの屋台が巡行する渡御行列は、全国的にも数少ない行事の一つです。		
無形文化財	町指定	民俗文化財	中辻芸踊		新温泉町中辻	平成6.4.1	桃山時代より中辻村に伝わる盆踊りで仏様の供養として、8月14～15日の手踊りの合間に踊り、名所敵討ち場面等を表現しています。		
無形文化財	町指定	民俗文化財	湯村の菖蒲綱引き		新温泉町湯	平成 10.2.25	菖蒲綱は、直径50～60cm、長さ100m、重さ4tにもなります。		
有形文化財	町指定	絵画	法然上人画像・善導大師画像	二幅	新温泉町浜坂2024　勝願寺	昭和 51.3.31	法然上人画像は作者は不明ですが、壮重で温和な画風は室町時代初期の作と言われています。 また、善導大師画像も作者は不明であるが、筆使いや色彩から法然上人画像同様に室町時代初期の作と		
有形文化財	町指定	絵画	妙沢筆不動明王画像	一幅	新温泉町清富589　相応峰寺	昭和 52.4.3	妙沢の作と伝えられ、画像の脇に「元徳元年(1329)周沢」の銘があり、相応峰寺に伝わる寺宝の一つで		
有形文化財	町指定	絵画	湯村温泉図		新温泉町湯	昭和 56.9.1	温泉町出身画家である立脇泰山の作品である。 町内で約200点あるといわれる作品数の中でこの画は昔日の荒湯附付の様相を写生によって原形をとどめた唯一の作品である。		
有形文化財	町指定	絵画	絹本著色北野天神像	一幅	新温泉町田井411　　楞厳寺	昭和 57.5.1	寺伝によれば永徳元年(1381年)楞厳禅寺開祖南溟昌運病に伏す。或る時夢の告げにより北野天神を勧誘した。以来、同寺の鎮守として祭られています。的確な描写力が高く評価されています。		
有形文化財	町指定	絵画	絹本著色十六善神像	一幅	新温泉町清富589　相応峰寺	昭和 58.4.1	寺伝によると嘉祥元年(848)塔中学頭西楽院から寄進されたものと言われ、相応峰寺に伝わる寺宝の一つです。縦1.5㍍、横75㌢の絹地に描かれており、作者は不明です。		
有形文化財	町指定	絵画	不動明王	一幅	新温泉町田井411　　楞厳寺	昭和 58.4.1	この不動明王画像は、縦88㌢、横39㌢の絹地に不動三尊像が描かれています。作者は不明であるが室町時代末から江戸時代初め頃の作と思われま		
有形文化財	町指定	絵画	為世永神社船絵馬	五幅	新温泉町諸寄697-1　八坂神社	昭和 60.3.1	為世永神社には5枚の船絵馬があり、特に天保11年(1840)の「金毘羅丸・神徳丸図」、万延2年(1861)の「幸神丸図」は、それぞれ特色がある絵馬です。 船絵馬は、現在八坂神社社務所に保管されていま		
有形文化財	町指定	絵画	北前船航路図関係(資料)	三幅	新温泉町諸寄	昭和 62.3.30	諸寄日浦家に所蔵されている北前船の航路図は、明治19年に書かれたもので、日本海上針筋図は大坂～瀬戸内海～日本海沿岸～カラフト～東北～江戸までの航路・方位・港を記入したものです。特に、瀬戸内図は、島の状況や航路が細かく書かれており、江戸時代末～明治の前半期にかけての回漕業		
有形文化財	町指定	古文書	久谷八幡神社棟札	二枚	兵庫県新温泉町久谷　八幡神社	昭和 54.3.3	久谷八幡神社は、以前は蓮台山上にあり、応永21年(1414)8月、現在の場所に移されたと伝えられています。 八幡神社には、「寛正4年(1463)」と「天文11年(1542)」の社殿葺き替えの棟札が残されており、いずれの棟札も八幡神社の由来を知る貴重な文		

有形文化財	町指定	古文書	竹田後山栃谷山論裁許状及び絵図面		新温泉町竹田	昭和56.9.1	この竹田後山栃谷村山論は、過去4回にわたって法廷で争われてきた。一回目は寛永年間であり、2回目は豊岡藩の時代、そして3回目は延享年間であり、4回目は明治11年に神戸裁判所で争われてきた。竹田後山と栃谷村の山論に関し、江戸評定所に出訴し、同評定所より下付された正本であり、裏面に絵図面が書かれている。明治11年に神戸裁判所で絵図面のとおり結審したのである。山論自体はめずらしくないが温泉町で江戸の評定所まで出訴した		
有形文化財	町指定	古文書	二方郡千原村鐘尾村山論裁許状		新温泉町千原	平成4.8.1	共有山所有権をめぐり、鐘尾村と論争、豊岡奉行所に告訴し、その裁許状として貴重な資料です。		
記念物	町指定	史跡	二方古墳(長持型石棺)		新温泉町田井（福富所有）	昭和54.3.3	二方古墳は一部破壊されているが、横穴式石室を伴う直径約10㍍前後の円墳。古墳時代後期(6世紀後半)築造		
記念物	町指定	史跡	芦屋城址		新温泉町芦屋	昭和60.3.1	芦屋城址は、室町～戦国時代にかけて塩冶氏が居城とした城で、天正9年(1581)羽柴秀吉の但馬攻めの時に落城しました。		
記念物	町指定	史跡	新市洞ヶ谷修験道史跡		新温泉町新市	平成9.4.25	江戸時代初期に造られた不動明王像を始め、山岳信仰と深く関わりのある仏像が祀られています。また、崖の中腹にある洞穴内には、鳥取県三徳山の修験道史跡(国指定)を思わせる堂宇があり、浜坂地域でも数少ない仏教(修験道)史跡の一つです。		
記念物	町指定	史跡	本谷焼尾製鉄遺跡		新温泉町久斗山	平成10.6.24	江戸時代中期(18世紀前半)頃に砂鉄から鉄を精錬していた「たたら場跡」。		
記念物	町指定	史跡	温泉城		新温泉町湯、歌長	平成17.7.19	標高338mの白毫山に位置する「温泉城」は、主郭を中心に三方向に伸びる尾根に十数段の曲輪を持ち、各々に竪堀や堀切を形成しています。また曲輪の形から南北朝時代に起源をもち、戦国期には大改修が行われたと想定されています。		
有形文化財	町指定	彫刻	草庵囲碁像		新温泉町飯野	昭和56.9.1	郷土出身彫刻家、福島一玉の作品である。		
有形文化財	町指定	彫刻	木造十一観世音菩薩立像		新温泉町浜坂1030-2　満願寺	昭和57.5.1	クスの木造りの高さ2.9㍍の十一面観音菩薩立像、平安時代後期の作。		
有形文化財	町指定	彫刻	木造不動明王像		新温泉町居組　　吉祥院	昭和57.5.1	居組不動山の不動堂にある、室町時代中期の作と思われる高さ78㌢の寄木造りの不動明王像。		
有形文化財	町指定	彫刻	四天王像		浜坂1030-2　満願寺	昭和58.4.1	高さ1.6～1.8㍍のヒノキ材の寄木造り技法で造られた木造四天王像。鎌倉時代～室町時代の作。		
有形文化財	町指定	彫刻	薬師如来像		新温泉町芦屋499　龍潜寺	昭和58.4.1	ヒノキの寄木造りで、高さ90㌢、幅60㌢、奥行き40㌢の座像で鎌倉時代の作。		
有形文化財	町指定	彫刻	宇都野神社麒麟獅子頭		新温泉町浜坂字宇都野2456-4宇都野神社	昭和60.3.1	現在、宇都野神社の麒麟獅子舞に使用されている獅子頭には、文化14年(1817)製作の墨書銘があり、指定されている獅子頭はその獅子頭よりも以前に使われていたもので、宇都野神社の麒麟獅子舞の起源を知る重要な資料です。		
有形文化財	町指定	彫刻	地蔵菩薩座像		新温泉町飯野300-1　厳山寺	平成13.12.25	檜の寄せ木つくり、面部から、「弘治二年八月二十九日」(1556年)などの銘文が発見されたため、そのころ(室町時代末期)の作品だと推測されていま		
有形文化財	町指定	彫刻	蔵王権現		新温泉町海上1232　牛峰寺	平成17.6.21	総高約70cmのヒノキの寄せ木造り、「蔵王権現像」は但馬地方でも3躰しかなく大変希少価値のある仏像。台座に大永8年(1528年、室町時代)の標記があり、その時代の作品と言われています。		

有形文化財	町指定	彫刻	木像阿弥陀如来立像		新温泉町清富589　相応峰寺	平成18.12.27	高さ2尺5寸（約83cm）の木造で、台座及び手と足は鎌倉期と江戸期に修復されていますが、顔や衣文等の彫刻の作風から平安時代後期（12世紀）の作と思われます。		
有形文化財	町指定	彫刻	木造毘沙門天立像		新温泉町歌長2233　美気津神社　観音堂内	平成20.10.28	総高約125cmで、本尊に向かって左の脇侍として安置されており、平安時代後期の天台宗や真言宗の寺院に多く見られる観音像を本尊とし、その左右に不動明王像と毘沙門天像を脇侍に置く三尊構成です。また、兜を被り体部に革鎧を着け、左足で軽く邪気を踏んでいる像容、顔の表情や体部の的確な肉付き等の作風から平安時代後期（12世紀）の作と思		
有形文化財	町指定	書籍	白隠彗鶴墨蹟	三幅	新温泉町七釜1436　玉田寺	昭和57.5.1	禅師の個性的な作風がうかがわれる貴重な作品で、江戸時代中期の作		
有形文化財	町指定	書籍	南溟禅師の寄進状	一幅	新温泉町対田929　天隣寺	昭和60.3.1	村田天隣寺に所蔵されている南溟禅師の寄進状は、嘉慶2年（1388）南溟禅師が因幡国福部村服部庄の一部を清泰寺（現鳥取市福部村善光院）に寄進した時の文書で、天隣寺が楞厳寺から分かれた時、譲られたものです。		
有形文化財	町指定	典籍	宗門御改帳		新温泉町湯	昭和56.9.1	この物件は案文ではあるが、当時（文政13年）の人畜穀高等が克明に記載されており、この頃の湯村の民政また経済などの諸事情が解明できる貴重な歴史的資料である。		
有形文化財	町指定	典籍	紙本著色細字法華経	二巻	新温泉町浜坂1834　栄福寺	昭和57.5.1	江戸時代前期に栄福寺の開祖上島喜左衛門宗徳が熱心な法華経の信者であったことから、宗徳が沐浴斎戒して法華経二十八巻を書写したものです。		
有形文化財	町指定	典籍	永地売券帳		新温泉町鐘尾	昭和59.8.27	庄屋文書で宝暦6年（1756）から明治8年までの近世120年間にわたる鐘尾の土地の移動を記載してあり、土地の売買状況がわかる。五冊から成り、約1250ページの膨大なもので、農村経済研究上極めて価値が高いものである。		
有形文化財	町指定	典籍	稲刈帳		新温泉町切畑	昭和59.8.27	、私家文書で天保15年（1844）から明治17年（1884）までの40年間の稲を刈った量が記録されている。全国的にも極めて珍しいものであり、近世末期の農村経済史を知るうえで貴重な資料である。		
有形文化財	町指定	典籍	二方郡内前村田畑地詰帳		新温泉町前	平成4.4.1	二方郡では正保元年（1644年）以降は太閤検地の村高を受継いでいます。しかし、前村では元禄9年（1696年）に受けており、元禄15年に、豊岡領内では前村だけが調査を受け、約47石の減額を認められています。このような例は豊岡領内でこの一村だけのようで、豊岡藩郡奉行、太田仁兵衛以下4名の花押（かきはん）捺印があり、正本並みの資料で、極めて史料価値の高いものです。		
有形文化財	町指定	典籍	二方郡春来村暮方取直日掛手段并拝借上納方御調牒		新温泉町春来	平成6.4.1	前年に借りた御下殻を、生活に困った人たちに、返納と備蓄のため、生活が苦しい家を除いた79軒を3段階に分けて月賦貯金を続けた、返済額、貯蓄額の記録で、文久元年（1861年）～明治二年（1869年）まで8年間続けられている記録です。		
有形文化財	町指定	工芸	石燈籠	一対	新温泉町浜坂1883　西光寺	昭和57.5.1	西光寺参道脇にあるこの石灯籠は、寛政年間（1789～1801）に和泉屋小林助右衛門（親正の子孫）が寄進したもので、浜坂地域でも古い石灯籠。		
有形文化財	町指定	工芸	名号碑	一基	新温泉町清富	昭和58.4.1	慶安5年（1652）と明暦3年（1657）に紀伊屋楠田氏を中心に行われた「四十八夜念仏」を記念して建てられた念仏供養塔		

有形文化財	町指定	工芸	船名額	一枚	新温泉町居組	昭和 62.3.30	船名額は、和船の帆柱の後方にある神棚に掲げ、船の守護神として祀られていたもので、額の大きさでその船の大きさが分かると言われています。浜坂地域には、船名額が四基残されており、江戸時代末～明治の初めにかけて栄えた浜坂の回漕業を知る		
有形文化財	町指定	工芸	船名額	一枚	新温泉町居組	昭和 62.3.30	船名額は、和船の帆柱の後方にある神棚に掲げ、船の守護神として祀られていたもので、額の大きさでその船の大きさが分かると言われています。浜坂地域には、船名額が四基残されており、江戸時代末～明治の初めにかけて栄えた浜坂の回漕業を知る		
有形文化財	町指定	工芸	船名額	一枚	新温泉町諸寄	昭和 62.3.30	船名額は、和船の帆柱の後方にある神棚に掲げ、船の守護神として祀られていたもので、額の大きさでその船の大きさが分かると言われています。浜坂地域には、船名額が四基残されており、江戸時代末～明治の初めにかけて栄えた浜坂の回漕業を知る		
有形文化財	町指定	工芸	相撲板番付	二基	新温泉町浜坂	平成 9.4.25	板番付は、昭和16年と22年に浜坂で開かれた地方巡業相撲の時に作成されたもので、第二次世界大戦前後に地方巡業が浜坂で開かれたことを裏付け、浜坂の相撲史を知る貴重な文化財です。		
有形文化財	町指定	工芸	阿弥陀如来懸佛・観音菩薩懸佛		新温泉町飯野300-1　厳山寺	平成 12.10.25	阿弥陀如来懸佛は約30cm、観音菩薩懸佛は約15cmの大きさです。阿弥陀如来懸佛の背面に貼り付けられているの木に「応永三二年」(1425年)などと墨書されており、その頃(室町時代)の作品と思われま		
有形文化財	町指定	工芸	懸佛	二躰	新温泉町岸田青下	平成 14.5.23	内側の懸佛は薬師如来の穏やかな表情や体部の表現から鎌倉時代のものです。外側の懸佛は天蓋(てんがい)・獅噛(しがみ)の形式から南北朝時代のものだろうと考えられています。		
有形文化財	町指定	歴史資料	湿板写真	二枚	新温泉町浜坂	昭和 62.3.30	浜坂地域には、明治8年～29年に撮影された湿板写真が52枚残されており、特に下田家と道盛家の湿板写真は、当時の髪型や服装など、浜坂の様子を知る貴重な資料です。		
有形文化財	町指定	歴史資料	湿板写真	十四枚	新温泉町浜坂	昭和 62.3.30	浜坂地域には、明治8年～29年に撮影された湿板写真が52枚残されており、特に下田家と道盛家の湿板写真は、当時の髪型や服装など、浜坂の様子を知る貴重な資料です。		
有形文化財	町指定	歴史資料	宇都野神社神額	一枚	新温泉町浜坂２４５６－４　宇都野神社	平成 7.5.23	宇都野神社の神額は、町指定無形民俗文化財に指定されている川下祭り(渡御行列)の由来・起源を裏付ける歴史的資料		
有形文化財	町指定	歴史資料	道路基準標柱	一基	新温泉町浜坂1208 先人記念館	平成 7.5.23	明治33年10月に建てられた浜坂から神戸・居組・湯村・村岡・湯島(城崎)までの距離を刻んだ木製の標柱で、浜坂本町に建てられていた。以前は記載されていた場所にも同様の標柱が建てられていました。浜坂の明治期の交通史を知る上で貴重な文化財の		
有形文化財	町指定	建造物	石造五輪塔	一基	新温泉町浜坂	平成 9.4.25	箔屋上島喜左衛門宗徳を祀る塔(墓)。 宗徳は、寛永19年(1642)に亡くなりましたが、五輪塔に寛永4年(1627)の年号が刻まれており、生前に供養した逆修塔。		
有形文化財	町指定	建造物	久谷の五輪塔	一基	新温泉町久谷	平成 10.6.24	室町時代後期の五輪塔		
有形文化財	町指定	建造物	阿弥陀堂		新温泉町熊谷1286　善住寺	平成 10.2.25	応永33年11月15日(1426年・室町時代初期)に建立されたと言われ、但馬でも屈指の古い建物。		

有形文化財	町指定	建造物	宝篋印塔		新温泉町熊谷1286　善住寺	平成 10.2.25	総高104cmで下部は現在、コンクリートで基壇を形成しています。上部の九輪、笠部は6段式、中央の塔身には月輪内に、金剛四仏が刻まれている。この様式から見て、造られたのは室町時代中期と思われ		
有形文化財	町指定	建造物	居組龍雲寺本堂	一棟	新温泉町居組561　龍雲寺	平成 17.4.26	龍雲寺本堂は、本堂は、寛政12年(1800)と明治12年(1879)に2度焼失しており、現在の本堂は文化11年(1814)に鳥取藩主池田家の菩提寺として再建された興禅寺本堂(鳥取市栗谷　前身は、龍峰寺)を明治21年(1888)に移築したものである。		

件数	名称（昇順）	文化財の種類	区分	指定種別	区分	分類	所在地	現在所在地詳細	発見場所	概要	ジオサイトとなっているもの	保護保全の状況（無形文化に関しては担い手の問題も含む）
1	因幡の菖蒲綱引	民俗文化財	指定	重要無形民俗文化財	国指定	風俗慣習	鳥取市気高町宝木、鳥取市気高町奥沢見水尻、鳥取市青谷町青谷、岩美郡岩美町大羽尾	鳥取市気高町宝木、鳥取市気高町奥沢見水尻、鳥取市青谷町青谷、岩美郡岩美町大羽尾		子供組による伝統行事で、行われるのが五月節供であること、綱の材料に多く茅が用いられる.	○	
2	岩井廃寺塔跡	記念物	指定	史跡	国指定	社寺跡	岩美郡岩美町岩井	岩美町岩井字大野138		蒲生川右岸の山裾に立地する白鳳期創建の廃寺塔跡。	○	
3	浦富海岸	記念物	指定	名勝及び天然記念物	国指定	海浜・海食	岩美郡岩美町浦富牧谷田後網代大羽尾小羽尾陸上	岩美郡岩美町浦富		東は県境から西は網代に至る海岸の総称で、山陰海岸国立公園の一部。	○	
4	唐川のカキツバタ群落	記念物	指定	天然記念物	国指定	植物	岩美郡岩美町唐川、外邑	岩美郡岩美町唐川		稲葉山（宇倍野山）の東側に連なる高原の中の標高約380mに位置するおよそ1haの湿原には、野生のカキツバタを中心にしてさまざまな湿原植生が発達しており、地元唐川の人々によく保護されてきた。	○	
5	山陰道　蒲生峠越	記念物	指定	史跡	国指定	政治に関する遺跡	岩美郡岩美町蒲生	岩美郡岩美町蒲生		「山陰道」は鳥取と京都を結ぶ主要街道として鳥取藩が整備し、鳥取城下から東に向かう道は「但馬往来」とも呼ばれてい	○	
6	鳥取藩台場跡（由良台場跡　境台場跡　淀江台場跡　橋津台場跡　浦富台場跡）	記念物	指定	史跡	国指定	政治に関する遺跡	東伯郡北栄町、境港市、米子市淀江町、東伯郡湯梨浜町、岩美郡岩美町浦富	東伯郡北栄町、境港市、米子市淀江町、東伯郡湯梨浜町、岩美郡岩美町浦富字東浜2250-2外14筆		浦富台場跡は藩執政職にあった鵜殿長道が浦富海岸に築いた因幡に現存する唯一の台場跡。	○	
7	新井三嶋谷墳丘墓	記念物	指定	県指定史跡	県指定	墳墓	岩美郡岩美町新井	岩美郡岩美町新井		弥生時代後期初頭に築かれた方形貼石墳丘墓。	○	
8	二上山城跡	記念物	指定	県指定史跡	県指定	城跡	岩美郡岩美町岩常	岩美郡岩美町岩常		二上山の頂上部付近に築かれた典型的な山城である。二上山城跡は県内有数の大規模な山城であり、地域の中核的な城郭であったと思われる。	○	
9	牧谷のはねそ踊	民俗文化財	指定	県指定無形民俗文化財	県指定	民俗芸能	岩美郡岩美町牧谷	岩美郡岩美町牧谷		「牧谷のはねそ踊」は、 六尺長柄の鈴傘をもった男と、編笠をかぶった女が対になって踊るところに特色がある。	○	
10	湯かむり唄					民俗芸能	岩美郡岩美町岩井	岩美郡岩美町岩井		柄杓で湯をかむり、唄を唄いながら入浴する。奇習「ゆかむり」として有名。	○	
11	因幡の傘踊(宇治)					民俗芸能	岩美郡岩美町宇治	岩美郡岩美町宇治		長柄の化粧がさで踊る雄壮な本県の代表的芸能である。	○	
12	元岩井小学校舎	有形文化財	指定	町指定の保護文化財	町指定	建造物	岩美郡岩美町岩井	岩美郡岩美町岩井字蔵屋敷450		鳥取県最古の学校校舎。擬洋風建築。ルネッサンス様式で、明治25年(1892)に岩井尋常小学校の校舎として建てられ	○	
13	二上峯地蔵	保護文化財	指定	町指定の保護文化財	町指定	彫刻	岩美町岩常	岩美町岩常		1371年建造高さ65.5m幅30cmぐらい板状の板に線刻されたもの。	○	
14	陶棺	保護文化財	指定	町指定の保護文化財	町指定	考古資料	鳥取市　県立博物館	鳥取市東町二丁目124番地県立博物館	岩美町岩常（県立博物館に寄託）	昭和30年代後半に出土し、復元すると全長150cm深さ23cmで2列16個の脚がついている。古墳時代山陽地方でよくみられる埋葬方法。	○	
15	岩井廃寺の鐙瓦	保護文化財	指定	町指定の保護文化財	町指定	考古資料	岩美郡岩美町岩井	岩美郡岩美町岩井		白鳳期から平安時代初期わたる4種類に分類され岩井廃寺の変遷を示している。	○	
16	鵜殿家墓地	史跡	指定	町指定史跡	町指定	墳墓	岩美町浦富	岩美町浦富字屋敷谷2756		代々238年間浦富を治めた領主鵜殿家の墓地。鵜殿家は寛永9年（1632年）に国替えした鳥取藩主池田光仲に追従して	○	
17	通幻禅師誕生地	史跡	指定	町指定史跡	町指定	建造物	岩美町浦富	岩美町浦富字裏町1483		曹洞宗中興の祖とされる通幻寂霊禅師生誕の地とされ、禅師の生母の墓で、禅師は墓穴から生まれ出たという伝承もあ	○	
18	高野坂の家形石棺	史跡	指定	町指定史跡	町指定	考古資料	岩美町岩常	岩美町岩常字高野坂口895-21		横穴式古墳で家形石棺はくりぬきで造られた方形で、縄掛把手のついた2枚の蓋石で覆われている。	○	
19	木造蔵王権現立像	保護文化財	指定	町指定の保護文化財	町指定	彫刻	鳥取市　県立博物館	鳥取市東町二丁目124番地県立博物館	岩美町岩本350観照院（県立博物館に寄託）	総高80.3cm。桧材を使った1木彫造りの像。平安末から鎌倉時代初期の作	○	
20	垣屋播磨守光成（宗管）の五輪塔	史跡	指定	町指定史跡	町指定	建造物	岩美町浦富	岩美町浦富字新町南側1537		山名氏配下の武将で関ヶ原では西軍につき敗れ、家系は断絶したが、武勇絶倫の武将として名高く垣屋八幡宮に祀られ	○	
21	駟馳山峠の石畳道	史跡	指定	町指定史跡	町指定	政治に関する遺跡	岩美町大谷	岩美町大谷国有地		江戸時代1811年備前国多十郎という六部（巡礼）が寄付金を集め1年をかけて石畳みの道を作った。	○	
22	高野坂10号墳出土銅製壺鐙・帯金具	保護文化財	指定	町指定の保護文化財	町指定	考古資料	岩美町浦富	岩美町浦富675-1		忍冬文で飾られた豪華な造りで、7世紀の終わりごろのものと考えられる。	○	
	新井三嶋谷墳丘墓三嶋谷墳丘墓	史跡	指定	町指定史跡	町指定	墳墓	岩美町新井字三嶋谷	岩美町新井字三嶋谷419-2外1筆		弥生時代の墓、この時期の墳丘墓としては全国でも最大級の規模を持つ。	○	
23	垣屋隠岐守恒総の宝篋印塔	史跡	指定	町指定史跡	町指定	建造物	岩美町宇治	岩美町宇治字下屋敷606		山名氏配下の武将垣屋播磨守光成の子で桐山城の2代目城主だが関ヶ原の戦いで敗れ自害した。のちに長安寺に託された遺髪を祀ったのがこの塔とされる。	○	
24	木造天部立像　二躯	保護文化財	指定	町指定の保護文化財	町指定	彫刻	岩美町宇治	岩美町宇治字下屋敷606		平安時代後期の仏像	○	
25	小畑三号墳の家形石棺	保護文化財	指定	町指定史跡	町指定	考古資料	岩美町大谷	岩美町大谷		古墳時代後期ごろの古墳群で八基からなる。三号墳の石室は250cm幅123cm高さ136cmで大型。	○	
26	廃阿代寺正平在銘鐘	有形文化財	指定	県指定保護文化財	県指定	工芸品・考古資料	鳥取市東町　県立博物館	鳥取市東町2丁目124番地県立博物館	岩美郡岩美町網代	明治初年、岩美町網代の畑で発見された。青銅製で、総高79.5cm、竜頭高17.2cm、笠形高3.3cm、鐘身高59.0cm、口径49.2cm。	○	

件数	名称（昇順）	文化財の種類	区分	指定種別	分類	所在地	現在所在地詳細	発見場所	備考	県HP	市HP	ジオサイトとなっているもの	保護保全の状況（無形文化に関しては担い手の問題も含む）
1	相見家文書	有形文化財	指定	県指定保護文化財	古文書	鳥取市　県立博物館	鳥取市東町二丁目124番地県立博物館	米子市八幡	米子市八幡の相見家に伝来した南北朝期の中世文書。	○	○	×	
2	相屋神社社叢	記念物	指定	県指定天然記念物	植物	鳥取市青谷町	鳥取市青谷町青谷5786、5787		JR山陰本線のすぐ南側、勝部川左岸にのびる尾根の先端緩斜面（標高30～60m）に位置する、スダジイを主とする照葉樹	○	○	○	
3	青谷上寺地遺跡	記念物	指定	史跡	集落跡	鳥取市青谷町吉川、青谷	鳥取市青谷町青谷4064青谷上寺地遺跡展示館	鳥取市青谷町吉川、青谷	鳥取市青谷町に所在する弥生時代の集落跡で、青谷平野のほぼ中央に位置する。青谷上寺地遺跡を特徴付けるのは、「地下の弥生博物館」と呼ばれるほど豊富かつ保存状態の良い出土品である。通常の遺跡では遺存しにくい木器・骨角器・鉄器・青銅器などが多量に出土しただけでなく、殺傷痕の残る人骨や弥生人の脳も見つかった。	○	○	○	
4	阿古山22号古墳	記念物	指定	県指定史跡	古墳	鳥取市青谷町	鳥取市青谷町青谷5786、5787		青谷町養郷集落の北側に立地する、横穴式石室。石室の内面に船や魚、鳥の足のようなもの、星形などの線刻壁画があ	○	○	○	
5	意上奴神社社叢	記念物	指定	県指定天然記念物	植物	鳥取市	鳥取市香取369 意上奴神社		意上奴神社は、軍神を祭神とする式内社（延喜式の神名帳記載の神社）である。 この社叢は、面積4.15haにおよぶ広大な社有地に広がる大規模な常緑樹の原生林である。	○	○	○	
6	因幡国庁跡	記念物	指定	史跡	国庁跡	鳥取市国府町中郷	鳥取市国府町中郷		因幡国庁跡は、平安・鎌倉時代に、因幡国をおさめていた古代の役所の跡	○	○	○	
7	因幡の傘踊	民俗文化財	指定	県指定無形民俗文化財	民俗芸能	鳥取市横枕、鳥取市国府町高岡・美歎・麻生	鳥取市横枕、鳥取市国府町高岡・美歎・麻生		天明6年（1786）の飢饉の際に、雨乞祈願のため、神楽歌に合わせて踊り、奉納されたのが原形と伝えられる。	○	○	○	
8	因幡の菖蒲綱引	民俗文化財	指定	重要無形民俗文化財	風俗慣習	鳥取市気高町宝木	鳥取市気高町宝木		我が国の綱引き行事の本質、由来を考える上できわめて貴重な遺産である。	○	○	○	
9	因幡宝木のしょうぶ綱	民俗文化財	選択	記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財	風俗慣習	鳥取市気高町宝木	鳥取市気高町宝木		五月節供に村落を二分する形式で綱引きをするもので、古町・新町の村組を基礎に構成されている子供集団が主体と	○	○	○	
11	伊福吉部徳足比売墓跡	記念物	指定	史跡	墳墓	鳥取市国府町宮ノ下	鳥取市国府町宮ノ下	国府町宮ノ下無量光寺の裏山（岩常山）中腹	岩常山から国府平野に延びる標高約100mの尾根上に立地する。墓は、2枚の凝灰岩製切石（円孔のある方が蓋石）と、その中に納められていた青銅製の骨蔵器からなる。	○	○	○	
12	岩坪神社獅子舞	民俗文化財	指定	県指定無形民俗文化財	民俗芸能	鳥取市岩坪	鳥取市岩坪		秋の岩坪神社の祭礼に奉納される。「権現堂古流三方舞」と称し、東照権現（樗谿神社）の獅子舞に習ったと伝えられる。	○	○	○	
13	因州青谷こうぞ紙 ［保持団体：因州山根楮紙手漉和紙保存会］	無形文化財	指定	県指定無形文化財	工芸技術	鳥取市青谷町山根、河原	鳥取市青谷町山根、河原		工程は、「水浸け」「煮釜」で皮を柔らかくし、「晒し」（漂白）の後、古式の手打ちか機械で皮を叩いてほぐした繊維を流しすきにする。	○	○	○	
15	宇倍神社獅子舞	民俗文化財	指定	県指定無形民俗文化財	民俗芸能	鳥取市国府町宮下	鳥取市国府町宮下651		宇倍神社の獅子舞は、因幡特有の麒麟獅子舞で、先導役の猩々と獅子の頭役、後役、各1名、囃方3名の計6名で構成され、毎年4月21日の例祭に神前に奉納される。	○	○	○	
16	宇倍神社御幸祭祭具	民俗文化財	指定	県指定有形民俗文化財	民俗資料	鳥取市国府町	鳥取市国府町宮下652		この祭具は、毎年4月21日の例大祭にあたり、御神幸及び祭礼行事として伝承されてきた大名行列に使用されるもので、	○	○	○	
18	円通寺人形芝居	民俗文化財	指定	県指定無形民俗文化財	民俗芸能	鳥取市円通寺	鳥取市円通寺		この人形芝居は三味線、胡弓、締太鼓の伴奏により、七七調の念力節に合せて操ることを特徴とする。	○	○	○	
18	埴輪鹿　脚部補修、埴輪男子像　残闕	重要美術品	指定	国指定文化財	考古資料	湖山町　鳥取大学（県立博物館へ出品）	鳥取市東町二丁目124番地県立博物館（保管）	鳥取県東伯郡湯梨浜町	湯梨浜町の古墳から出土。	○	○	×	
19	円通寺人形芝居	民俗文化財	選択	記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財	民俗芸能	鳥取市円通寺	鳥取市円通寺		円通寺人形芝居は、明治年間まで一人遣いで演じられたと考えられ、また、伝承演目の中に祝福の門付芸としても演じられた「大黒舞」の演目を含むなど人形芝居の古様な姿を示し、また、江戸時代にこの地方で流行した歌謡に合わせて人形を操るなど地域的特色を示すものである。	○	○	○	
19	袈裟襷文銅鐸	重要美術品	指定	国指定文化財	考古資料	東町　県立博物館	鳥取市東町二丁目124番地県立博物館			○	○	○	
20	桜寛苑（旧金田家住宅）主屋、土蔵	有形文化財	登録	国登録有形文化財	建造物	鳥取市　東町	鳥取県鳥取市東町2-301		和風住宅に洋風意匠を取り入れる他、近代の特徴である中廊下式を採用するなど、昭和初期の和風住宅の好例。	○	○	○	
20	家屋形弥生式土器　下部欠失	重要美術品	指定	国指定文化財	考古資料	東町　県立博物館	鳥取市東町二丁目124番地県立博物館			○	○	○	
21	扇ノ山の火山弾	記念物	指定	県指定天然記念物	地質鉱物	鳥取市	鳥取市東町二丁目125番地県立博物館	八頭郡八頭町地内の扇ノ山南方約1km	この火山弾は、八頭郡八頭町地内の扇ノ山南方約1kmで昭和46年(1971)に発見された。直径105cm、短径57cm、最長周囲172cmと大型で、可塑性に富んだ扇ノ山の溶岩が、空中に放出されて落下する際の旋回運動によって紡錘状に固まったものと考えられている。	○	○	○	
22	樗谿神社	有形文化財	指定	重要文化財	建造物	鳥取市上町	鳥取市上町87		鳥取藩主池田光仲が日光東照宮の分霊を勧請し、慶安3年（1650）に完成。	○	○	○	
23	大井家住宅主屋	有形文化財	登録	国登録有形文化財	建造物	鳥取市気高町	鳥取県鳥取市気高町上光字扇子間392-1		江戸末期に建築され、明治38年・平成13年の2回にわたって移築された。	○	○	○	
24	大野見宿禰命神社社叢	記念物	指定	天然記念物	植物	鳥取市徳尾	鳥取市徳尾80 大野見宿禰命神社		大野見宿禰命神社は千代川左岸の独立丘陵上に立地する。社叢は「徳尾の森」とも呼ばれ、スダジイ、モチノキ、タブノキ等からなる。	○	○	○	
25	大和佐美命神社獅子舞	民俗文化財	指定	県指定無形民俗文化財	民俗芸能	鳥取市上砂見、中砂見大湯棚	鳥取市上砂見、中砂見大湯棚		上砂見の大和佐美命神社に奉納される獅子舞。	○	○	○	
26	大和佐美命神社の獅子舞	民俗文化財	選択	記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財	民俗芸能	鳥取市中砂見字大湯棚	鳥取市中砂見字大湯棚		通称麒麟獅子とも呼ばれる二人立獅子舞の一種で、因幡地方の同類型の獅子舞のうちでも、その舞振りは比較的よく洗練されている。	○	○	○	
27	奥田家住宅	有形文化財	指定	県指定保護文化財	建造物	鳥取市猪子	鳥取市猪子169		鳥取県内を代表する近代和風建築である。	○	○	○	
31	梶山古墳	記念物	指定	史跡	古墳	鳥取市国府町岡益	鳥取市国府町岡益		切石積の整美な横穴式石室を特徴とする古墳時代後期（7世紀中葉）の古墳。	○	○	○	
32	桂見遺跡出土縄文時代遺物一括　一丸木舟、1櫂	有形文化財	指定	県指定保護文化財	考古資料	鳥取市東町　県立博物館	鳥取市東町二丁目124番地県立博物館	鳥取市桂見	湖山池の南東岸に位置する桂見遺跡から約3,500年前（縄文時代後期）の丸木舟が2艘出土。	○	○	○	
33	桂見の「二十世紀」ナシ親木	記念物	指定	県指定天然記念物	植物	鳥取市桂見	鳥取市桂見		本県には、明治37年（1904）、北脇永治氏が、松戸市の原木から苗木10本をとり導入した。そのうち現存する3本を天然記念物に指定。	○	○	○	
34	加藤家住宅主屋	有形文化財	登録	国登録有形文化財	建造物	鳥取市倭文	鳥取県鳥取市倭文491		江戸末期に建築され、明治38年・平成13年の2回にわたって移築された。	○	○	○	

35	吉村家住宅	有形文化財	登録	国登録有形文化財	建造物	鳥取県鳥取市立川町	鳥取県鳥取市立川町4-		建築年代/明治中期:用途区分/商家(米穀商)	○	○	○	
35	亀井踊	民俗文化財	指定	県指定無形民俗文化財	民俗芸能	鳥取市鹿野町鹿野	鳥取市鹿野町鹿野		因幡各地に残る最も古い優美な踊りである「はねそ踊り」の	○	○	○	
36	賀露神社春季祭礼行事	民俗文化財	指定	県指定無形民俗文化財	風俗慣習	鳥取市賀露町	鳥取市賀露町		毎年４月２８日、２９日に、鳥取市賀露町の賀露神社を中心に行われる春季祭礼行事。	○	○	○	
37	賀露神社の麒麟獅子舞	民俗文化財	指定	県指定無形民俗文化財	民俗芸能	鳥取市賀露町	鳥取市賀露町		港町に根付いた麒麟獅子舞の芸態は、勇壮な舞い方を伝承している。	○	○	○	
38	観音院庭園	記念物	指定	名勝	庭園	鳥取市上町	鳥取市上町162 観音院		桃山時代から江戸時代にかけての武家書院庭の様式	○	○	○	
39	菊慈童・花鳥図	有形文化財	指定	県指定保護文化財	絵画	鳥取市国安	鳥取市国安８９５		鳥取ゆかりの絵師として江戸時代後期に活躍した、片山楊谷（1760～1801）の三幅対(さんぶくつい)の作品。	○	○	○	
40	吉川元春祈願状、寄進状	有形文化財	指定	県指定保護文化財	古文書	鳥取市東町　県立博物館	鳥取市東町二丁目124番地県立博物館	鳥取県鳥取市鹿野町寺内155-1　加知弥神社	祈願状は、吉川元春が気多郡母木（現在の鳥取市気高町宝木）の宮吉城攻略の勝利に際して、感謝と以後の戦勝を祈念したもので、2月9日の日付がある。天正年間のものと推定される。一方、寄進状は、天正8年（1580）、元春が戦勝の機会に勝宿大明神に社領10石を寄進したことが記されている。	○	○	○	
42	キマダラルリツバメチョウ生息地	記念物	指定	天然記念物	植物	鳥取市	鳥取市	鳥取市久松山麓の樗谿	シジミチョウ科の小型の蝶。県内では、明治30年代に鳥取市久松山麓の樗谿で採集、発見された。	○	○	○	
43	旧美歎水源地水道施設	有形文化財	指定	重要文化財	建造物	鳥取市国府町	鳥取市国府町美歎		旧美歎水源地水道施設は、鳥取市民の飲料水の確保と公衆衛生の向上を主な目的として大正元年に起工し、大正４年９月より給水を開始した上水道施設で、昭和５３年に新たな水源地が建設されるまで供用されていた	○	○	○	
44	切支丹灯篭	有形文化財	指定	県指定保護文化財	考古資料	鳥取市、鳥取市気高町	鳥取市戎町202一行寺、鳥取市上町162　観音院、鳥取市栗谷町10興禅寺、鳥取市西町2丁目、鳥取市気高町酒津704東昌寺		江戸時代、潜伏切支丹が礼拝したといわれる花崗岩製の灯篭。	○	○	○	
45	擬宝珠	有形文化財	指定	県指定保護文化財	工芸品・考古資料	鳥取市東町　県立博物館	鳥取市東町二丁目124番地県立博物館	倉吉市関金宿字天神原の県道常藤関金線	昭和15年関金宿字天神原の県道常藤関金線工事で出土。青銅製擬宝珠2つを合わせ口にし、中に中国宋代竜泉窯の青磁香炉を納めた経塚埋納品。	○	×	×	
47	倉田八幡宮社叢	記念物	指定	天然記念物	植物	鳥取市馬場	鳥取市馬場299 倉田八幡宮		千代川右岸、鳥取平野の中ほどに位置するタブノキを中心とする約1haの照葉樹林。	○	○	○	
48	倉田八幡宮の麒麟獅子舞	民俗文化財	指定	県指定無形民俗文化財	民俗芸能	鳥取市蔵田	鳥取市蔵田		鳥取池田家の祈願所であった倉田八幡宮の麒麟獅子舞	○	○	○	
49	蔵見3号墳出土鴟尾付陶棺　附出土遺物一括	有形文化財	指定	県指定保護文化財	考古資料	鳥取市鳥取市湯所町　鳥取市出土品収蔵庫	鳥取市鳥取市湯所町1-148-2　鳥取市出土品収蔵庫	鳥取県福部町蔵見	本例は、鴟尾付陶棺として全体像がわかる形に復元できた全国で唯一の例であり、遺体埋納施設である陶棺と寺院建築の表象としての鴟尾という仏教的要素が結合したもので、終末期の古墳文化における仏教思想の導入をうかがわせる貴重な資料である。	○	○	○	
50	栗谷遺跡縄文時代出土遺物一括	有形文化財	指定	県指定保護文化財	考古資料	鳥取市上町88　鳥取市歴史博物館	鳥取市上町88　鳥取市歴史博物館	鳥取県福部町栗谷	栗谷遺跡は、福部砂丘の後背地に立地し、近年の発掘調査で、縄文時代前期～古墳時代の遺構と遺物が確認された。	○	○	○	
51	絹本著色東下り・耕作・草花図	有形文化財	指定	県指定保護文化財	絵画	鳥取市東町　県立博物館	鳥取市東町二丁目124番地県立博物館		鳥取藩の御用絵師であった沖一峨の作品。	○	○	○	
52	絹本著色江戸風景図	有形文化財	指定	県指定保護文化財	絵画	鳥取市気高町上光	鳥取市気高町上光		鳥取藩の御用絵師であった沖一峨の作品。本図は規模の大きさ、緻密な表現などから、一峨の真景図の中でも、出色の出来映えを誇る一点である。	○	×	○	
53	絹本著色群鯉図	有形文化財	指定	県指定保護文化財	絵画	鳥取市東町　県立博物館	鳥取市東町二丁目124番地県立博物館		黒田稲皐（1787～1846）筆。	○	○	○	
54	絹本著色釈迦十六善神像	有形文化財	指定	県指定保護文化財	絵画	鳥取市東町　県立博物館	鳥取市東町二丁目124番地県立博物館	鳥取市用瀬町鷹狩495　大安興寺	技法や像容から鎌倉時代後期の作と推定され、真言宗の古刹大安興寺の繁栄を偲ぶ遺品である。	○	○	×	
55	絹本著色東方朔図	有形文化財	指定	県指定保護文化財	絵画	鳥取市東町　県立博物館	鳥取市東町二丁目124番地県立博物館		土方稲嶺筆(1741～1807)筆。	○	○	○	
56	絹本著色普賢十羅刹女像	有形文化財	指定	重要文化財	絵画	鳥取市行徳	鳥取市行徳3 丁目977 常忍寺		鎌倉時代後期の作と推定される。	×	○	○	
57	絹本著色富士見西行図	有形文化財	指定	県指定保護文化財	絵画	鳥取市東町　県立博物館	鳥取市東町二丁目124番地県立博物館	鳥取市元魚町1 丁目212	沖探容筆。名は守素、鳥取藩江戸定詰絵師沖家の6代。	○	○	○	
58	絹本著色不動明王像	有形文化財	指定	県指定保護文化財	絵画	鳥取市東町　県立博物館	鳥取市東町二丁目124番地県立博物館	鳥取県八頭郡智頭町新見73豊乗寺	鎌倉時代の作と推定される。	○	○	×	
59	絹本著色猛虎図	有形文化財	指定	県指定保護文化財	絵画	鳥取市東町　県立博物館	鳥取市東町二丁目124番地県立博物館		片山楊谷（1760～1801）筆。			○	
60	絹本著色両界曼荼羅図	有形文化財	指定	県指定保護文化財	絵画	鳥取市東町　県立博物館	鳥取市東町二丁目124番地県立博物館	鳥取県八頭郡智頭町新見73豊乗寺	豊乗寺（ぶじょうじ）　蔵（鳥取県立博物館寄託） 鎌倉時代；絹本著色；縦143×横130（二幅対）			×	
61	越路雨乞踊	民俗文化財	指定	県指定無形民俗文化財	民俗芸能	鳥取市越路	鳥取市越路		雨が授かったことを神に感謝する踊りとして伝承されてきた。宝暦6年（1756）が記録に残る最古。現在では、民俗芸能としての要素もあり、随時行われるようになった。	○	○	○	
62	越路の雨乞踊	民俗文化財	選択	記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財	民俗芸能	鳥取市越路	鳥取市越路		雨が授かったことを神に感謝する行列風流と踊で、ささら摺りを先頭に総勢50人余が参加する。	○	○	○	
63	小札鋲留眉庇付冑	有形文化財	指定	県指定保護文化財	考古資料	鳥取市上町88　鳥取市歴史博物館	鳥取市上町88　鳥取市歴史博物館	鳥取市福部町湯山	国道9号線改良工事に伴う調査で、湯山6号墳から出土した遺物のうち一点。	○	○	○	
64	子持勾玉	有形文化財	指定	重要文化財	考古資料	鳥取市東町　県立博物館	鳥取市東町二丁目124番地県立博物館	東伯郡湯梨浜町高辻	祭器と推定される古墳時代中期の遺物。明治41年（1908）、湯梨浜町高辻で畑地開墾中に発見された。	○	○	×	
65	子持勾玉	有形文化財	指定	県指定保護文化財	考古資料	鳥取市東町　県立博物館	鳥取市東町二丁目124番地県立博物館	鳥取市高住青島	子持勾玉とは、大型の勾玉の腹背や両側面に小型の勾玉をいくつも付着させた形をしたもの。湖山池中の青島から出土したものだが、一遺跡から複数個の発見例は珍しく、古墳時代中期における祭祀文化を知る貴重な資料である。	○	○	○	
66	湖山池の石がま漁	民俗文化財	指定	県指定無形民俗文化財	風俗慣習	鳥取市三津	鳥取市三津		湖山池で江戸時代前期から行われていたとされる伝統的な漁法。石がまと呼ばれる人工漁礁を用いた漁法で、このような漁法は他に見られない。	○	○	○	
67	五臓圓ビル	有形文化財	登録	国登録有形文化財	建造物	鳥取市鳥取市二階町	鳥取市鳥取市二階町 2-207		昭和６年に建てられた五臓圓ビルは、智頭街道と通称二階町通りの交差点に位置し、市内に現存する最古の鉄筋コンクリート造建築である。	○	○	○	
68	坂谷神社社叢	記念物	指定	県指定天然記念物	植物	鳥取市福部町栗谷	鳥取市福部町栗谷389　坂谷神社		福部駅の東方約400m、南北に開いた標高30～100mの南向き斜面に位置する、スダジイ林を主とする大規模な照葉樹	○	○	○	
69	鷲山古墳	記念物	指定	県指定史跡	古墳	鳥取市国府町町屋	鳥取市国府町町屋		この古墳は径10mぐらいの円墳で、中に埋葬施設の横穴式石室があり、6世紀ごろの築造と考えられる。	○	○	○	
70	酒津のトンドウ	民俗文化財	指定	重要無形民俗文化財	風俗慣習	鳥取市気高町酒津	鳥取市気高町酒津		焼き代として作られる高さ4m余りの円錐形の造りものに特色があり、これは、もと神を迎えるための忌屋であったことを示している。ま	○	○	○	

72	三角縁神獣鏡鳥取県西伯郡会見町普段寺1号墳出土	有形文化財	指定	重要文化財	考古資料	鳥取市東町　県立博物館	鳥取市東町二丁目124番地県立博物館	西伯郡会見町寺内	普段寺1号墳は全長23mの前方後方墳。直径23.5cmのこの鏡は、中国製とされる三角縁神獣鏡で、内区に神仙思想を表	○	○	×	
73	三十六歌仙額	有形文化財	指定	県指定保護文化財	絵画	鳥取市東町　県立博物館	鳥取市東町二丁目124番地県立博物館		慶安3（1650）年に鳥取藩主池田光仲が日光東照宮を勧請して鳥取東照宮（樗谿神社）を創建した際に、拝殿を飾るために奉納した。			○	
74	塩文書	有形文化財	指定	県指定保護文化財	古文書	鳥取市東町　県立博物館	鳥取市東町二丁目124番地県立博物館	鳥取市青谷町早牛	慶長13年（1608、推定）4月14日の日付で、鹿野城主亀井茲矩が家臣塩五郎太夫にあてた自筆の書状。	○	○	○	
75	志加奴・城山神社獅子舞	民俗文化財	指定	県指定無形民俗文化財	民俗芸能	鳥取市気高町宿、鳥取市鹿野町鹿野	鳥取市気高町宿、鳥取市鹿野町鹿野		鳥取市気高町宿の志加奴神社と鹿野町鹿野の城山神社の両方に奉納される2人立ちの獅子舞。起源は、亀井茲矩が鹿野城主だった江戸初期	○	○	○	
76	鹿野地震断層の痕跡	記念物	指定	県指定天然記念物	地質鉱物	鳥取市鹿野町末用	鳥取市鹿野町末用		鹿野地震断層は、昭和１８年９月１０日に発生した鳥取大地震の時に生じた断層である。	○	○	○	
77	紙本金地著色竹梅図・紙本著色草虫図　衝立	有形文化財	指定	県指定保護文化財	絵画	鳥取市東町　県立博物館	鳥取市東町二丁目124番地県立博物館		鳥取藩の御用絵師沖一峨（1796～1861）の作品。表裏に竹梅図と草虫図とを描き分けた衝立である。			○	
78	紙本金字法華経巻第二、第四	有形文化財	指定	重要文化財	書跡	鳥取市立川町	鳥取市立川町4-24大雲院		本品も日野郡の豪農緒形四郎兵衛の寄進と伝わる。巻第四に表紙を残し、紺紙に金泥で蓮華を線描し、 見返しに銀切箔・砂子を散らす。	○	○	○	
79	紙本淡彩老樹図	有形文化財	指定	県指定保護文化財	絵画	鳥取市立川町	鳥取市立川町4丁目		建部僕斎（1769～1838）筆。			○	
80	紙本墨画雲竜図	有形文化財	指定	県指定保護文化財	絵画	鳥取市東町　県立博物館	鳥取市東町二丁目124番地県立博物館		土方稲嶺（1741～1807）筆。			○	
81	紙本墨画群鯉游泳図六曲屏風	有形文化財	指定	県指定保護文化財	絵画	鳥取市東町　県立博物館	鳥取市東町二丁目124番地県立博物館		黒田稲嶺（1741～1807）筆。			○	
82	下味野神社の麒麟獅子舞	民俗文化財	指定	県指定無形民俗文化財	民俗芸能	鳥取市下味野	鳥取市下味野		「下味野神社の麒麟獅子舞」の獅子頭は、因幡東照宮と呼ばれた樗谿神社から拝領したと伝えられる。	○	○	○	
83	城山神社祭礼行事	民俗文化財	指定	県指定無形民俗文化財	風俗慣習	鳥取市鹿野町鹿野	鳥取市鹿野町鹿野		鹿野城跡内の城山神社に奉納される祭礼行事。	○	○	○	
84	新興寺金峯山経塚出土遺物一括	有形文化財	指定	県指定保護文化財	考古資料	鳥取市東町　県立博物館	鳥取市東町二丁目124番地県立博物館	鳥取県八頭郡八頭町新興寺	大正６年（１９１７）に、新興寺付近の山腹斜面で土取りをしていた際に発見されたと伝えられ、銅経筒、和鏡、白磁の合子と皿などの出土遺物から、平安時代末から鎌倉時代初めに築かれた経塚。	○	×	×	
85	常忍寺本堂	有形文化財	登録	国登録有形文化財	建造物	鳥取市行徳	鳥取市行徳3-977		常忍寺は初代鳥取藩主池田光仲夫人芳心院の菩提寺の住職によって１８世紀に創建された日蓮宗の寺院。	○	○	○	
86	仁風閣	有形文化財	指定	重要文化財	建造物	鳥取市東町	鳥取市東町2-121		仁風閣は、明治40年（1907）、皇太子の山陰道行啓の宿舎として、旧鳥取藩主池田仲博によって建築された。設計は片山東熊、監督は橋本平蔵である。	○	○	○	
87	菅野ミズゴケ湿原	記念物	指定	県指定天然記念物	植物	鳥取市国府町菅野	鳥取市国府町菅野		この湿原は、標高400mに広がるオオミズゴケのみられる湿	○	○	○	
88	栖岸寺の双盤念仏	民俗文化財	指定	県指定無形民俗文化財	民俗芸能	鳥取市湖山町北	鳥取市湖山町北		「常念仏回向」という行の結願を感謝する儀式の中で奉納されてきた伝統行事。	○	○	○	
90	宋青磁香炉	有形文化財	指定	県指定保護文化財	工芸品	鳥取市東町　県立博物館	鳥取市東町二丁目124番地県立博物館	倉吉市関金宿字天神原の県道常藤関金線	昭和16年（1941）春、関金温泉街の道路工事で出土した擬宝珠の中に納められていた。	○	×	×	
92	空山10号古墳	記念物	指定	県指定史跡	古墳	鳥取市広岡	鳥取市広岡		玄室左側壁と袖石上部に積まれた石の鳥の絵と、玄室右側壁の人物2体は、写実的な表現で注目される。古墳時代後期の築造と推定される。	○	○	○	
93	空山15号古墳	記念物	指定	県指定史跡	古墳	鳥取市久末	鳥取市久末		彬径12m、高さ3m前後の円墳と考えられる後期の古墳である。石室全体に直線や綾杉文の線刻が認められるが、玄室左側腰石などに木の葉状、星型、船形といった特徴的な線刻が集中している。	○	○	○	
94	空山16号古墳	記念物	指定	県指定史跡	古墳	鳥取市久末	鳥取市久末		円墳で直径約15m、周囲に馬蹄形の周溝が巡る。横穴式石室は東側に開口し、現存全長約6m	○	○	○	
95	空山2号古墳	記念物	指定	県指定史跡	古墳	鳥取市香取	鳥取市香取		石室は全長5.5m、片袖式で南東に開口し、発掘調査で7世紀前半期の須恵器などが出土した。石室の奥壁、側壁、天井石に鳥、三角文、綾杉文などの線刻が描かれており、線刻画研究の端緒となった古墳として貴重である。	○	○	○	
97	高岡神社社叢	記念物	指定	県指定天然記念物	植物	鳥取市国府町高岡	鳥取市国府町高岡1047		高岡集落の北北西、標高約100mの南向きの緩斜面に位置する。 林相は、社殿後方から東側にわたる高地のスダジイ林と、低	○	○	○	
98	高砂屋（城下町とっとり交流館）店舗棟ほか5棟	有形文化財	登録	国登録有形文化財	建造物	鳥取市元大工町1	鳥取市元大工町1		明治の中ごろに鳥取市・元大工町の薬研堀（やげんぼり）沿いに移り、綿商いを行ってこられた商家	○	○	○	
99	太刀銘［表］信濃大掾藤原忠国玉纏太刀式の太刀拵	有形文化財	指定	県指定保護文化財	工芸品	鳥取市東町　県立博物館	鳥取市東町二丁目124番地県立博物館		慶安2年（1649）、因幡東照宮造宮に当たり、鳥取藩主池田光仲が奉納した神剣3振りのうちの1振り。目釘穴は1個。また、太刀拵は全長121.4cm。	○	○	○	
100	太刀銘［表］信濃大掾藤原忠国第一太刀式の太刀拵	有形文化財	指定	県指定保護文化財	工芸品	鳥取市東町　県立博物館	鳥取市東町二丁目124番地県立博物館		慶安2年（1649）、因幡東照の宮造宮に当たり、藩主池田光仲が奉納した神剣3振りのうちの1振り。藩工信濃大掾藤原忠国の作で、長さ95.8cm、反り2cm、重量1.6kgの豪壮な太刀姿で	○	○	○	
101	太刀銘［表］信濃大掾藤原忠国鋩剣［飾太刀］拵	有形文化財	指定	県指定保護文化財	工芸品	鳥取市東町　県立博物館	鳥取市東町二丁目124番地県立博物館		慶安2年（1649）、鳥取藩主池田光仲が因幡東照宮造営に当たり、玉纏太刀等とともに奉納した神剣で、藩工信濃大掾藤原忠国の鍛造である。長さ85.3cm、反り2.5cm、重さ1.3kg、目釘穴1個。鍛は板目がよく詰み、わずかに流れごころの小肌	○	○	○	
102	太刀銘［表］伯耆国倉吉住人播磨大掾藤原正綱	有形文化財	指定	県指定保護文化財	工芸品	鳥取市東町　県立博物館	鳥取市東町二丁目124番地県立博物館		藩主池田光仲の因幡東照宮造営に当たり、藩工信濃大掾藤原忠国鍛造による神剣3振りの奉納に続き、倉吉の刀工播磨大掾正綱が鍛造して、慶安3年（1650）に奉納された。	○	○	○	
104	竹虎図屏風	有形文化財	指定	県指定保護文化財	絵画	鳥取市鹿野	鳥取市鹿野町鹿野１６４雲龍寺		江戸時代後期に鳥取ゆかりの絵師として活躍した、片山榻谷（1760～1801）の作品。			○	
105	天神山城跡	記念物	指定	県指定史跡	城跡	鳥取市湖山町南	鳥取市湖山町南		鳥取市の湖山池東岸、通称天神山を中心とする一帯に立地する。	○	○	○	
106	伝　亀井茲矩将来品	有形文化財	指定	県指定保護文化財	工芸品	鳥取市東町　県立博物館	鳥取市東町二丁目124番地県立博物館	鳥取市鹿野町今市39譲伝寺	譲伝寺には、鹿野城主亀井武蔵守茲矩が寄進したとされる織物が3点保存されている。	○	○	○	
108	栃本廃寺跡	記念物	指定	史跡	社寺跡	鳥取市国府町栃本	鳥取市国府町栃本		白鳳時代に創建された古代寺院。柱孔、舎利孔をもつ塔心礎2基が約27.4m離れてあり、2塔を造立する古代寺院は山陰地方では珍しい。	○	○	○	
109	鳥取県栗谷遺跡出土品	有形文化財	指定	重要文化財	考古資料	鳥取市上町88　鳥取市歴史博物館	鳥取市上町88　鳥取市歴史博物館	鳥取県福部町栗谷	福部砂丘の後背地に立地する栗谷遺跡から、平成元年（1989）と翌２年（1990）の発掘調査により出土 した、縄文時代後期の木工品である杓子を含む一括資料。	○	○	○	
110	鳥取砂丘	記念物	指定	天然記念物	地質・植物	鳥取市浜坂、福部町湯山	鳥取市浜坂、福部町湯山		鳥取市の北方に発達した東西16km、南北2kmの海岸砂丘の一部で、大きな起伏と「スリバチ」と呼ばれる凹地地形など全	○	○	○	

111	鳥取城跡附太閤ヶ平	記念物	指定	史跡	城跡	鳥取市東町、栗谷町、百谷、円護寺	鳥取市東町、栗谷町、百谷、円護寺		鳥取城は、久松山を利用した典型的な山城で、16世紀中頃の築城と伝えられる。	○	○	○	
112	鳥取藩主池田家墓所	記念物	指定	史跡	墳墓	鳥取市国府町奥谷、宮下	鳥取市国府町奥谷、宮下		鳥取藩主池田家の初代光仲から11代慶栄に至る歴代藩主と妻子らの墓所。	○	○	○	
113	鳥取民藝美術館	有形文化財	登録	国登録有形文化財	建造物	鳥取県鳥取市栄町	鳥取県鳥取市栄町651		当美術館は、民藝の紹介・流通を目的として、民藝運動の重要な一翼を担った吉田璋也（よしだしょうや）が設計し、昭和32年に建築、昭和36年に増築されて現在の形となった。	○	○	○	
114	銅鐸口	有形文化財	指定	県指定保護文化財	考古資料	鳥取市国府町町屋	鳥取市国府町町屋字寺前田	鳥取市国府町町屋字寺前田	大正年間、鳥取市国府町町屋字寺前田の桑畑を開墾中に発見された。銅製で経21.5cm、厚さ6.5cm。	○	○	○	
115	ナウマンゾウ牙温泉津沖日本海底産	記念物	指定	県指定天然記念物	地質鉱物	鳥取市東町　県立博物館	鳥取市東町二丁目124番地県立博物館	島根県温泉津町の沖合い60km、水深220mの日本海海底	この化石は、昭和41年（1966）1月、島根県温泉津町の沖合い60km、水深220mの日本海海底で、岩美町田後港の漁船が採取したもの。	○	○	○	
116	ナウマンゾウ牙萩沖日本海底産	記念物	指定	県指定天然記念物	地質鉱物	鳥取市東町　県立博物館	鳥取市東町二丁目124番地県立博物館	山口県萩市の沖合約150km、水深166mの海底	この化石は、昭和60年（1985）5月、山口県萩市の沖合約150km、水深166mの海底で、鳥取市賀露港の漁船に採取された。	○	×	○	
118	廃阿代寺正平在銘鐘	有形文化財	指定	県指定保護文化財	工芸品・考古資料	鳥取市東町　県立博物館	鳥取市東町二丁目124番	岩美郡岩美町網代	明治初年、岩美町網代の畑で発見された。青銅製で、総高	○	×	○	
119	白兎神社樹叢	記念物	指定	天然記念物	植物	鳥取市白兎 白兎神社	鳥取市白兎603 白兎神社		大黒さまと白兎の伝説で知られる白兎神社の参道西側の樹叢で、日本海にごく近いため強い海風や飛砂の影響を直接うけて、独特の環境のもとに発達した樹叢である。	○	○	○	
121	ハマナス自生南限地帯	記念物	指定	天然記念物	植物	鳥取市、西伯郡大山町鳥取市白兎、西伯郡大山町松河原	鳥取市、西伯郡大山町鳥取市白兎688国有地、西伯郡大山町松河原		ハマナスはバラ科の植物で、5月末～6月にバラによく似た帯紫赤色の花を咲かせる。	○	○	○	
122	馬場八幡人形芝居道具	民俗文化財	指定	県指定有形民俗文化財	民俗資料	鳥取市馬場299 倉田八幡	鳥取市馬場299 倉田八幡		人形芝居の起源は、天保年間（1830～）以前とされる。	○	○	○	
123	日置のはねそ踊	民俗文化財	指定	県指定無形民俗文化財	民俗芸能	鳥取市青谷町河原	鳥取市青谷町河原		「はねそ踊り」は江戸時代の中期から、因幡地方各地で伝承されてきた盆踊りである。	○	○	○	
124	聖神社の神幸行列	民俗文化財	指定	県指定無形民俗文化財	風俗慣習	鳥取市行徳	鳥取市行徳		鳥取市行徳にある聖神社は、市内の主な通りにある商店街の大半を氏子として、盛大な神幸行列を行う。	○	○	○	
125	聖神社本殿、幣殿及び拝殿	有形文化財	指定	県指定保護文化財	彫刻及び建造物	鳥取市行徳	鳥取市行徳2-705		聖神社の創建年代は明らかではないが、現在の本殿は、寛政年間（18世紀末）の改築と推定される。	○	○	○	
126	福田家住宅	有形文化財	指定	重要文化財	建造物	鳥取市紙子谷	鳥取市紙子谷60		福田家は江戸時代に旧津ノ井村の庄屋を勤めた旧家。住宅の建築年代は17世紀を下らないものと推定される。	○	○	○	
127	布勢古墳	記念物	指定	史跡	古墳	鳥取市布勢	鳥取市布勢		湖山池東岸の丘陵上に立地する全長約60mの前方後円墳。	○	○	○	
129	坊ヶ塚古墳	記念物	指定	県指定史跡	古墳	鳥取市広岡	鳥取市広岡		坊ヶ塚古墳は横穴式石室を埋葬施設に持つ円墳で、径約13m、高さ約3.3m。石室内の壁面には多くの線刻が見られるが、特に羨道右側壁には、弓を引く人物が写実的に描かれており、注目される	○	○	○	
130	梵鐘	有形文化財	指定	重要文化財	工芸品	鳥取市寺町	鳥取市寺町27 本願寺		平安時代前期の作と推定され、本県所在の梵鐘としては最古のものである。	○	○	○	
131	梵鐘	有形文化財	指定	県指定保護文化財	工芸品	鳥取市東町　県立博物館	鳥取市東町二丁目124番地県立博物館	鳥取県鳥取市河原町片山854 国英神社	紀年銘をもつ梵鐘として県内最古（1301年鋳造）のもの。	○	○	×	
133	松上神社のサカキ樹林	記念物	指定	天然記念物	植物	鳥取市松上990 松上神社	鳥取市松上990 松上神社		松上集落の南側の尾根にある神社社叢の一部。サカキが多いことを特徴とするが、社叢全体としても自然性が高い。	○	○	○	
134	松に猿嵌木丸額	有形文化財	指定	県指定保護文化財	工芸品	鳥取市覚寺　渡辺美術館	鳥取市覚寺鳥取市覚寺堤下 1−55−1　渡辺美術館		松に猿嵌木丸額は、鳥取県出身の木工芸家である西村荘一郎氏によって制作された木象嵌作品。	○	○	○	
135	摩尼寺仁王門	有形文化財	指定	県指定保護文化財	建造物	鳥取市覚寺	鳥取市覚寺624　摩尼寺		県下には数少ない本格的な形式をもった三間一戸楼門で、桟瓦葺の入母屋造である。その様式上から、18世紀後半頃に建築されたものと認められ、建築当初の姿をよく留めている上でも貴重である。	○	○	○	
137	木造吉祥天立像	有形文化財	指定	重要文化財	彫刻	鳥取市国府町松尾	鳥取市国府町松尾55学行院		像高120cm。桂の一木造りだが、左手首先などは後補による別材。製作は薬師三尊と同じく平安時代後期とされる	○	○	○	
138	木造吉祥天立像	有形文化財	指定	県指定保護文化財	彫刻	鳥取市正蓮寺	鳥取市正蓮寺毘沙門堂		木造毘沙門天立像と同じく、鳥取市正蓮寺の通称毘沙門堂に安置されている。杉の一木造りで、像高約1.3m。平安時代後期の地方作と推定されている。	○	○	○	
139	木造麒麟獅子頭	有形文化財	指定	県指定保護文化財	工芸品・考古資料	鳥取市国府町町屋	鳥取市国府町町屋726因幡万葉歴史館		稲荷神社に奉納される獅子舞に使用されるもので、室町時代の制作と推定され、現存する県内最古の麒麟獅子頭。	○	○	○	
140	木造麒麟獅子頭	有形文化財	指定	県指定保護文化財	彫刻	鳥取市中砂見字大湯棚	鳥取市中砂見字大湯棚保存会		この麒麟獅子頭は、上砂見地区に鎮座する大和佐美命神社に奉仕する獅子舞に使用されるものである。	○	○	○	
141	木造狛犬	有形文化財	指定	県指定保護文化財	彫刻	鳥取市東町　県立博物館	鳥取市東町二丁目124番地県立博物館		県内で数少ない木造狛犬で、墨書から南北朝時代の明徳3年（1392）の制作が知られる。	○	×	○	
142	木造蔵王権現立像	有形文化財	指定	県指定保護文化財	彫刻	鳥取市東町　県立博物館	鳥取市東町二丁目124番地県立博物館	岩美郡岩美町岩本350観照院	観照院（岩美町岩本）所蔵の「蔵王権現立像」は、三徳山三仏寺に客仏としてあった像を明治前半頃、観照院に移した仏像であると伝えられている。平安時代後期の作と推定され	○	×	○	
143	木造十一面観音立像	有形文化財	指定	県指定保護文化財	彫刻	鳥取市気高町飯里　延命	鳥取市気高町飯里　延命		江戸時代中後期の造像遊行僧として知られる木喰上人の秀	○	○	○	
144	木造大日如来坐像金剛界胎蔵界	有形文化財	指定	県指定保護文化財	彫刻	鳥取市東町　県立博物館	鳥取市東町二丁目124番地県立博物館	八頭郡若狭町長砂無道山永福寺	真言密教の本尊である金剛界の大日如来（総高110cm）と胎蔵界の大日如来（総高107cm）。平安時代後期の作と推定され、2体揃って保存状態も良好なことから、価値が高い。	○	×	×	
145	木造毘沙門天立像	有形文化財	指定	県指定保護文化財	彫刻	鳥取市正蓮寺	鳥取市正蓮寺　毘沙門堂		本像は、杉の一木造りで、像高約1.2m。製作年代は平安時代後期と推定されているが、他説もある。	○	○	○	
146	木造薬師如来及び両脇侍坐像	有形文化財	指定	重要文化財	彫刻	鳥取市国府町松尾	鳥取市国府町松尾		薬師如来は像高122cm。頭と体部を檜の一木で彫っており、漆箔像で蓮弁裏などに金箔が多く残る。脇侍日光菩薩は像高99cm。漆箔像で本尊とも膝が深いことが特色である。平安	○	○	○	
147	木造薬師如来坐像	有形文化財	指定	県指定保護文化財	彫刻	鳥取市古郡家	鳥取市古郡家		面相や衣文から平安時代後期（藤原期）の作と推定される。像高は80.4cm、檜材の一木造り。	○	○	○	
148	木造薬師如来坐像	有形文化財	指定	県指定保護文化財	彫刻	鳥取市気高町常松	鳥取市気高町常松　薬師堂		常松集落内の薬師堂に安置してあり、行基作の因幡七薬師仏の一つとする伝承がある。	○	○	○	
149	木造薬師如来立像	有形文化財	指定	県指定保護文化財	彫刻	鳥取市鹿野町鹿野	鳥取市鹿野町鹿野		一木造りで、彫眼、螺髪は刻出している。像高150cm。全体に量感に富み、両膝の同心円的な衣文などに平安時代前期の様式をみせてはいるが形式化しており、平安時代後期の作と考えられている	○	○	○	
151	百手の神事	民俗文化財	指定	県指定無形民俗文化財	風俗慣習	鳥取市気高町八東水	鳥取市気高町八東水字前田1207姫路神社		八東水の姫路神社に伝わる神事。悪疫退散、五穀豊穣を祈願して、神官が一年を表す12本の矢を射る。	○	○	○	
152	矢矯神社社叢	記念物	指定	県指定天然記念物	植物	鳥取市矢矯	鳥取市矢矯		この社叢は、鳥取市街地の南西約14km、標高190m前後の山麓の北西側斜面にある。	○	○	○	
153	山ヶ鼻古墳	記念物	指定	県指定史跡	古墳	鳥取市古海	鳥取市古海		千代川下流の左岸にある古海集落の南西側に延びる尾根上に、古海古墳群がある。この中の古海13 号墳が山ヶ鼻古墳	○	○	○	
154	有隣荘	有形文化財	登録	国登録有形文化財	建造物	鳥取市国安	鳥取市国安895		江戸時代には代々大庄屋を勤めた西尾家の旧宅。	○	○	○	

157	龍虎図屏風	有形文化財	指定	県指定保護文化財	絵画	鳥取市鹿野	鳥取市鹿野町鹿野１６４雲龍寺		鳥取ゆかりの絵師として江戸時代後期に活躍した、片山楊谷（1760～1801）の作品。			○	
158	絹本著色竹梅図・紙本著色草虫図衝立	有形文化財	指定	県指定文化財	絵画	鳥取市東町　県立博物館へ寄託				○	○	×	
159	流水文銅鐸	有形文化財	指定	県指定文化財	考古資料	鳥取市東町　県立博物館	鳥取市東町二丁目124番地県立博物館	鳥取市越路	昭和35年、鳥取市越路の果樹園の斜面から発見されたもの。損傷が著しく、半面の2/3と鈕の頂部などを欠損してい	○	○	○	
161	鳥取しゃんしゃん傘踊り				民俗芸能	鳥取市	鳥取市		因幡のかさ踊りを老若男女を問わず気軽に踊れるようエ夫し、振付けた新民踊。（鳥取しゃんしゃん祭）	×	×	○	
162	福部砂神太鼓				民俗芸能	鳥取市福部町	鳥取市福部町細川		砂丘の雄大さ日々かわる表情をイメージしながら太鼓を響かせる。	×	×	○	
164	貝がら節踊				民俗芸能	鳥取市気高町浜村温泉	鳥取市気高町浜村温泉		貝がら節は、むかし、きびしい漁労(帆立貝)の苦しさを忘れるために歌われ、この歌にあわせて踊られている。	×	×	○	
165	ぞうりの舞				民俗芸能	鳥取市気高町宝木	鳥取市気高町宝木		春祭の行事で長く伝えられた動と静の舞。	×	×	○	
166	逢鷲太鼓				民俗芸能	鳥取市気高町山宮	鳥取市気高町山宮		逢坂地区の青年がチームを結成、町内外で活躍している。勇壮な太鼓である。	×	×	○	
167	鹿野さんこ踊				民俗芸能	鳥取市鹿野町鹿野	鳥取市鹿野町鹿野		古くて純粋で、踊り本来の姿がこもった典型的な民踊である。	×	×	○	
168	鹿野亀井太鼓				民俗芸能	鳥取市鹿野町鹿野	鳥取市鹿野町鹿野		亀井公が金剛城の兵主源六を踊りでさそい出し、城を焼き落とした。その合戦の様子を表現した創作太鼓。	×	×	○	
169	河内はねそ踊				民俗芸能	鳥取市鹿野町河内	鳥取市鹿野町河内		因幡の盆踊りは中世に始まった。念仏踊系「はねそ」が最も	×	×	○	
170	勝部の岩力踊				民俗芸能	鳥取市青谷町紙屋	鳥取市青谷町紙屋		男女ともに豪快な踊り。全体の構成は櫓の上に太鼓、唄い手を真中にし、踊り子は輪をつくり、左廻りに踊っていく。	×	×	○	
171	箕浦家武家門	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	建造物	鳥取県鳥取市尚徳町１０１	鳥取県鳥取市尚徳町１０１		もと東町のお堀端にあった鳥取藩士箕浦家の表門。箕浦家は、番頭の家柄で、禄高は約2千石。			○	
172	大熊段一号墳・二号墳	市指定文化財	指定	市指定史跡	古墳	鳥取市湖山町南４丁目	鳥取市湖山町南４丁目		1･2 号墳とも、湖山池北東の洪積丘陵上に営まれた湖山古墳群に属するもので、鳥取大学グラウンド北側にある市有地の松林に囲まれた位置にある。			○	
173	北川家文書	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	古文書	鳥取市上町88鳥取歴史館	鳥取市上町88鳥取歴史館	鳥取市吉成１丁目（やまびこ館寄託）	15世紀末～16世紀初頭ごろの因幡国関係（山名氏）文書			○	
174	嶋人形一式	市指定文化財	指定	市指定有形民俗文化財	民俗資料	鳥取市上町88鳥取歴史館	鳥取市上町88鳥取歴史館					○	
175	御熊神社玄武岩柱状節理	市指定文化財	指定	市指定天然記念物	地質鉱物	鳥取県鳥取市御熊	鳥取県鳥取市御熊６１２		御熊神社社殿の裏側斜面一帯の直径約0.5m、長さ1.5m～2mの六角柱状の岩石、玄武岩。			○	
176	松上山三所大菩薩	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	彫刻	鳥取市岩坪	鳥取市岩坪		江戸期の仏像3体			○	
177	橋本古墳	市指定文化財	指定	市指定史跡	古墳	鳥取市橋本	鳥取市橋本		古墳時代後期、横穴式石室、家形石棺の円墳			○	
178	興禅寺庭園	市指定文化財	指定	市指定名勝	庭園	鳥取県鳥取市栗谷町	鳥取県鳥取市栗谷町10		鳥取藩主池田家の菩提寺。庭園は池泉観賞式の武家書院			○	
179	安蔵シャクナゲ群落	市指定文化財	指定	市指定天然記念物	植物	鳥取市安蔵	鳥取市安蔵		山地帯の峡谷に自生する常緑低木、市内で最も大きな群落			○	
180	離水海食洞	市指定文化財	指定	市指定天然記念物	地質鉱物	鳥取市浜坂	鳥取市浜坂		丸山町から浜坂へ通じる道路沿いにある洞窟で、入口部分の高さは1.0m、最大幅0.9m、奥行きは18m 。			○	
181	百歳祝着	市指定文化財	指定	市指定有形民俗文化財	民俗資料	鳥取市栄町651鳥取民芸美術館	鳥取市栄町651鳥取民芸美術館		江戸末期の大庄屋の晴着。			○	
182	樗谿神社社叢	市指定文化財	指定	市指定天然記念物	建造物	鳥取市上町87	鳥取市上町87		樗谿神社北川斜面は、スダジイを中心にアラカシ、モミ、ヤブツバキ等が混ざった常緑広葉樹林（照葉樹林）が発達している。南側斜面はモミを中心にスダジイが混ざる針葉樹と常緑			○	
183	山王社地宝篋印塔	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	建造物	鳥取県鳥取市布勢469日吉神社	鳥取県鳥取市布勢469日吉神社		南北朝前期から中期の印塔			○	
184	尚徳錬武館伝「雖井蛙流平法」	市指定文化財	指定	市指定無形文化財	風俗慣習	鳥取県鳥取市東町１丁目２０１尚徳錬武館	鳥取県鳥取市東町1丁目201尚徳錬武館		丹石流、去水流、東軍流、卜伝流、神道流、新陰流、タイ捨流、岩流、戸田流など諸流を修めた.江戸時代中期の剣客深尾角馬が、「井の中の蛙と雖も大海を知らざるべけんや」との意で「雖井蛙流平法」と称して創始した。			○	
185	元大工町古絵図	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	考古資料	鳥取市元大工町	鳥取市元大工町		藩初の寛永年間から幕末までの240年間の鳥取城下元大工町の絵図（8枚）			○	
186	石井家文書	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	古文書	鳥取市上町88鳥取歴史館	鳥取市上町88鳥取歴史館	鳥取市青谷町石井洋氏	伊能忠敬測量隊が、第5次測量と第8次測量で因幡国芦崎村（青谷）に宿泊したとき宗旨庄屋石井世左衛門が、測量隊から見聞したことを書き留めたもの。			○	
187	宝隆院庭園	市指定文化財	指定	市指定名勝	庭園	鳥取市東町２丁目121	鳥取市東町2-121		仁風閣にある庭園。この名園は、十一代藩主・池田慶栄の未亡人・宝隆院のために十二代藩主・池田慶徳が扇御殿とともに作った池泉回遊式の庭園			○	
188	覚寺さいとりさし	市指定文化財	指定	市指定無形民俗文化財	民俗芸能	鳥取市覚寺	鳥取市覚寺		初春の祝狂言			○	
189	蝦夷風俗圖式、蝦夷器具圖式	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	絵画	鳥取市岩倉	鳥取市岩倉		藩政期の鳥取の代表的な絵師谷元旦の初期の作品。	○	○	○	
190	寒山拾得図	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	絵画	鳥取市新品治	鳥取市新品治		藩政期の鳥取の代表的な絵師島田元旦の作品。	○	○	○	
191	吉岡温泉記・吉岡温泉吟詠草	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	古文書	鳥取市吉岡温泉町670宝泉寺	鳥取市吉岡温泉町670宝泉寺		吉岡温泉の宝泉寺所蔵。1647年頃近世初期因幡を代表 する知識人小泉友賢が執筆 ･. 編集したもの。			○	
192	法華寺の礎石	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	社寺跡	鳥取市国府町法花寺	鳥取市国府町法花寺		奈良時代に建てられた法華寺（国分尼寺）の礎石。			○	
193	庁の大五輪塔	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	建造物	鳥取市国府町庁	鳥取市国府町庁		総高192cmで一度壊れたが江戸時代に再建されたもの。			○	
194	石舟古墳	市指定文化財	指定	市指定史跡	古墳	鳥取市国府町新井	鳥取市国府町新井		直径10メートルほどの小規模な円墳で築造年代は6世紀末から7世紀前半と推定される。横穴石室が存在し、玄室には凝灰岩で造られた家形石棺が安置されている。二位尼の墓とする伝承が存在する。			○	
195	国分寺の礎石	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	社寺跡	鳥取市国府町国分寺	鳥取市国府町国分寺		天平１３年、聖武天皇の勅願により創建された因幡国分寺は、今の国分寺部落がその寺跡である。			○	
196	万葉の歌碑	市指定文化財	指定	市指定史跡	建造物	鳥取市国府町庁	鳥取市国府町庁		庁の集落には高さ3メートルほどの自然石の碑が建てられており、表面に「天平宝字三年春正月一日於 因幡国庁賜饗国郡司等之宴歌一首『 新年之始乃波都波流能家布敷流由伎能伊夜之家余其騰』（あらたしきとしのはじめのはつはるのきようふるゆきのいやしげよごと）右一首守大伴宿弥家持作之」			○	
197	町屋の大宝篋印塔	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	建造物	鳥取市国府町町屋	鳥取市国府町町屋		宝篋印塔」は　墓塔　供養塔などに使われる仏塔の一種で五輪塔とともに石造りの遺品が多い。相輪がなく代わりに五輪塔の風・空輪がのせられていて、2.34mの高さにもなる。			○	
198	姫塚	市指定文化財	指定	市指定史跡	古墳	鳥取市国府町美歎	鳥取市国府町美歎		古墳時代の終わり7世紀ごろの古墳。			○	
199	手笠おどり	市指定文化財	指定	市指定無形民俗文化財	民俗芸能	鳥取市国府町美歎・神垣	鳥取市国府町美歎・神垣		神垣(こうがけ)手笠踊りは、昭和の初めごろ長枝の傘を手笠に変えて、唄や笛と共に村の芸能として踊られていました。			○	
200	谷の観音立像	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	彫刻	鳥取市国府町谷	鳥取市国府町谷		「峯勝山円城寺」の祈願所「谷の観音堂」がある。「因幡観音十八番札所、谷の観音さん」として古くから信仰された観音菩薩である。　本尊は「千手観音菩薩」で縁起録によれば四十五代聖武天皇の御代、光明皇后御安産の祈願のため仏師行基に仏像をきざませ、その一つを、伝教大師が京都の比叡山よりこの祈願所にうつしたと伝えている。			○	

201	万灯	市指定文化財	指定	市指定無形民俗文化財	風俗慣習	鳥取市国府町町屋	鳥取市国府町町屋		当日は午後6時頃から集落各戸1名集まり、甑山頂上（標高約100m）に登り、竹で組んだ十字形の竿に、先と左右の竹先きに麦藁一束を葛で固定し、麦藁に火をつけて「マンドウ、マンドウ」と連呼しながら、4～5人で竿をまわす。これを2回繰り返して下山していく。			○	
202	等ヶ坪廃寺跡の礎石	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	社寺跡	鳥取市国府町玉鉾	鳥取市国府町玉鉾		遺跡は消失しているが礎石や、芸術性の高い大和川原寺式の軒丸瓦、壮大な鴟尾などが出土している			○	
203	犬塚	市指定文化財	指定	市指定史跡	建造物	鳥取市国府町法花寺	鳥取市国府町法花寺		高さ120センチの自然石に犬塚と素朴な文字で書かれ、周囲には大小無数の五輪がおかれていたが、今は整地されて石碑のみが残っている。			○	
204	庁のムクの木	市指定文化財	指定	市指定天然記念物	植物	鳥取市国府町庁	鳥取市国府町庁		大伴家持歌碑のそばにそびえる大木。樹高30m、胸高直径			○	
205	楠城の道標地蔵	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	彫刻	鳥取市国府町楠城	鳥取市国府町楠城		（光背右）「右 なわ志ろみち」、（光背左）「左 たぢまみち」／光背中央に地蔵立像を陽刻。江戸期の石道標（舟型）			○	
206	茅堂	市指定文化財	指定	市指定有形民俗文化財	彫刻	鳥取市国府町下木原	鳥取市国府町下木原		下木原の北を流れる袋川を渡り、岩美町に通じる鶏冠尾峠の坂の下にある小さなお堂を「茅ん堂」と呼び、地蔵様がご本尊として祭られています。古くから耳の病にあらたかなご利益があるといわれ、因幡一円はもとより遠く但馬からの参拝者も多かったといわれています。			○	
207	糸谷古墳	市指定文化財	指定	市指定史跡	古墳	鳥取市国府町糸谷	鳥取市国府町糸谷		糸谷集落の北西の丘陵にある古墳群で、一一基の古墳と弥生 時代終末期の墓とからなる。			○	
208	広西の宝篋印塔	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	建造物	鳥取県鳥取市国府町広西字梅ノ木194	鳥取県鳥取市国府町広西字梅ノ木194		多居乃上（たこのうえ）神社にある宝篋印塔			○	
209	牛尾大蔵左衛門の五輪塔	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	建造物	鳥取市福部町細川	鳥取市福部町細川		室町末期から安土桃山時代の五輪塔。鳥取城主牛尾大蔵左衛門春重の墓。			○	
210	子持御前の五輪塔	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	建造物	鳥取市福部町細川	鳥取市福部町細川		1564年新井の道竹城主の奥方の墓とされる			○	
216	羽柴秀吉感状	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	古文書	鳥取市上町88鳥取歴史館	鳥取市上町88鳥取歴史館	鳥取市河原町弓河内（やまびこ館に寄託）	弓河内村の長であった六郎左衛門への羽柴秀吉からの天正8 年（1580）10 月6 日付の感状。			×	
217	羽柴秀吉禁制	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	古文書	鳥取市上町88鳥取歴史館	鳥取市上町88鳥取歴史館	鳥取市河原町弓河内（やまびこ館に寄託）	天正9 年（1581）、秀吉軍は因幡諸国を攻略したが、その際、禁令を発し、弓河内村を保護した。禁制の日付は天正9 年7 月で、鳥取城攻めの最中である。			×	
221	東井神社本殿	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	建造物	鳥取県鳥取市用瀬町用瀬96	鳥取県鳥取市用瀬町用瀬96		天暦年代（947～957）が始まりといわれ、一時焼失するが再建される。現在の建物は明治5年に建てられたもの。			×	
225	絹本著色不動明王図	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	絵画	鳥取市東町　県立博物館	鳥取市東町二丁目124番地県立博物館	鳥取市用瀬町鷹狩1195－1大安興寺（県立博物館に寄託）	鎌倉時代の作と推定される不動明王図。	○	○	×	
226	絹本著色愛染明王図	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	絵画	鳥取市東町　県立博物館	鳥取市東町二丁目124番地県立博物館	鳥取市用瀬町鷹狩1195－1大安興寺（県立博物館に寄託）	鎌倉時代の作と推定される愛染明王図。	○	○	×	
227	絹本著色三宝荒神図	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	絵画	鳥取市東町　県立博物館	鳥取市東町二丁目124番地県立博物館	鳥取市用瀬町鷹狩（県立博物館に寄託）	鎌倉時代の作と推定される三宝荒神図。	○	○	×	
228	絹本著色五大明王図	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	絵画	鳥取市東町　県立博物館	鳥取市東町二丁目124番地県立博物館	鳥取市用瀬町鷹狩1195－1大安興寺（県立博物館に寄託）	鎌倉時代の作と推定される5大明王図。	○	○	×	
247	沢見塚古墳	市指定文化財	指定	市指定史跡	古墳	気高町奥沢見	鳥取市気高町奥沢見長丁の山頂		全長27mの双方中円墳、6世紀代、古墳時代後期の古墳			○	
248	西山1号墳	市指定文化財	指定	市指定史跡	古墳	鳥取市気高町下坂本	鳥取市気高町下坂本		全長47m気高郡最大の前方後方墳、未盗掘で古墳時代中期（5世紀中ごろ）の築造			○	
249	宝木1号墳	市指定文化財	指定	市指定史跡	古墳	鳥取市気高町宝木	鳥取市気高町宝木		気高町宝木南谷の丘陵先端にある全長20mの小型の前方後円墳、または帆立貝式古墳。4世紀後半（古墳時代前期後半）築造。			○	
250	宝木16号墳	市指定文化財	指定	市指定史跡	古墳	鳥取市気高町宝木	鳥取市気高町宝木		気高町宝木南谷の丘陵先端にある全長26mの前方後円墳。5世紀築造			○	
251	上光10号墳	市指定文化財	指定	市指定史跡	古墳	鳥取市気高町上光	鳥取市気高町上光の加美々神社の裏山		全長33m高さ1mの前方後円墳。5世紀代（古墳時代中期）の築造			○	
252	矢口1号墳	市指定文化財	指定	市指定史跡	古墳	鳥取市気高町下坂本	気高町下坂本		全長21mの小型前方後円墳。			○	
253	重高4号墳	市指定文化財	指定	市指定史跡	古墳	鳥取市気高町重高	気高町重高		全長21mの前方後円墳。未盗掘			○	
254	重高5号墳	市指定文化財	指定	市指定史跡	古墳	鳥取市気高町重高	気高町重高		全長35.5mの前方後円墳			○	
255	漆谷横穴（重高7号墳）	市指定文化財	指定	市指定史跡	古墳	鳥取市気高町重高漆谷奥部東向き斜面	気高町重高漆谷奥部東向き斜面		山の斜面に横から穴を空けて造られた古代の墓で綾杉文の線刻が横穴式石室内にある。			○	
256	殿15号墳	市指定文化財	指定	市指定史跡	古墳	鳥取市気高町殿	鳥取市気高町殿		径9m高さ1.2mの円墳で埋葬主体部に横穴式石室を設置されて封土が遺存する極めて珍しい古墳。天井には綾杉文ほか無数の線刻がある。			○	
257	殿25号墳	市指定文化財	指定	市指定史跡	古墳	鳥取市気高町殿	鳥取市気高町殿		石室内に鳥の線刻壁画あり。6世紀ないし7世紀中ごろまでの築造。			○	
258	睦逢11号墳	市指定文化財	指定	市指定史跡	古墳	鳥取市気高町睦逢	鳥取市気高町睦逢		睦逢字大平一帯に分布する露出した横穴式石室墳の一つ。石室内に鳥の線刻壁画あり。			○	
259	八束水7号墳	市指定文化財	指定	市指定史跡	古墳	鳥取市気高町八束水	鳥取市気高町八束水		50基をこえる古墳群のなかのひとつ。全長38m前方後方			○	
260	霧島つつじ	市指定文化財	指定	市指定天然記念物	植物	鳥取市気高町下光元	鳥取市気高町下光元		根回り0.62m、樹高3.4m、樹冠幅5.5m、6.7m、推定樹齢200～300年の霧島つつじ			○	
261	亥の子行事	市指定文化財	指定	市指定無形民俗文化財	風俗慣習	鳥取市気高町八束水姫路	鳥取市気高町八束水姫路		10月の初めの亥の日を、亥の子さんと呼び、亥の子づとや地突き石で地面を叩く習慣がある。			○	
262	十一面観世音菩薩立像	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	彫刻	鳥取市気高町宿	鳥取市気高町宿		延命庵というお堂がある。このお堂の本尊が木喰上人五行（一七一八～一八一〇）の作という木造十一面観音菩薩立像で、木喰仏の一つである。			○	
263	殿聖観世音菩薩坐像	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	彫刻	鳥取市気高町殿	鳥取市気高町殿					○	
264	布勢平神社社叢林	市指定文化財	指定	市指定天然記念物	植物	鳥取市気高町殿	鳥取市気高町殿		平神社を中心とした約0.5haの林域である			○	
265	阿弥陀森の大タブノキ	市指定文化財	指定	市指定天然記念物	植物	鳥取市気高町山宮	鳥取市気高町山宮		推定樹齢400年以上、幹は地上2mのところでこぶ状に肥大し、大きく4つに分かれ、さらに3～4mの付近にコケ類やシダ類が付着して数十本の太い枝に分かれる。			○	
266	両国梶之助の墓地	市指定文化財	指定	市指定史跡	墳墓	鳥取市気高町宝木	鳥取市気高町宝木		鳥取池田藩のお抱え力士の「両国梶之助」の墓			○	
267	亀井茲矩公墓所	市指定文化財	指定	市指定史跡	墳墓	鳥取市気高町山宮	鳥取市気高町山宮		戦国時代、この地を統治した鹿野城主亀井茲矩（かめいこれのり）の墓所。			○	
268	稲富家墓地	市指定文化財	指定	市指定史跡	墳墓	鳥取市気高町宿	鳥取市気高町宿					○	

269	勝見薬師堂本尊薬師如来像及び仏龕	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	彫刻	鳥取市気高町勝見	鳥取市気高町勝見		勝見薬師堂は，「一の湯」の山の中腹にあり，本尊は東方瑠璃光薬師如来。池田家の紋所が瓦などに使用されているが，歴代藩主の崇敬厚く勝見温泉に湯治の際には参詣したという。薬師堂の中にある京都の仏師の手による薬師如来像と，「宝永二年」と記された仏龕(ぶつがん＝仏像を入れる厨子)			○	
270	宝木観音堂子安観音像	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	彫刻	鳥取市気高町宝木	鳥取市気高町宝木		江戸時代後期、地方仏師作。像高34cmの寄木造り。			○	
271	本尊普賢菩薩像	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	彫刻	鳥取市気高町重高90正寿寺の末庵	鳥取市気高町重高90正寿寺の末庵		重高普賢堂の本尊、寄木造り高さ24cm。江戸時代初期の作			○	
272	石造観音菩薩像	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	彫刻	鳥取市気高町重高90正寿寺の末庵	鳥取市気高町重高90正寿寺の末庵		四ツ堂（辻堂）にあり、像高35cm、享保3年（1718年）9月18日の刻銘がある。			○	
273	伝亀井茲矩筆跡	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	古文書	鳥取市鹿野町寺内	鳥取市鹿野町寺内155-1 加知弥神社		加知弥神社所有鹿野城主亀井氏の筆跡と伝えられる古文書			○	
274	伝松平石見守輝澄筆跡	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	古文書	鳥取市鹿野町寺内	鳥取市鹿野町寺内155-1 加知弥神社		加知弥神社所有松平輝澄の筆跡と伝えられる古文書			○	
275	池田光仲寄進状	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	古文書	鳥取市鹿野町寺内	鳥取市鹿野町寺内155-1 加知弥神社		加知弥神社所有。寛永１０年（１６３３）国主池田光仲はあらためて社領３９石６斗９升３合を寄進した祈願状と寄進状			○	
276	鹿野城跡	市指定文化財	指定	市指定史跡	城跡	鳥取市鹿野町鹿野	鳥取市鹿野町鹿野		戦国時代の 山城鹿野城跡			○	
277	譲傳寺庭園	市指定文化財	指定	市指定名勝	庭園	鳥取市鹿野町今市39 譲伝	鳥取市鹿野町今市39 譲伝寺		1838年に造られた回遊式庭園。			○	
278	城山神社彫刻	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	彫刻	鳥取市鹿野町鹿野	鳥取市鹿野町鹿野		造営時期、棟梁、彫師などは伝わっていないようだが、その小振りな社殿には前後左右、数多くの素晴らしい彫刻が施されている。			○	
279	因幡民談（写本）	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	古文書	鳥取市鹿野町鹿野164雲龍寺	鳥取市鹿野町鹿野164雲龍寺		江戸時代に著された因幡国初の地誌「因幡民談記」（小泉友賢著）の最古の写本。雲龍寺			○	
280	雲板	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	工芸品	鳥取市鹿野町今市39 譲伝	鳥取市鹿野町今市39 譲伝寺					○	
281	鹿野筆槌	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	古文書	鳥取市鹿野町鹿野	鳥取市鹿野町鹿野164雲龍寺		藩政時代の鹿野の状況を知る文書。雲龍寺白妙著。享保2年（1736年）に書かれたのの			○	
282	愛宕起記	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	古文書	鳥取市鹿野町鹿野	鳥取市鹿野町鹿野					○	
283	井江耕宗・名和長年公絵	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	絵画	鳥取市鹿野町鹿野	鳥取県鳥取市鹿野町鹿野2888鹿野小学校		明治時代から昭和時代にかけての浮世絵師。	○	×	○	
284	井江耕宗・菅原道真公絵	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	絵画	鳥取市鹿野町鹿野	鳥取県鳥取市鹿野町鹿野2888鹿野小学校		明治時代から昭和時代にかけての浮世絵師。	○	○	○	
285	池田光仲寺領寄進状	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	古文書	鳥取市鹿野町鹿野	鳥取市鹿野町鹿野		雲龍寺蔵の池田光仲の寺領寄進状			○	
286	本長寺跡屋敷拝領状	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	古文書	鳥取市鹿野町鹿野	鳥取市鹿野町鹿野					○	
287	鹿野祭屋台	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	民俗資料	鳥取市鹿野町鹿野	鳥取市鹿野町鹿野		鹿野城跡にある城山神社の祭礼行事。江戸時代から約４００年の歴史がある。本祭りは２年に１回開かれ、京都祇園祭の屋台を模したという４台の屋台や武者行列、麒麟（きりん）獅子舞などが町内を練り歩く。			○	
288	河内はねそ踊り	市指定文化財	指定	市指定無形民俗文化財	民俗芸能	鳥取市鹿野町河内	鳥取市鹿野町河内		因幡の盆踊りは中世に始まった。念仏踊系「はねそ」が最も			○	
289	銅鏡	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	考古資料	鳥取市青谷町青谷	鳥取市青谷町青谷 個人		阿古山古墳群出土の仿製鏡			○	
290	嘉慶の碑	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	建造物	鳥取市青谷町青谷	鳥取市青谷町青谷		県内には数少ない板碑型供養塔である。建造は南北朝時			○	
291	甘藷代官彰徳碑	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	建造物	鳥取市青谷町青谷	鳥取市青谷町青谷		1856年建造のサツマイモの普及に努め飢饉の人々を救った井戸平左衛門の遺徳碑			○	
292	興宗寺の万霊等	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	彫刻	鳥取市青谷町青谷	鳥取市青谷町青谷4445		江戸時代後期、意欲的な創作活動を行った石工「川六」の初期の優れた作品。			○	
293	勝部岩力踊り	市指定文化財	指定	市指定無形民俗文化財	民俗芸能	鳥取市青谷町田原谷（旧勝部校区一円）	鳥取市青谷町田原谷（旧勝部校区一円）		江戸時代初期の鳥取城修築や城下拡張工事にかり出された農民たちが苦しい労役の慰みに歌い踊ったのが始まりとされる勝部地区独特の盆踊り歌。			○	
294	奥崎古墳群	市指定文化財	指定	市指定史跡	古墳	鳥取市青谷町奥崎	鳥取市青谷町奥崎		青谷町内最大級の円墳と方墳など１３基で構成される古墳群			○	
295	養郷10号墳	市指定文化財	指定	市指定史跡	古墳	鳥取市青谷町養郷	鳥取市青谷町養郷		石室の構造は旧気高郡に多く見られる独特の地域性がある「一種の箱型石棺型石室」の典型。			○	
296	清宗院の大シイ	市指定文化財	指定	市指定天然記念物	植物	鳥取市青谷町小畑	鳥取市青谷町小畑47		県下でも有数のスダジイの巨木			○	
297	子守神社の大イチョウ	市指定文化財	指定	市指定天然記念物	植物	鳥取市青谷町八葉寺	鳥取市青谷町八葉寺921		小守神社の境内になる樹齢５００年のイチョウ			○	
298	子守神社の岩窟	市指定文化財	指定	市指定天然記念物	地質鉱物	鳥取市青谷町八葉寺	鳥取市青谷町八葉寺921		三朝層群の輝石安山岩によって形成される岩窟			○	
299	礒江文書	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	古文書	鳥取市青谷町青谷	鳥取市青谷町青谷		當浦居村之儀（磯江文書）という地元伝来の古文書			○	
300	妙見山万福寺文書	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	古文書	鳥取市青谷町青谷	鳥取市青谷町青谷					○	
301	小畑の五輪塔	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	建造物	鳥取市青谷町小畑	鳥取市青谷町小畑		塔高154cmの日置肥前守の墓とされる五輪塔。			○	
302	八葉寺大門の六地蔵	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	彫刻	鳥取市青谷町八葉寺	鳥取市青谷町八葉寺		１枚の板石に3体の地蔵を浮き彫りにした珍しい地蔵。江戸期の石工「川六」作			○	
303	利川神社末社の彫刻	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	彫刻	鳥取市青谷町早牛	鳥取市青谷町早牛855		安政6年奉納の狛犬付き手水鉢 蓮の花型をした手水鉢に乗ったユニークな狛犬で、江戸時代末期に活躍した名石工・川六の製作			○	
304	幡井神社本殿の彫刻	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	彫刻	鳥取市青谷町絹見	鳥取市青谷町絹見802		社伝によれば、宝亀三年（７７２）の勧請。江戸初期には、幡屋大明神と呼ばれていた。鎮座地は、三度変遷し、寛政九年（１７９７）に現在地へ。			○	
305	青谷駅前傘踊り	市指定文化財	指定	市指定無形民俗文化財	民俗芸能	鳥取市青谷町青谷地区	鳥取市青谷町青谷地区		鹿野城主亀井茲矩公園の遺徳を偲んで音頭にし、剣道の型を振付けた勇壮な踊り。			○	
306	引地一石五輪塔	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	建造物	鳥取市青谷町絹見	鳥取市青谷町絹見					○	
307	因幡の菖蒲綱引き	民俗文化財	指定	重要無形民俗文化財	風俗慣習	鳥取市気高町水尻	鳥取市気高町水尻		菖蒲綱は、子供組によって伝承されている伝統行事	○	○	○	
308	因幡の菖蒲綱引き	民俗文化財	指定	重要無形民俗文化財	風俗慣習	鳥取市青谷町青谷	鳥取市青谷町青谷		菖蒲綱は、子供組によって伝承されている伝統行事	○	○	○	

【エリア外】

30	和蘭陀写水指	有形文化財	指定	県指定保護文化財	工芸品	鳥取市河原町河原	鳥取市河原町河原		因久山窯の杉本勘助（1789～1870）の作で、普通の因久山焼が模様がないのに対し、たばこの葉の模様があり、旅枕の形を写しているのが特徴	○	○	×	
117	長瀬の大シダレザクラ	記念物	指定	県指定天然記念物	植物	鳥取市河原町長瀬	鳥取市河原町長瀬		国道53号線から200mほど離れた住宅の庭に植えられたシダレザクラの巨樹。	○	○	×	
89	勢至菩薩立像	有形文化財	指定	県指定保護文化財	彫刻	鳥取市河原町北村	鳥取市河原町北村		勢至菩薩は、阿弥陀如来の脇侍で、宝冠の中に宝瓶をつけている。僅かに、衣文に、技法は拙いが、翻波式の名残を残しており、全体的にも量感があることから、平安時代後期の作と推定される。	○	○	×	
91	杣小屋拱堰堤	有形文化財	登録	国登録有形文化財	建造物	鳥取市河原町杣小屋	鳥取市河原町杣小屋		千代川水系曳田川の上流に築かれた砂防堰堤。石張谷積で堤高１０m。平面形が弧を描くアーチ式の形状が特徴。昭和２６年竣工。	○	○	×	

128	細尾の獅子舞	民俗文化財	指定	県指定無形民俗文化財	民俗芸能	鳥取市佐治町加茂	鳥取市佐治町加茂		鳥取市佐治町賀茂地神社の氏子細尾地区に古くから伝わる獅子舞。	○	○	×	
103	辰巳峠の植物化石産出層	記念物	指定	県指定天然記念物	地質鉱物	鳥取市佐治町栃原	鳥取市佐治町栃原		辰巳峠付近に分布する辰巳峠層は、約1,000万年前から400万年ほど前の中新世後期から鮮新世の地層であり、湖沼等による堆積物によるものと考えられている。	○	○	×	
156	余戸の雨乞踊	民俗文化財	指定	県指定無形民俗文化財	民俗芸能	鳥取市佐治町余戸	鳥取市佐治町余戸		行事は雨乞による慈雨に対するお礼として行われる。正式には、約100人の踊子が行列をつくって踊り場へと向かい、所要時間は8時間を要する。	○	○	×	
150	用瀬のひな送り	民俗文化財	指定	県指定無形民俗文化財	風俗慣習	鳥取市用瀬町	鳥取市用瀬町		用瀬では旧暦の三月節供に、「流しびな」と呼ばれる 立ちびな形式の男女一対の紙びなを、内裏びななどと一緒にひな壇に飾り、三日の夕方にこれを桟俵に載せ、千代川に流	○	○	×	
211	嶽古墳	市指定文化財	指定	市指定史跡	古墳	鳥取市河原町曳田	鳥取市河原町曳田		全長50mの前方後円墳、八上姫もしくは八上姫を中心とする豪族の墓という言い伝えもある。			×	
212	武田高信の墓	市指定文化財	指定	市指定史跡	墳墓	鳥取市河原町佐貫	鳥取市河原町佐貫		戦国時代から安土桃山時代にかけての因幡国の武将、武田高信の墓。			×	
215	国英神社の大イチョウ	市指定文化財	指定	市指定天然記念物	植物	鳥取市河原町片山854	鳥取市河原町片山854		樹高約30m、目通り4.84m、枝張り東西15m・南北23m樹齢450年以上の大銀杏。			×	
213	岩付のマツ	市指定文化財	指定	市指定天然記念物	植物	鳥取市河原町北村	鳥取市河原町北村		河原町河内の巨岩に松が植えつけられている。樹齢350年以			×	
160	和奈見と塩上の枕状溶岩	天然記念物	指定	県指定天然記念物	地質鉱物	鳥取市河原町和奈見地内千代川河床	鳥取市河原町和奈見 千代川河川敷		枕状溶岩は溶岩が水中を流れる際に形成されるもので、かつてこの地が海であり、海底での火山活動があったことを知る手かがりとなるものである。	×	○	×	
238	笹尾神社の当渡し	市指定文化財	指定	市指定無形民俗文化財	風俗慣習	鳥取市佐治町加瀬木	鳥取市佐治町加瀬木		頭神事は俗にお頭と呼ばれ、「お頭（おとう）」とは神事を行う人（頭人）、あるいはその家（頭屋）のことを指します。 お頭の行事とは、頭人・頭屋が務める行事全般をさしますが、 一般的には、頭人が神事を行い氏子を招いて直会（なおらい）をすること「お頭」といい、この頭人が次の頭人へお頭の			×	
239	大水の庚申塔	市指定文化財	指定	市指定史跡	考古資料	鳥取市佐治町加茂	鳥取市佐治町加茂		民間信仰の諸相を具現した仏塔である県下でも数すくなく、文化的価値が高い。			×	
230	佐治四郎の遺跡	市指定文化財	指定	市指定史跡	墳墓	鳥取市佐治町刈地	鳥取市佐治町刈地		佐治郷開発の祖といわれる佐治氏代々の居城の後とも佐治四郎の墓所とも伝えられる。			×	
236	センス踊り	市指定文化財	指定	市指定無形民俗文化財	民俗芸能	鳥取市佐治町刈地	鳥取市佐治町刈地		センスと手笠による新しい盆踊り(原形は大正初期)			×	
231	熊野神社遺跡とその附近	市指定文化財	指定	市指定史跡	社寺跡	鳥取市佐治町大井	鳥取市佐治町大井		熊野神社遺跡は、江戸時代前期の古文書、「稲葉民談記（いなばみんだんき）」「因幡誌（いなばし）」に記載され、熊野薬師、熊野三山信仰の遺跡として知られてきました。			×	
233	経塚の跡	市指定文化財	指定	市指定史跡	経塚	鳥取市佐治町大井	鳥取市佐治町大井		昭和19～20年ごろ見つかった経塚の跡			×	
240	山王谷の大栃	市指定文化財	指定	市指定天然記念物	植物	鳥取市佐治町中	鳥取市佐治町中		佐治町、山王林道に樹高30mの巨木。樹齢は推定500年くらいの大栃。			×	
235	西尾家の大キリシマ	市指定文化財	指定	市指定天然記念物	植物	鳥取市佐治町津無	鳥取市佐治町津無		佐治町の大キリシマ。			×	
237	大黒舞おどり	市指定文化財	指定	市指定無形民俗文化財	民俗芸能	鳥取市佐治町津無	鳥取市佐治町津無		民謡大黒舞唄をバックに軽妙な曲にのって踊る手踊り			×	
241	うるしかきの用具	市指定文化財	指定	市指定有形民俗文化財	工芸品	鳥取市佐治町福園	鳥取市佐治町福園		佐治町ではうるしの生産が始まったのは寛永年間といわれています。量・質ともに著名で最盛期の昭和7年には200貫（1貫：3.75kg）の生産を記録しています。			×	
246	佐治谷話（口承文芸）	市指定文化財	指定	市指定無形民俗文化財	民俗芸能	鳥取市佐治町福園	鳥取市佐治町福園		昔から鳥取県で語り継がれた民話が、さじ民話会の語り手によって語られる。ユーモラスな内容と方言で伝える口承文芸。			×	
232	山内与四郎左衛門の遺跡	市指定文化財	指定	市指定史跡	墳墓	鳥取市佐治町余戸	鳥取市佐治町余戸		かつて奥佐治一円を支配した山内与四郎左エ門の墓			×	
234	鳥居原の褶曲	市指定文化財	指定	市指定天然記念物	地質鉱物	鳥取市佐治町余戸	鳥取市佐治町余戸		この地層の褶曲は、佐治の地質、地層を理解すために学術上貴重。			×	
220	東光寺山経塚跡	市指定文化財	指定	市指定史跡	経塚	鳥取市用瀬町古用瀬	鳥取市用瀬町古用瀬		昭和51年に東光寺裏山より発見された経塚。			×	
224	東光寺経筒	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	考古資料	鳥取市用瀬町古用瀬	鳥取市用瀬町古用瀬		昭和51年に東光寺裏山より発見された鉄製経筒。			×	
219	景石城跡	市指定文化財	指定	市指定史跡	城跡	鳥取市用瀬町用瀬	鳥取市用瀬町用瀬		築城については不明。1356年ごろに記録があるが、それ以前の国侍の居城と考えられる。			×	
245	絹本著色釈迦十六善神の図	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	絵画	鳥取県鳥取市佐治町大井278	鳥取県鳥取市佐治町大井278昌福寺		室町時代後期の絹本。	○	×	×	
120	花籠祭	民俗文化財	選択	記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財	風俗慣習	鳥取市河原町・用瀬町・佐治町、八頭郡八頭町・智頭町	鳥取市河原町・用瀬町・佐治町、八頭郡八頭町・智頭町		鳥取市河原町・用瀬町・佐治町、八頭郡八頭町・智頭町にかけて広く分布する、花籠をつくって神社に奉納する祭礼。	○	×	×	
155	弓河内の大シダレザクラ	記念物	指定	県指定天然記念物	植物	鳥取市河原町弓河内	鳥取市河原町弓河内		シダレザクラの巨樹として、県内で有数のもの。	○	○	×	
218	青い目の人形	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	民俗資料	鳥取市河原町佐貫	鳥取市河原町佐貫	鳥取市河原町佐貫761-5 散岐小学校	昭和63 年散岐小学校にて発見された、昭和2年にアメリカからが友情を深める特使となって海を越えて来日した12,739体のうちの1体。			×	
214	三谷神社のシダレザクラ	市指定文化財	指定	市指定天然記念物	植物	鳥取市河原町三谷492	鳥取市河原町三谷492		河原町三谷の三谷神社の参道にあるシダレザクラの巨木。			×	
41	木下家住宅	有形文化財	指定	県指定保護文化財	建造物	鳥取市河原町布袋	鳥取市河原町布袋337		智頭往来の街道沿いに位置し、江戸初期には、鹿野城主亀井氏の本陣を勤めたと伝えられる旧家。	○	○	×	
136	三滝渓	記念物	指定	県指定名勝	渓流	鳥取市河原町北村	鳥取市河原町北村		曳田川上流、標高220mの権現の森から三滝不動滝まで標高差600m、延長4.5kmの渓谷。	○	○	×	
29	落河内のカツラ	記念物	指定	県指定天然記念物	植物	鳥取市河原町北村	鳥取市河原町北村		落河内から広域農道を三朝町方面に約1km、渓流沿いのカーブの内側にそびえている。	○	○	×	
28	落河内の大キリシマ	記念物	指定	県指定天然記念物	植物	鳥取市河原町北村605-3付近	鳥取市河原町北村605-3付近		本県にあるキリシマツツジとしては有数の巨樹	○	○	×	
107	陶芸［保持者：前田昭博］	無形文化財	指定	県指定無形文化財	工芸技術	鳥取市河原町本鹿　やなせ窯	鳥取市河原町本鹿282　やなせ窯		鳥取県内では現在30軒近くの窯元が存在しており、なかでも保持者として挙げる前田昭博氏は特に高い評価を受けてい	○	○	×	
14	因州佐治みつまた紙 ［保持団体：因州筆切れず紙保存会］	無形文化財	指定	県指定無形文化財	工芸技術	鳥取市佐治町加瀬木	鳥取市佐治町加瀬木		佐治谷での紙すきは、江戸初期までさかのぼり、明治に入ってからみつまた紙づくりが盛んになり、わが国有数のみつまた紙の産地となった。	○	○	×	
243	笹尾神社の薬師堂	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	建造物	鳥取市佐治町加瀬木1479	鳥取市佐治町加瀬木1479笹尾神社		創建は定かではないが安政年間ごろとの言い伝えがある薬師堂			×	
244	木造薬師如来坐像	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	彫刻	鳥取市佐治町加瀬木1479	鳥取市佐治町加瀬木1479笹尾神社		室町時代初期の木造曽木像で一木造りの坐像。			×	
46	口佐治神社の獅子舞	民俗文化財	指定	県指定無形民俗文化財	民俗芸能	鳥取市佐治町古市	鳥取市佐治町古市		毎年4月15日に近い日曜日にとり行われる「口佐治神社」の例祭日に舞われるこの獅子舞	○	○	×	
242	林泉寺の山門鐘楼	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	建造物	鳥取市佐治町高山296	鳥取市佐治町高山296		江戸時代にたてられた林泉寺の山門鐘楼			×	
96	田岡神社のツバキ樹林	記念物	指定	県指定天然記念物	植物	鳥取市佐治町津無	鳥取市佐治町津無404 田岡神社		この樹林は、標高300mの山地帯にあり、ヤブツバキやケヤキで構成され、ヤブツバキがその大部分を占めている。	○	○	×	

71	佐治の板笠製作用具及び製品	民俗文化財	登録	国登録有形民俗文化財	生産、生業に用いられるもの	鳥取市佐治町福園　佐治歴史民俗資料館	鳥取市佐治町福園24　佐治歴史民俗資料館		本件は、鳥取市佐治地区で江戸時代以来伝承されてきた、幅の狭い薄く剥いだ板のみで編む板笠製作に用いられた用具類のまとまりとして、地域的な特色がある。	○	○	×	
10	犬山神社社叢	記念物	指定	県指定天然記念物	植物	鳥取市用瀬町宮原	鳥取市用瀬町宮原275		籠山から伸びる尾根の末端（標高約120～180m）を覆うようにスダジイの大木が群生している。	○	○	×	
17	江波の三番叟	民俗文化財	指定	県指定無形民俗文化財	民俗芸能	鳥取市用瀬町江波	鳥取市用瀬町江波		毎年10月、江波神社例祭の当日、神社境内の回り舞台で演じられる。	○	○	×	
229	赤波川おう穴群	市指定文化財	指定	市指定天然記念物	地質鉱物	鳥取市用瀬町赤波	鳥取市用瀬町赤波		中生代末期(約8,000万年前)に形成された花崗岩が広く分布しているが、この花崗岩が赤波川により深く侵食されて、白い花崗岩が周囲の緑に映えて美しい渓谷が形成されている。			×	
163	用瀬はねそ				民俗芸能	鳥取市用瀬町用瀬	鳥取市用瀬町用瀬		戦国時代に鹿野から伝えられた盆踊り。	×	×	×	
222	東井神社キリン獅子頭	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	彫刻	用瀬町用瀬	鳥取県鳥取市用瀬町用瀬１０４－２鳥取市立用瀬郷土歴史館		文政十一子五月因府住仏師山本利助の作			×	
223	三角山神社本殿	市指定文化財	指定	市指定保護文化財	建造物	用瀬町用瀬	鳥取県鳥取市用瀬町用瀬９６		1845年に現本殿は建てられ、在原行平が参拝し献詠した。			×	